

平成 29 年度

川崎市健康安全研究所年報

第 5 号

(通巻第 53 号)



KAWASAKI CITY

川崎市健康安全研究所

(発行：平成 30 年度)

はじめに

昭和 27 年川崎市中央保健所内に設置された川崎市立衛生試験所は、昭和 45 年川崎区大島にて川崎市衛生研究所となり、以来 40 年余にわたって川崎市民の健康・安全・危機管理としての試験検査、調査研究を続けてきました。平成 25 年 3 月、川崎区殿町国際戦略拠点キングスカイフロント (Kawasaki Innovation Gateway at Skyfront) の一画に新築された川崎生命科学・環境研究センター(Life Science Environmental Research Center : LiSE 通称「ライズ」)へ移転し、名称を「川崎市健康安全研究所」と改め、平成 29 年度で 4 年を経ました。

川崎市健康安全研究所は新しいスタイルの地方衛生研究所として、各方面から視察・見学を頂いておりますが、平成 29 年度は 47 件 683 名、一般市民、専門分野のみならず学生や生徒の実習の一環として、また海外からの研修など、多くの方々にお出で頂き、当研究所及び地方衛生研究所というところが普段どのようなことをやっているかということについて、御紹介を続けています。大学からは医・看護・獣医・薬・臨床検査などの学部の見学・研修を定期的に引き受けています。また新築、移転などを計画している各地の地方衛生研究所から、当研究所での実施のノウハウとその後の運営などの視察に多数お出で頂いております。恒例となった「キングスカイフロント夏の科学イベント」では、今年は約 1200 人の親子連れや孫連れの皆様に楽しんで頂きました。

業務実績として、企画調整部門においては平成 25 年度から発足した内部評価委員会・外部評価委員会・倫理審査委員会などの動きが記載されております。当初は研究所職員にとって戸惑いの多かった、これらの諸審査なども、研究に当たって「行うべきもの」として受け入れられるようになりました。食品 GLP 業務については、川崎市の収去施設・検査施設の内部点検を行っています。また、本市における疫学調査研究の強化のため、全国に先駆けて発足させた実地疫学専門家養成プログラム・川崎版(Field Epidemiologist Training Program- Kawasaki: FETP-K) は、国立感染症研究所における FETP、厚生労働省における感染症危機管理専門家養成プログラム(IDES)などとの双方向の交流も行い、川崎市における疫学調査・感染症対策にかかわる人材育成の一環となっています。さらに市立川崎病院における臨床研修の一環として研修医の当研究所見学を定期的実施するようになり、医療と公衆衛生部門の連携強化の一步がスタートしました。

理化学部門、微生物部門では、日常的な調査研究のほか、突発的な健康危機事例への対応に備えています。平成 29 年には、川崎市内の幼稚園において 2 名の園児が立て続けに死亡するというたいへん痛ましい事例が発生しました。感染症に関する検索および疫学調査は当研究所が担当しましたが、流行が拡大するような感染症は否定的である結果が得られたところから、これを速やかに公表・説明し、市民の方々に生じた大きな不安を払拭することができました。突発事例においても、日常における調査、検査、研究において、医療機関・保健所支所・本庁などとの連携の重要性はいつでも強調されるところですが、本市においてはかなりスムーズに行えるようになってきていると考えております。

これらの研究所の機能強化と実行、進展は着実に進められておりますが、川崎市の関係各位・各部署の御理解と御協力、各地方衛生研究所等との連携、そして市民の方々の御理解の賜物であり、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

研究所職員諸君が獅子奮迅の努力を続けていることを本年も付記させていただくとともに、当研究所が、川崎市民の健康と安全、ひいては我が国そして世界の人々のための公衆衛生の向上にどれほど貢献していくか、そしてその様子を引き続き皆様にお伝えすることができるよう、職員一同精進を続けることを本年も改めてここに誓うものです。

川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦

歴代所長

福田 諄	昭和	45年	6月	～	昭和	49年	3月
杉原 正造(所長事務取扱)	昭和	50年	4月	～	昭和	50年	7月
本庄 茂敏	昭和	50年	8月	～	昭和	51年	10月
依田 源次(所長事務取扱)	昭和	51年	10月	～	昭和	52年	3月
長田 信	昭和	52年	4月	～	昭和	57年	1月
中村 武雄	昭和	57年	2月	～	昭和	61年	3月
和田 明	昭和	61年	4月	～	平成	2年	3月
吉澤 秀明	平成	2年	4月	～	平成	5年	3月
原田 忠彦	平成	5年	4月	～	平成	6年	3月
大村 敏郎	平成	6年	4月	～	平成	9年	3月
安藤 正義	平成	9年	4月	～	平成	11年	3月
佐藤 欣弥	平成	11年	4月	～	平成	13年	3月
黒澤 登	平成	13年	4月	～	平成	17年	3月
小川 正之	平成	17年	4月	～	平成	20年	3月
丸田 茂貴	平成	20年	4月	～	平成	22年	3月
妙摩 博	平成	22年	4月	～	平成	24年	3月
岡部 信彦	平成	24年	4月	～			

川崎市衛生研究所

(昭和45年6月 川崎市衛生試験所から名称変更・移転)



川崎市健康安全研究所

(平成25年3月 川崎市衛生研究所から名称変更・移転)



目次

第1章 概要

1 沿革	1
2 施設概要	2
(1) 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)施設概要	2
(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について	2
(3) 健康安全研究所施設概要	3
3 組織	4
(1) 組織と業務	4
(2) 事務分掌	5
(3) 人員配置	5
4 予算及び決算	6
5 学会参加並びに視察対応等の実績	7
(1) 学会・研究会等出席実績	7
(2) 講習会・研修会等受講実績	9
(3) 会議等出席実績	12
(4) 講師派遣実績	18
(5) 研修指導実績	20
(6) 視察・見学受け入れ実績	22
(7) 研修報告会開催実績	24
(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2017」への出展	26

第2章 業務実績

1 企画調整部門	27
(1) 企画調整担当	29
(2) 感染症情報センター担当	29
2 理化学部門	34
(1) 食品担当	34
(2) 水質・環境担当	38
(3) 残留農薬・放射能担当	42
3 微生物部門	58
(1) 消化器・食品細菌担当	58
(2) 呼吸器・環境細菌担当	63
(3) ウイルス・衛生動物担当	65

第3章 試験検査

1 月別検査件数	70
2 依頼別・項目別検査件数	73
3 食品別検査項目内訳	78
(1) 食品別検査項目内訳(理化学検査)	78
(2) 食品別検査項目内訳(食品細菌検査)	79
4 水質別検査項目内訳	80

第4章 調査研究

1 平成29年度調査研究課題一覧	81
2 調査研究報告等実績一覧	83
(1) 平成29年度学会発表実績(口演発表)	83
(2) 平成29年度学会発表実績(示説発表)	84
(3) 平成29年度学会発表実績(誌上発表)	85
(4) 平成29年度論文掲載実績	85
(5) 平成29年度行政報告等実績	86
(6) 平成29年度その他執筆実績	87
(7) 平成29年度表彰等受賞実績	89
3 調査研究報告	90

第5章 職員に関する事項

1 人事記録	100
2 職員名簿	101

【第1章 概要】

1 沿革

年月	事項
昭和27.1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所が設置される。庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用。
昭和27.2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により「庶務係」及び「試験係」が設置される。
昭和36.7	市内に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望に応じて、川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始。
昭和36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
昭和37.9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
昭和40.4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
昭和42.7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
昭和44.4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
昭和44.9	川崎市大島5丁目5番地2(元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地)に庁舎新築起工する。
昭和45.5	新庁舎竣工する。
昭和45.6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日条例第14号)が新たに施行される。(名称変更と設置場所の変更) 川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。 微生物課(①庶務係、②細菌検査係、③臨床検査係、④ウイルス検査係) 理化学課(①食品検査係、②水質検査係、③環境検査係)
昭和45.6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式が挙行される。
昭和46.3	川崎市衛生研究所条例の一部を改正する条例が公布される。(昭和46年3月23日条例第6号)
昭和46.8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日訓令第14号)が施行される。
昭和46.10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日規則第71号)により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
昭和47.4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治法第252条の19第1項)
昭和48.12	公害研究所が新庁舎建設に伴い移転する。
昭和50.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(昭和50年4月1日条例第6号) 川崎市衛生研究所条例施行規則が全面改正施行される。(昭和50年4月1日規則第21号)
昭和50.7	4階に実験室を増築する。
昭和61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元.3	1階に安全実験室を設置する。
平成3.3	電子顕微鏡室を設置する。
平成4.3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
平成4.4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
平成4.5	主査(衛生動物検査担当)及び主査(残留農薬検査担当)を増設する。
平成6.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第13号)
平成6.7	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第6号) 手数料(第7条関係別表)を大幅に改定する。
平成9.5	神奈川県から医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
平成10.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成10年3月24日条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
平成12.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成12年3月24日条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
平成16.2	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成15年12月25日条例第48号)
平成16.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成16年3月24日条例第8号) 川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成18年3月31日条例第34号)
平成20.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成20年3月25日条例第20号)

年月	事項
平成21.4	組織再編により第2類事業所となる。 衛生動物検査部門をウイルス検査部門に統合する。
平成24.4	組織再編により第1類事業所となる。 副所長及び企画調整担当を設置する。 環境検査部門を水質検査部門に統合する。
平成25.2	川崎区殿町3丁目25番13号川崎生命科学・環境研究センター2階に移転する。
平成25.3	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部改正施行される。(名称等の変更) 組織改正により衛生研究所を再編し、健康安全研究所を設置する。 感染症情報センターを健康安全研究所内に設置する。
平成25.4	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部施行される。(手数料の改訂) 企画調整担当課長を設置する。

2 施設概要

(1) 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）施設概要

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE; Life Science and Environment research center)は、市の研究施設である「川崎市健康安全研究所」及び「川崎市環境総合研究所」に加え、民間の研究施設が入居した施設であり、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける、ライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点として建設された。

土地は川崎市、建物は大成建設株式会社が保有し、施設維持管理は大成有楽不動産株式会社が実施するPP(Public Private Partnership)方式が採用されている。

環境に配慮した設計とされており、太陽熱や空気熱を利用した給湯システム、太陽光パネルを用いた電力供給、外壁へのダブルウォール(二重壁)使用による断熱性、メンテナンス性向上等の様々な環境対策が施されている。

表1 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）建物概要

所在地	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-13
敷地面積	6,999.93㎡
建築面積	3,110.63㎡
延床面積	11,406.09㎡(うち健康安全研究所使用部分2329.38㎡)
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
規模	地上4階、塔屋1階(うち健康安全研究所として2階フロアを使用)
竣工年月	2012年12月
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社横浜支店
建物所有	大成建設株式会社
建物維持管理	大成有楽不動産株式会社
主な施設	1F カフェ、防災センター、会議室、書庫、セミナー室等 2F 川崎市健康安全研究所 3F 川崎市環境総合研究所 4F 民間ラボ

(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について

本研究所は平成25年3月、川崎区大島5丁目から、川崎区殿町3丁目の川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階に移転開設し、名称が「川崎市衛生研究所」から「川崎市健康安全研究所」に変更された。

移転時には、企画調整担当の新設に加え、感染症情報の収集・解析・発信を行う感染症情報センター機能を

健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健所)から移管するなど、移転開設に併せて研究所機能の強化が図られた。

研究所の役割は、川崎市の衛生行政を支える科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、情報発信、研修指導の4本柱を基盤とし、市民の健康で安全な暮らしを支えることを目的としているほか、実験動物中央研究所をはじめとする殿町地区内外の研究機関との共同研究にも力を注いでいる。

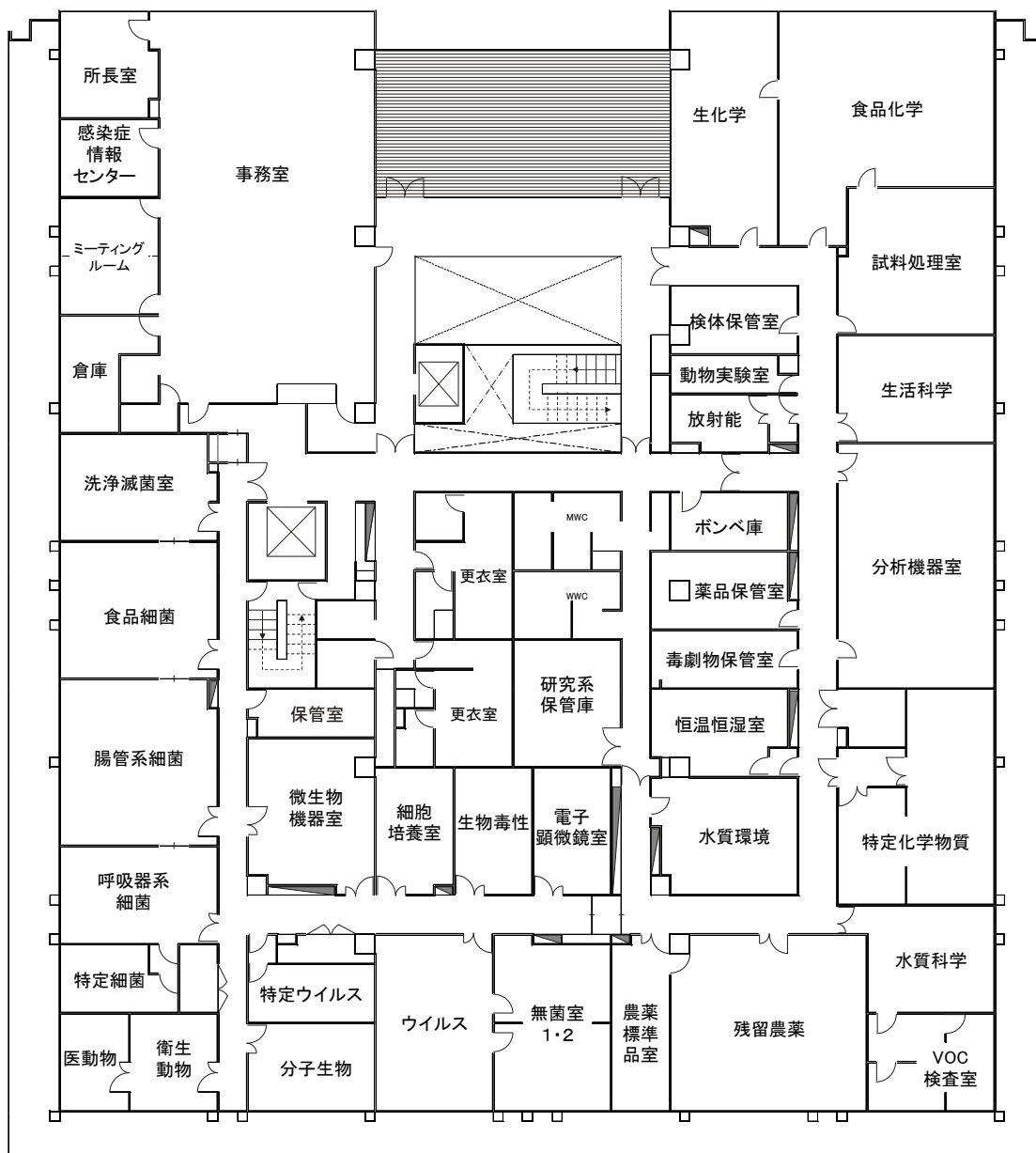
(3) 健康安全研究所施設概要

研究所施設は川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)の2階フロア全体を占め、理化学エリア、微生物エリアの他、事務室及び感染症情報センターの4エリアで構成されている。

旧施設の衛生研究所では、事務担当以外の職員の事務机はそれぞれの検査室に配置されていたが、健康安全研究所では全ての職員について、事務室に事務机を配置し、情報の共有化が図りやすい環境となった。

また、それぞれのエリアではICカードによる入室管理が行われている。特に理化学エリア及び微生物エリアは2次セキュリティのフロアとなっており、また入室の権限についても個人ごとに別々に付与されているため、たとえ職員であっても不要な諸室には入室できないようになっている。

図1 健康安全研究所図面(川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階)



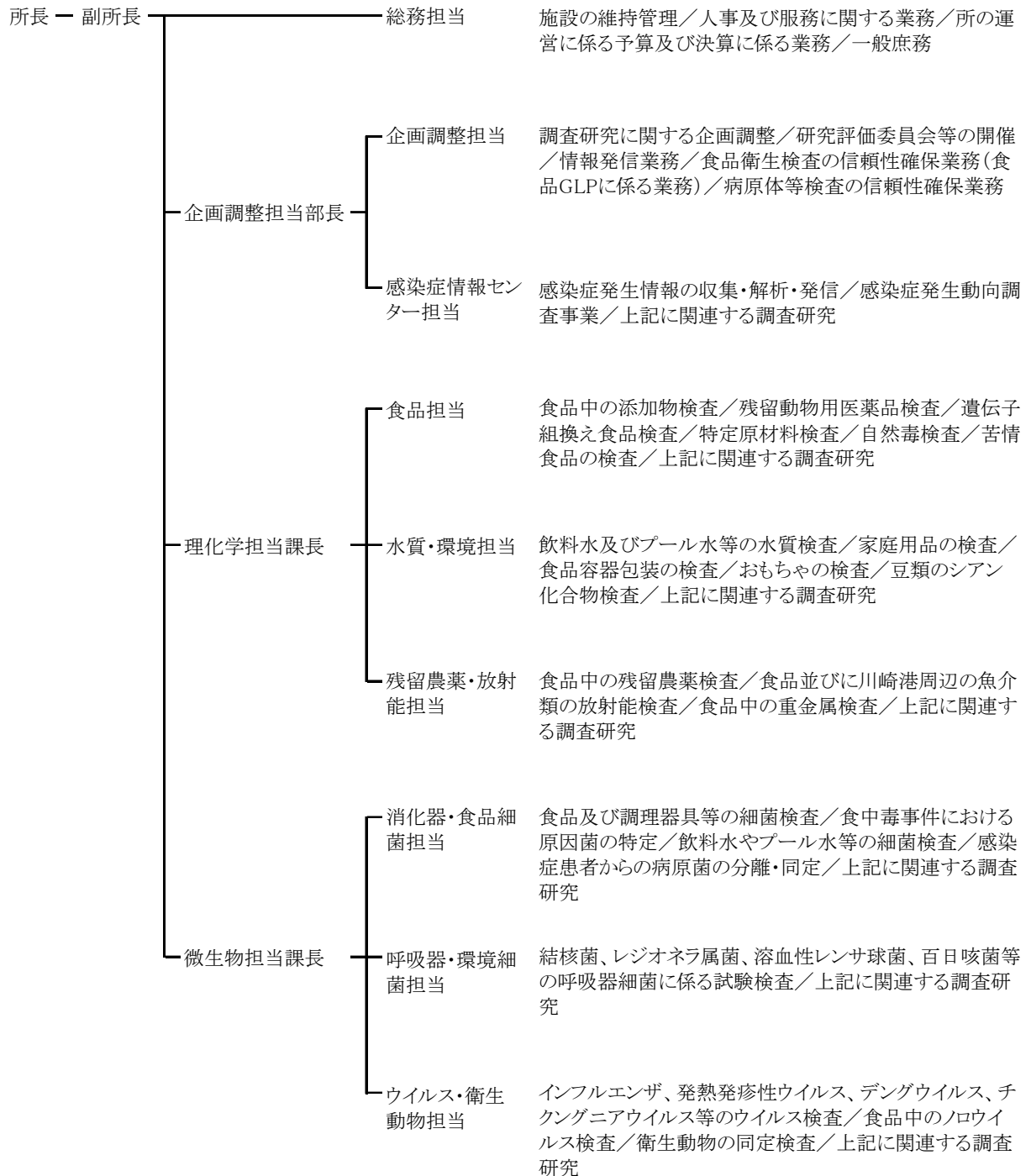
3 組織

(1) 組織と業務

本研究所の組織は、所長のもとに 9 担当で構成されている。

組織体制と各担当の主な業務を図 2 に示す。

図2 組織図



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和 51 年 4 月 30 日規則第 39 号)第 3 条の事務分掌は、次のとおりとする。

健康安全研究所

- ア 所の維持管理に関すること。
- イ 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
- ウ 公衆衛生従事者の研修に関すること。
- エ 感染症情報センターに関すること。
- オ 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
- カ 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
- キ 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
- ク その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

(3) 人員配置

平成 29 年 4 月 1 日現在の人員配置を表 2 に示す。

表2 人員配置

		職種						総数
		医師	一般事務	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学	
所長		1						1
副所長			1					1
総務			4		1			5
企画調整	担当部長	1						1
	企画調整			1			1	2
	感染症情報センター			3				3
理化学	担当課長			1				1
	食品				4		1	5
	水質・環境				2	1	2	5
	残留農薬・放射能				2	2		4
微生物	担当課長					1		1
	消化器・食品細菌			1	2	2		5
	呼吸器・環境細菌			1	1	1		3
	ウイルス・衛生動物			2	1	2		5
合計		2	5	9	13	9	4	42

4 予算及び決算

平成 29 年度の歳入及び歳出をそれぞれ表 3 及び表 4 に示す。

表3 歳入

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
使用料及び手数料			
手数料			
健康福祉手数料	保健衛生施設手数料	102,829,000	86,209,670
諸収入			
雑入			
雑入	健康福祉費雑入	15,082,000	14,590,960

表4 歳出

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
健康安全究所費		380,167,000	360,956,829
	報酬	2,332,000	2,331,600
	共済費	835,000	826,597
	賃金	1,055,000	876,216
	報償費	297,000	132,000
	旅費	1,801,000	1,375,684
	需用費	59,458,000	46,316,403
	消耗品費	54,585,000	44,248,235
	燃料費	12,000	22,337
	印刷製本費	1,017,000	723,718
	光熱水費(ガス料)	39,000	41,039
	修繕費	3,805,000	1,281,074
	役務費	1,628,000	1,357,086
	電信電話料	195,000	171,665
	郵便料	437,000	393,045
	運搬料	5,000	47,165
	手数料	991,000	745,211
	筆耕翻訳料	0	0
	委託料	38,780,000	34,559,392
	使用料及び賃借料	231,615,000	230,058,102
	備品購入費	3,491,000	3,480,948
	負担金補助及び交付金	38,875,000	39,642,801

5 学会参加並びに視察対応等の実績

(1) 学会・研究会等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H29.4.6～8	第91回日本感染症学会総会・学術講演会等	京王プラザホテル	岡部、三崎、本間、湯澤、丸山、窪村、安澤、新田
H29.4.14～16	第120回日本小児科学会学術集会	グランドプリンスホテル新高輪他	岡部、三崎
H29.5.11～14	第14回アジア・大洋州小児神経学会	ヒルトン福岡シーホーク	三崎
H29.5.22	第27回感染研シンポジウム	国立感染症研究所	丸山、新田
H29.5.27～28	第58回日本臨床ウイルス学会	長崎大学 坂本キャンパス	岡部、三崎、丸山、駒根、池田
H29.5.31	日本水環境学会シンポジウム	東京大学 本郷キャンパス 福武ホール	石丸
H29.6.1～2	日本食品化学学会第23回学術大会	伊勢志摩ロイヤルホテル	赤星
H29.6.9	日本食品衛生学会総会シンポジウム	牛込笹笥区民ホール	橋口
H29.6.22	日本小児呼吸器ウイルス研究会	京王プラザホテル	岡部
H29.6.27～28	衛生微生物技術協議会第38回研究会	タワーホール船堀	岡部、三崎、松尾、湯澤、丸山、淀谷、松島、窪村、佐々木、安澤、清水(智)、新田
H29.7.7	日本マイコキシン学会第80回学術講演会	パルテノン多摩	橋口
H29.7.7	第54回アイソトープ・放射線研究会発表会	東京大学	岸、佐野
H29.7.20	AOACI JS第20回記念年次大会	品川区立総合区民会館 きゅりあん	岸
H29.8.31～9.1	第40回農薬残留分析研究会	大妻女子大学 千代田キャンパス	江崎
H29.9.2	第82回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	岡部、松尾、湯澤、丸山、池田、安澤、清水(智)、新田
H29.9.28	薬剤耐性 (AMR) シンポジウム	日本橋ライフサイエンスハブ	三崎
H29.9.28～29	第32回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部ウイルス研究部会	横浜市衛生研究所	岡部、清水(英)、松島、若菜
H29.10.5～6	第38回日本食品微生物学会学術総会	あわぎんホール	安澤
H29.10.21～22	第49回日本小児感染症学会総会・学術集会	ホテル日航金沢他	岡部、三崎、丸山
H29.10.24～26	第65回日本ウイルス学会学術集会	大阪府立国際会議場	清水(英)、清水(智)
H29.10.25～27	日本水道協会平成29年度全国会議	サンポートホール高松	高居
H29.10.27～28	第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会	長崎ブリックホール	岡部
H29.10.31～11.2	第76回日本公衆衛生学会総会	鹿児島県文化センター他	三崎、丸山、池田

H29.11.9～10	第113回日本食品衛生学会学術講演会	タワーホール船堀	赤星、鏡淵
H29.11.14	AMRワンヘルス東京シンポジウム	笹川記念会館	丸山
H29.11.17	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第7回公衆衛生情報研究部会・総会	地方職員共済組合栃木県職員会館 ニューみくら	三崎、丸山、池田、新田
H29.11.18- H29.11.19	台湾小児感染症学会学術会議	台北	岡部
H29.11.21～22	第54回全国衛生化学技術協議会年会	奈良春日野国際フォーラム	福田、橋口、岸、赤星、牛山
H29.11.24	全国疫学情報ネットワーク構築会議	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、池田、新田
H29.11.27	ワンヘルスに関する連携シンポジウム	日本医師会大講堂	新田
H29.11.30	第63回神奈川県公衆衛生学会	横浜情報文化センター	岡部、三崎、新田
H29.12.1	平成29年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会	滋賀県庁	橋口
H29.12.1	第15回食品安全フォーラム	日本薬学会会長井記念ホール	佐野
H29.12.2～3	第21回日本ワクチン学会学術集会	福岡国際会議場	岡部、三崎、丸山
H29.12.2～3	日本性感感染症学会第30回学術大会	京王プラザホテル札幌	池田、新田
H29.12.12	第17回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会	ソリッドスクエアホール	岡部、三崎
H30.1.10	バイオロジクスフォーラム第15回学術集会	文京シビックホール	岡部
H30.1.25～26	第31回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	国立保健医療科学院	岡部、三崎、石丸、丸山、池田、新田
H30.2.9～11	第29回日本臨床微生物学会学術集会	長良川国際会議場	岡部、松尾、本間、原、安澤
H30.2.15～16	第30回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会	長野市生涯学習センター	岡部、三崎、松尾、本間、丸山、湯澤、淀谷、佐々木、新田
H30.2.16	平成29年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第30回理化学研究部会研究会	神奈川県総合医療会館	橋口、石丸、佐藤(英)、安宅、荒木、江崎
H30.2.18	第18回食物アレルギー研究会	パシフィコ横浜	赤星
H30.2.18	第9回予防接種に関する研究報告会	新大宗ビルFORUM8	岡部、三崎、丸山、池田、清水智、新田
H30.2.23～24	第33回日本環境感染学会総会・学術集会	グランドプリンスホテル新高輪他	岡部、三崎、丸山、池田、新田
H30.2.24	第35回川崎市医師会医学会	川崎市医師会館	三崎
H30.3.5	地域保健総合推進事業発表会	都市センターホテル	岡部、三崎
H30.3.9	平成29年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学情報部会	横浜市衛生研究所	福田、岸、佐野、赤星、牛山、高居、鏡淵
H30.3.10	第83回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	岡部、三崎、松尾、本間、湯澤、谷口、丸山、駒根、淀谷、佐々木、池田、清水(智)、新田

H30.3.15～17	第52回日本水環境学会年会	北海道大学工学部	牛山
H30.3.23	新興再興事業・J-GRID合同シンポジウム	国立感染症研究所	丸山

(2) 講習会・研修会等受講実績

年月日	名称	場所	参加者
H29.4.6	GMOセミナー	ロシュ・ダイアグノスティック ス(株)本社ラボ	佐藤(英)
H29.4.20～21	地方衛生研究所サーベイランス業務従事者研修	国立感染症研究所	丸山、池田、新田
H29.4.21	水道水質分析セミナー(ウォーターズ)	日本ウォーターズ株式会 社(品川区)	高居
H29.4.26	水道水質・環境分析セミナー(アジレント)	ソラシティカンファレンス ルーム(千代田区)	石丸、牛山
H29.5.11	感染症媒介蚊対策研修会(座学)	中原区役所	丸山、池田、新田
H29.5.15	危機管理・報道対応研修	川崎市役所第4庁舎	本間、橋口
H29.5.19	病原体等の包装・運搬講習会	国立感染症研究所 戸山 庁舎	湯澤
H29.5.24	神奈川情報セキュリティクラウド(KSC)操作説明会	川崎市役所第4庁舎	江崎
H29.5.26	平成29年度信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省	谷口、遠藤
H29.5.29	感染症媒介蚊対策研修会(実技)	鵬図商事株式会社	池田、新田
H29.6.16	第4回FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザPio	福田、谷口
H29.6.16	結核公開研修会	神奈川県衛生研究所	淀谷
H29.6.22	平成29年度第1回公衆衛生専門技術研修	神奈川県衛生研究所	佐野
H29.6.23	職員研修会(感染症カンファレンス)	川崎市立多摩病院	岡部
H29.6.26	平成29年度地方衛生研究所現場の会・研究会	東京都健康安全研究セン ター	淀谷
H29.6.26～6.28	バイオセーフティ技術講習会	幕張セミナーハウス BMSA・環文研研究棟	本間
H29.6.30	マイクロピペットセミナー	健康安全研究所	微生物及び理化学検査担 当者
H29.7.5	健康福祉局現任職員研修	川崎市産業振興会館	橋口
H29.7.10	島津フードアナリシスフォーラム in 横浜 2017	ビジョンセンター横浜	佐藤(英)、荒木
H29.7.21	特別管理産業廃棄物責任者講習会	Lプラザ(横浜市中区)	高居
H29.7.30～8.5	ポリオウイルス保有施設に関する査察担当者研修会	国立感染症研究所 戸山 庁舎	清水(英)

H29.8.1	川崎市感染症危機管理研修会	川崎市医師会館	三崎、丸山、池田、新田
H29.8.18	学校等欠席者・感染症情報システム研修会	ネクストワークス・ラーニングセンター	丸山、池田、新田
H29.8.23	肝炎対策研修会	第3庁舎	丸山、清水(智)
H29.8.30	新型インフルエンザ対策勉強会	国立感染症研究所	岡部
H29.8.30	投込み資料作りワークショップ研修	JAセレスみなみビル	赤星
H29.9.7	JASIS2017 食衛学会分析セミナー	幕張メッセ	江崎
H29.9.13	Tonomachi 若手研究会	LiSE大会議室	赤星
H29.9.13	キャリアデザイン研修	川崎市役所第4庁舎	鏡淵
H29.9.14～15	薬剤耐性菌の検査に関する研修(応用コース)	国立感染症研究所	窪村
H29.9.15	残留農薬分析セミナー 2017年度	明治薬科大学 清瀬キャンパス	佐野
H29.9.29	結核指定医療機関医師等研修会	川崎市医師会館	丸山、池田、新田
H29.10.5	高圧ガス消費事業者保安講習会	かわさき保育会館	高居
H29.10.10	埼玉県衛生研究所研修会(食品細菌検査の精度管理と動向)	埼玉県衛生研究所	佐々木
H29.10.12	感染症危機管理研修会	国立感染症研究所	池田
H29.10.13	第33回食品化学シンポジウム	東京電機大学 東京千住キャンパス	佐藤(英)
H29.10.13	新型インフルエンザ等に関するワークショップ	川崎市医師会館	岡部、三崎、丸山
H29.10.16	平成29年度「タイムマネジメント」研修	神奈川県市町村研修センター	鏡淵
H29.10.17	平成29年度女性活躍推進研修	川崎市役所第4庁舎	赤星
H29.10.25	情報化研修(ICTリテラシー編)	川崎市役所第4庁舎	佐野
H29.10.25	嘔吐物処理対策研修	中原区役所	新田
H29.10.27	食品に関するリスクコミュニケーション(放射性物質)	東京文具共和会館	荒木
H29.10.27	平成29年度動物由来感染症対策技術研修会	星陵会館ホール	原、新田
H29.10.31	厚生労働省動物実験基本指針の順守徹底のための研修会	厚生労働省中央合同庁舎	福田、赤星
H29.11.2	神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学情報部会第1回勉強会(食品中の苦情検査に係る勉強会)	横浜市衛生研究所	福田、佐野、赤星、牛山
H29.11.6～24	細菌研修	国立感染症研究所	佐々木
H29.11.10	HPLCセミナー(ジーエルサイエンス)	小田原箱根商工会議所	安宅、江崎

H29.11.10	健康安全研究所微生物担当職員研修会	川崎市役所第3庁舎	岡部、三崎、松尾、本間、湯澤、丸山、淀谷、松島、窪村、佐々木、安澤、池田、新田
H29.11.13	平成29年度女性活躍推進研修	川崎市役所第3庁舎	福田
H29.11.14	TOKYOAMR one-health Conference	笹川記念会館 国際会議場	安澤
H29.11.16	オフフレーバー研究会第7回勉強会	東京家政大学 板橋キャンパス	荒木
H29.11.20	神奈川県感染症担当者研修会	神奈川県衛生研究所	丸山、新田
H29.11.21	平成29年度日本水道協会関東地方支部水質研究発表会	浦和コミュニティセンター	安宅
H29.11.27	ワンヘルスに関する連携シンポジウムー薬剤耐性(AMR)ー	千葉市総合保健医療センター	松尾、本間
H29.11.29	食品表示研修	川崎市役所(ソリッドスクエア)	佐藤(英)
H29.12.1	第5回FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザPio	岸
H29.12.1	ガスクロマトグラフィー研究会特別講演会	北とぴあ	牛山
H29.12.6	平成29年度第1回横浜市衛生研究所衛生技術研修会	横浜市衛生研究所	福田、松尾、谷口、丸山、高居、松島、遠藤、安澤
H29.12.6	神奈川県食品衛生監視員研修	神奈川県衛生研究所	新田
H29.12.11	平成29年度宮前区役所第8回職場集合研修	宮前区役所	橋口
H29.12.11～12	第14回モニタリング技術基礎講座	横浜ワールドポーターズ	岸
H29.12.13～15	平成29年度神奈川県保健衛生研修	神奈川県衛生研究所	阿部
H29.12.21	一類感染症受け入れ体制整備研修会	フクラシア八重洲	三崎
H29.12.22	相模原市保健所食品衛生に関する研修	ウェルネスさがみはら	丸山
H30.1.10～11	平成29年度神奈川県保健衛生研修	神奈川県衛生研究所	赤星
H30.1.12	平成29年度神奈川県保健衛生研修	神奈川県衛生研究所	牛山
H30.1.12	埼玉県衛生研究所研修会(信頼性の高い試験結果を提供するために)	埼玉県衛生研究所	佐々木
H30.1.18	平成29年度環境衛生監視員研修(専門コース)	神奈川県衛生研究所	原
H30.1.19	結核担当者研修会	神奈川県衛生研究所	湯澤、淀谷
H30.1.23	神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学情報部会第2回勉強会及び川崎市健康安全研究所理化学担当職員研修会	LiSE大会議室他	福田、橋口、石丸、小林、佐藤(英)、佐野、赤星、栗田、安宅、高居、牛山、荒木、江崎、鏡淵
H30.1.26	放射線の健康影響等に関する研修会	神奈川県衛生研究所	佐野
H30.1.26	衛生理化学分野研修会	東京都健康安全研究センター	江崎

H30.2.1	平成29年度生活衛生関係技術担当者研修会	厚生労働省2階講堂	原
H30.2.5	テロ対策対応訓練視察	JR川崎駅北口通路	福田
H30.2.6	次期感染症サーベイランスシステム研修会	国立感染症研究所	丸山
H30.2.8	新型インフルエンザ等対策研修会	ソリッドスクエアホール	三崎、丸山、池田、新田
H30.2.18	第9回予防接種に関する研究報告会	新大宗ビルFORUM8	松尾、清水(智)
H30.2.20	平成29年度水道水質精度管理研修会	厚生労働省	牛山
H30.2.21	平成29年度食品衛生関係事例検討会	ソリッドスクエア東館3階	佐々木
H30.2.23	第31回環境計量技術事例発表会	横浜市金沢産業振興センター	福田
H30.2.27～28	平成29年度希少感染症診断技術研修会	国立感染症研究所	本間、駒根、佐々木、若菜
H30.2.27～3.2	平成29年度神奈川県保健衛生研修	神奈川県衛生研究所	佐野
H30.2.28	神奈川県水道水質検査機関技術研修会	神奈川県総合医療会館	牛山
H30.3.1	国際結核セミナー	ヤクルトホール	淀谷
H30.3.2	全国結核対策推進会議	ヤクルトホール	原
H30.3.8	平成29年度神奈川県保健衛生研修	神奈川県衛生研究所	高居
H30.3.9	川崎区感染症対策関係職員研修会	川崎区役所	丸山
H30.3.14	2017年度レジオネラ属菌検査セミナー	文京シビックホール	原
H30.3.15	テロ災害想定大規模総合訓練視察	富士通スタジアム川崎	福田、佐野、赤星
H30.3.20	国立保健医療科学院(食品衛生危機管理)復命研修	ソリッドスクエア会議室	橋口
H30.3.23	腸管出血性大腸菌の遺伝子型検査体制の整備及び研修会	厚生労働省内会議室	佐々木

(3) 会議等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H29.4.1～3	日本小児科学会JPS・アメリカ小児科学会AAP予防接種会議	ロサンゼルス	岡部
H29.4.19～21	WHO西太平洋地域における麻疹風疹根絶に関する専門家会議	マニラ	岡部
H29.4.24	日本ワクチン学会理事会	AP品川アネックス	岡部
H29.4.25	北里大研究教育評価委員会	北里大学 白金キャンパス	岡部
H29.4.26	中東呼吸器症候群(MERS)対策専門家会議	厚生労働省	岡部

H29.4.27	予防接種基本方針分科会	厚生労働省	岡部
H29.4.27	第8回麻疹排除認定会議	厚生労働省	岡部、三崎
H29.4.28	日本医師会感染症予防接種委員会	日本医師会館	岡部
H29.5.8	川崎市・東邦大学地域感染症カンファレンス	東邦大学医学部 大森 キャンパス	岡部
H29.5.9	地方衛生研究所全国協議会第1回理事会・総務委員会	東京都健康安全研究セン ター	岡部
H29.5.15	厚生科学審議会予防接種副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H29.5.17	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	TKPガーデンシティ永田 町	岡部
H29.5.22	健康危機管理情報支援事業実行委員会	国立保健医療科学院	三崎
H29.5.22～23	平成29年度日本医療研究開発機構(竹田班)第1回班会議	国立感染症研究所 戸山 庁舎/村山庁舎	岡部、駒根、清水(智)
H29.5.23	第9回麻疹排除認定会議	厚生労働省	岡部、三崎
H29.5.23	予防接種基本方針分科会等	厚生労働省	岡部
H29.5.23	木村小班会議	国立感染症研究所	岡部
H29.5.24	食品安全委員会微生物ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部
H29.5.24	平成29年度厚生労働科学研究 器具・容器包装研究班 第1回班会議	国立医薬品食品衛生研究 所	高居、牛山
H29.5.25	黒田班会議	国立感染症研究所	岡部、本間、安澤
H29.5.25	東京オリンピックにおける感染症サーベイランス体制等打ち 合わせ	厚生労働省	丸山
H29.5.25	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H29.5.29	新型インフルエンザ対策小委員会	厚生労働省	岡部
H29.5.29	平成29年度日本医療研究開発機構(黒田班)第1回班会議	国立感染症研究所 戸山 庁舎	岡部、本間、安澤
H29.5.31	平成29年度厚生労働科学研究(前川班)第1回班会議	国立感染症研究所 戸山 庁舎	湯澤、淀谷
H29.6.1	公衆衛生情報研究協議会第1回理事会・地方衛生研究所 全国所長会	厚生労働省	岡部
H29.6.2	平成29年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会・第一回 ブロック長会議	東京都健康安全研究セン ター	岡部
H29.6.6～8	平成29年度日本医療研究開発機構(黒田班)第1回班会議	国立感染症研究所 村山 庁舎	清水(英)、窪村、清水 (智)
H29.6.7～8	WHOワクチンの安全性に関する国際諮問委員会	ジュネーブ	岡部
H29.6.13～16	予防接種及びワクチンで予防可能な疾患に関する技術諮 問会議	マニラ	岡部、三崎
H29.6.14	平成29年度厚生労働科学研究 食品防御研究班 第1回 食品防御対策検討会	TKP新橋カンファレンスセ ンター	赤星、荒木
H29.6.14	平成29年度第1回神奈川県外部精度管理調査委員会	神奈川県総合医療会館	石丸

H29.6.18	平成29年度日本医療研究開発機構(大石班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山
H29.6.19	厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H29.6.21	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターとの共同研究に関する打ち合わせ	LiSEセミナールーム	福田、石丸、高居
H29.6.22	新型インフルエンザ等対策有識者会議、医療・公衆衛生に関する分科会	厚生労働省	岡部
H29.6.23	首都圏地方感染症情報センター連絡会	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、池田
H29.6.26	平成29年度感染症対策担当者情報共有会議	ソリッドスクエア西館12D会議室	原、佐々木、清水(智)
H29.6.28	第1回結核・エイズ対策事業検討会	JAセレスみなみ 会議室	湯澤
H29.6.29	第15回新型インフルエンザ等対策有識者会議	全国都市会館	岡部
H29.6.29	神奈川県公衆衛生協会川崎支部理事会及び総会	川崎休日急患診療所	中島
H29.6.29	平成29年度第1回神奈川県・政令5市合同精度管理専門委員会	神奈川県総合医療会館	湯澤
H29.6.30	第71回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部総会	千葉市総合保健医療センター	中島
H29.7.3～7	WHOポリオ根絶監視委員会	パリ	岡部
H29.7.7	厚生労働科学研究(松井班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山
H29.7.10	第1回県・市感染症情報センター連絡調整会議	神奈川県衛生研究所	丸山
H29.7.11	平成29年度日本医療研究開発機構(森班)研究班会議	横浜市衛生研究所	岡部
H29.7.12	平成29年度川崎市感染症対策協議会	川崎市医師会館	三崎、松尾、本間、清水(英)、丸山、池田
H29.7.14	研究・調査企画会議事後評価部会	食品安全委員会	岡部
H29.7.16	平成29年度日本医療研究開発機構(菅班)第1回班会議	国立感染症研究所	岡部、三崎、松尾、湯澤、淀谷
H29.7.19	基本的対処方針等諮問委員会意見交換会	中央合同庁舎第8号館	岡部
H29.7.20	神奈川県公衆衛生協会学術委員会	万国橋会議センター	岡部
H29.7.21	日本医師会感染対策委員会	日本医師会館	岡部
H29.7.24	食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部
H29.7.26	予防接種運営委員会	川崎市医師会館	岡部
H29.7.28	平成29年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会所長会	藤沢市保健所	岡部、三崎、福田
H29.8.1	ポリオ根絶会議	国立感染症研究所	岡部
H29.8.3	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会館	岡部、丸山
H29.8.4～8	国際小児熱帯感染症学会	インドネシア	岡部

H29.8.9	神奈川県感染症医学会理事会	崎陽軒本店会議室	岡部
H29.8.17	山口班班会議	PMDA	岡部
H29.8.18	感染症対策の連携・協力に関する医療関係連携会議	川崎区役所保健福祉センター	岡部
H29.8.24- H29.8.25	平成29年度指定都市衛生研究所長会議	ホテルセンターザ博多	岡部
H29.8.25	平成29年度川崎市精度管理専門委員会	ソリッドスクエア西館12C会議室	湯澤
H29.8.28	地方衛生研究所全国協議会第1回理事会・総務委員会	東京都健康安全研究センター	岡部
H29.8.29	食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部
H29.9.10	日本小児科学会予防接種感染対策委員会・予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
H29.9.11	第1回麻しん・風しん排除認定会議	厚生労働省	岡部、三崎
H29.9.13	平成29年度第1回関東甲信静ブロック会議	千葉県総合保健医療センター	橋口
H29.9.15	厚生労働省予防接種基本方針部会	厚生労働省	岡部
H29.9.15	食品安全委員会専門調査会	食品安全委員会	岡部
H29.9.20	腸管出血性大腸菌感染症・食中毒打合せ等会議	厚生労働省	丸山
H29.9.20	厚生労働科学研究(平原分担班)研究班会議	TPK品川カンファレンスセンター	三崎
H29.9.25	基礎医学委員会 病原体学分科会(第23期・第6回)	日本学術会議6階	岡部
H29.9.27	平成29年度第1回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市医師会館	岡部、三崎、松尾、本間、清水(英)、丸山、佐々木、池田、新田
H29.9.28	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H29.10.2	ジカウイルスワクチン研究班会議	国立感染症研究所	岡部
H29.10.2	平成29年度厚生労働科学研究 食品GLP研究班 第1回班会議	東京都健康安全研究センター	福田、岸
H29.10.11	平成29年度関東甲信静ブロックレファレンスセンター連絡会議	千葉県総合保健医療センター	清水(英)
H29.10.16	日本ワクチン学会理事会	AP品川アネックス	岡部
H29.10.17	千葉大学真菌医学研究センター運営委員会	千葉大学真菌医学研究センター	岡部
H29.10.20	平成29年度関東・東海ブロック家庭用品安全対策会議	柏市介護予防センター	高居
H29.10.23～25	WHOワクチンの安全性に関する国際諮問委員会	ジュネーブ	岡部
H29.10.29～ 11.2	第68回地方衛生研究所全国協議会総会及び学術委員会	鹿児島県城山観光ホテル	岡部
H29.11.9	日本医療研究開発機構会議	日本医療研究開発機構	岡部

H29.11.9	平成29年度県内衛生研究所等における平常時連携に係る検討委員会	神奈川県衛生研究所	谷口
H29.11.9	平成29年度第1回川崎市食の安全確保対策懇談会	川崎市産業振興会館	福田
H29.11.13～17	西太平洋地域ポリオ撲滅の認定に関する第23回地域委員会	ビエンチャン(ラオス)	岡部
H29.11.21	港区保健所感染症対策会議	港区みなと保健所	岡部
H29.11.22～25	第10回南東アジア地域ポリオ根絶認証委員会	ナピドー(ミャンマー)	岡部
H29.11.27	新型インフルエンザ公衆衛生WG会議	厚生労働省	岡部
H29.11.29	厚生労働省副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H29.11.29	平成29年度厚生労働科学研究 食品防御研究班 実地調査	埼玉県所沢市内	赤星、荒木
H29.11.30	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H29.12.4	平成29年度第2回神奈川県・政令5市合同精度管理専門委員会	神奈川県総合医療会館	湯澤
H29.12.6	平成29年度「地域保健総合推進事業」に係る関東甲信静ブロックレファレンスセンター連絡会議	千葉市総合保健医療センター	本間
H29.12.6～7	WHOワクチンの安全性に関する国際諮問委員会	ジュネーブ	岡部
H29.12.11	法医解剖関連の感染症にかかる専門家会議	横浜市立大学医学部	岡部、三崎、清水(英)、丸山、駒根
H29.12.13	組替え生ワクチン研究会議	PMDA	岡部、清水
H29.12.14	厚生労働科学研究(松井班)第2回研究会議	全国障害者総合福祉センター 戸山サンライズ	三崎、丸山
H29.12.15	厚生労働省感染症部会	厚生労働省	岡部
H29.12.22	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	TKP新橋カンファレンスセンター	岡部
H29.12.22	予防接種副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H29.12.22	平成29年度厚生労働科学研究 器具・容器包装研究班第2回班会議	LiSE大会議室	高居、牛山
H29.12.25	新型インフルエンザ対策に関する小委員会	厚生労働省	岡部
H29.12.27	国内ポリオ根絶委員会	厚生労働省	岡部
H30.1.12	平成29年度厚生労働科学研究 食品GLP研究班 第2回班会議	埼玉県衛生研究所	福田
H30.1.23	平成29年度地方衛生研究所全国協議会第2回ブロック長会議	東京都健康安全研究センター	岡部
H30.1.25	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	岡部
H30.1.25	平成29年度第2回神奈川県外部精度管理調査委員会	神奈川県総合医療会館	石丸
H30.1.25	平成29年度厚生労働科学研究(前川班)第2回班会議	国立感染症研究所 戸山庁舎	湯澤、淀谷
H30.1.26	平成29年度第2回神奈川県感染症医学会理事会	崎陽軒本店会議室	岡部

H30.1.26	地方感染症情報センター担当者会議	国立保健医療科学院	三崎、丸山、池田、新田
H30.1.27	平成29年度日本医療研究開発機構(菅班)第2回研究会 議	国立感染症研究所	岡部、三崎、松尾、湯澤、 淀谷
H30.1.28	平成29年度日本医療研究開発機構(大石班)第2回研究会 議	国立感染症研究所	岡部、三崎、丸山
H30.1.30	公衆衛生学会感染症対策委員会	公衆衛生学会	岡部
H30.1.30	第6回連携・協力に関する協議会	実験動物中央研究所	岡部、福田、赤星
H30.1.30	平成29年度日本医療研究開発機構(黒田班)第二回研究 班会議	国立感染症研究所 戸山 庁舎	清水(英)、清水(智)
H30.1.30	地域保健総合推進事業新興再興感染症等健康危機管理 推進事業(中里班)研究会議	タワーホール船堀	三崎
H30.2.1	平成29年度首都圏自治体食中毒防止食品衛生担当者連 絡会	東京都庁	本間
H30.2.1	感染症発生時対応ブラインド訓練反省会	中原区役所	岡部、三崎、丸山
H30.2.2	茨城県感染症対策委員会	茨城県庁	岡部
H30.2.6	キングスカイフロント協議会	川崎生命科学・環境研究 センター大会議室	岡部
H30.2.6	平成29年度第2回川崎市食の安全確保対策懇談会	川崎市産業振興会館12階 経済労働局会議室	岸
H30.2.7	川崎市予防接種運営委員会	川崎市医師会館	岡部
H30.2.7	平成29年度厚生労働科学研究 食品防御研究班 第2回 食品防御対策検討会	航空会館(東京都)	赤星、荒木
H30.2.8～9	平成29年度日本医療研究開発機構(木村班)第1回研究会 議	国立感染症研究所 村山 庁舎	窪村
H30.2.14	第2回結核・エイズ対策事業検討会	高津区役所 会議室	松尾、湯澤、淀谷
H30.2.15	平成29年度日本医療研究開発機構(竹田班)第2回研究会 議	国立感染症研究所 戸山 庁舎	岡部、駒根、清水(智)
H30.2.20～21	森班(風疹)第2回班会議	戸山サンライズ	岡部
H30.2.20	神奈川県感染症発生動向調査解析委員会	厚木保健福祉事務所大和 センター	岡部、三崎、丸山、池田
H30.2.22	GLP情報交換会	横浜市衛生研究所	遠藤
H30.2.26	首都圏地方感染症情報センター連絡会	東京都健康安全研究セン ター	三崎、丸山、池田
H30.2.26～28	WHO第17回ポリオ撲滅宣言世界委員会	ジュネーブ	岡部
H30.3.3	日本ウイルス学会理事会	国立感染症研究所	岡部
H30.3.5	川崎市新型インフル対策委員会	第三庁舎	岡部
H30.3.6	川崎港保健衛生協議会委員会(総会)	ファズ物流センター	岡部
H30.3.6	平成29年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会微生物 情報部会	横須賀市防災センター	松尾、本間、清水(英)、湯 澤、駒根、安澤
H30.3.6	第2回県・市感染症情報センター連絡調整会議	神奈川県衛生研究所	三崎、丸山、池田

H30.3.7	平成29年度日本医療研究開発機構(岡部班)班会議	AP品川	岡部
H30.3.11	日本小児科学会予防接種感染対策委員会・予防接種推進協議会	日本小児科学会	岡部
H30.3.12	川崎市・東邦大学地域感染症カンファレンス	東邦大学医学部 大森キャンパス	岡部
H30.3.15	厚生労働省予防接種室HPV打ち合わせ・安全対策調査会	厚生労働省	岡部
H30.3.15	川崎市新型インフルエンザ等対策連携協議会	市長室	岡部
H30.3.16	港区感染症対策委員会	港区みなと保健所	岡部
H30.3.16	平成29年度厚生労働科学研究 食品防御研究班 実地調査	兵庫県加古郡	赤星、荒木
H30.3.16	平成29年度日本医療研究開発機構(黒田班)第2回班会議	国立感染症研究所 戸山庁舎	岡部、松尾、本間、安澤
H30.3.23	厚生科学審議会新型インフルエンザ対策に関する小委員会・未承認薬等検討委員会	厚生労働省	岡部
H30.3.26	内閣官房基本的対処方針等諮問委員会意見交換会	中央合同庁舎第8号館	岡部
H30.3.28	平成29年度第2回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市医師会館	岡部、三崎、松尾、本間、清水(英)、湯澤、丸山、池田、新田
H30.3.29	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	岡部、丸山
H30.3.30	内閣官房第15回新型インフルエンザ等対策有識者会議	全国都市会館	岡部

(4) 講師派遣実績

年月日	名称	会場	講師名
H29.4.11	第19期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所	岡部
H29.4.14	第19期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所	三崎
H29.4.17	健康危機管理学講義	東京大学医学部教育研究棟	岡部
H29.4.25	北里大学生命科学研究所講義	北里大学 白金キャンパス	岡部
H29.5.22	感染症講義	名古屋大学医学部基礎研究棟	岡部
H29.5.29	欧州製薬団体・ワクチンセミナー	都市センターホール	岡部
H29.6.20	地域医療感染症講義	聖マリアンナ医科大学	岡部
H29.7.21	横浜検疫所講習会	横浜情報文化センター	岡部

H29.7.25	感染管理認定看護師教育課程(微生物・感染症学等講義)	神奈川県立保健福祉大学	岡部
H29.7.27	在日米国商工会議所(ACCJ)昼食講演会	東京アメリカンクラブ	岡部
H29.7.27	アレルギー児童・感染症等への対応研修	中部児童相談所	三崎
H29.8.1	感染症危機管理研修会	川崎市医師会館	岡部
H29.8.3	アレルギー児童・感染症等への対応研修	こども家庭センター	三崎
H29.9.11	感染症地域連携	東邦大学医学部 大森 キャンパス	岡部
H29.9.29	JICA国際研修講義	国立病院機構熊本医療セ ンター	岡部
H29.9.30	平成29年度神奈川県医師会産業医研修会	川崎市医師会館	三崎
H29.10.10	新型インフルエンザ等感染症研修会	平塚保健福祉事務所秦野 センター	岡部
H29.10.13	新型インフルエンザ等に関するワークショップ	川崎市医師会館	丸山
H29.10.13	川崎市立川崎病院院内研修会	川崎市立川崎病院	三崎
H29.10.17~19	平成29年度新興再興感染症技術研修	国立感染症研究所 村山 庁舎	清水(英)
H29.10.19	聖マリアンナ医科大学病院院内研修会	聖マリアンナ医科大学病 院	三崎
H29.10.23	第32回レジオネラ対策シンポジウム	東京都健康プラザ	淀谷
H29.10.27	平成29年度実地疫学調査研修	東京都健康安全研究セン ター	岡部
H29.11.6	筑波大学大学院講義	筑波大学 東京キャンパス 文京校舎	岡部
H29.11.20~22	細菌研修	国立感染症研究所	窪村
H29.11.21	東京慈恵会医科大学臨床基礎医学講義	東京慈恵会医科大学	岡部
H29.11.24	全国疫学情報ネットワーク構築会議	東京都健康安全研究セン ター	三崎
H29.11.27	川崎市立井田病院院内研修会	川崎市立井田病院	三崎
H29.12.18	福島県感染症対策研修会	コラッセふくしま	岡部
H30.1.9	阪神地区感染症懇話会(検疫所)講演会	大阪府新別館南館	岡部
H30.1.11	仙台市保健衛生職員勉強会	仙台市急患センター	岡部
H30.1.19	愛知県新型インフルエンザ等対策研修会	高年大学鯉城学園	岡部
H30.1.22	感染症講義	川崎市看護短期大学	岡部
H30.1.29	EFPIAJapanワクチン部会セミナー	都市センターホテル	岡部

H30.2.4	風疹の日イベント(風疹ゼロプロジェクト)	成田空港第2ターミナルビル	岡部
H30.2.5	京都大学医学部特殊感染症学講義	京都大学医学部	岡部
H30.2.8	川崎市新型インフルエンザ等対策研修会	ソリッドスクエア西館1階	岡部
H30.2.22	新興感染症セミナー	都立小児医療センター	岡部
H30.3.1	国際結核セミナー	ヤクルトホール	岡部
H30.3.9	川崎区感染症対策関係職員研修会	川崎区役所	三崎
H30.3.27	東大薬学部医療産業イノベーションフォーラム	東京大学 本郷キャンパス	岡部

(5) 研修指導実績

年月日	内容	対象	人数
H29.4.26	第1回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	3名
H29.5.24	第2回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	6名
H29.6.12	第1回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	30名
H29.6.21	第3回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	2名
H29.7.10	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	28名
H29.7.13	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	26名
H29.7.14	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	25名
H29.7.26	第4回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	4名
H29.8.16	第1回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.8.23	第2回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.8.28	第2回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	20名
H29.8.30	第5回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	4名
H29.8.30	第3回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.9.6	第4回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.9.13	第5回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.9.20	第6回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名

H29.9.21	第6回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	4名
H29.10.4	第7回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.10.18	第8回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.10.25	第7回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	5名
H29.10.25	第9回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.11.10	薬剤耐性菌に関する職員研修会	各区役所保健福祉センター等の環境衛生及び感 染症対策に係る職員	48名
H29.11.15	第10回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.11.22	第8回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	4名
H29.11.22	第11回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.11.29	第12回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.12.6	第13回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.12.13	第14回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.12.15	感染症情報センター職員研修会	各区役所保健福祉センター等の感染症対策に係 る職員	50名
H29.12.18	第3回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	20名
H29.12.20	第9回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	5名
H29.12.20	第15回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H29.12.27	第16回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H30.1.11	第17回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名
H30.1.17	第18回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	4名
H30.1.24	第19回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	3名
H30.1.31	第10回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	5名
H30.1.31	第20回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	2名
H30.2.1	第21回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP) 研修生	1名
H30.2.28	第11回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	5名
H30.3.1	第4回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	18名
H30.3.22	第12回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修 修了者	5名

(6) 視察・見学受け入れ実績

年月日	件名	人数
H29.4.13	川崎市議視察	6名
H29.4.24	横浜市衛生研究所	3名
H29.4.27	地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所	10名
H29.5.2	世田谷保健所	5名
H29.6.5	川崎市薬剤師会(薬学部実習生)	50名
H29.6.21	国立精神・神経医療研究センター	3名
H29.7.7	東京工科大学公衆衛生学実習(臨床検査学科3年生)	38名
H29.7.18	陸上自衛隊	5名
H29.7.21	東京工科大学公衆衛生学実習(臨床検査学科3年生)	40名
H29.7.25	川崎総合科学高校	40名
H29.8.2	夏の科学イベントミステリーツアー	60名
H29.8.4	慶應義塾大学大学院公衆衛生プログラム	10名
H29.8.14	沖縄県経済文化部	2名
H29.8.22	映像撮影隊	7名
H29.8.22	麻布大学獣医学部、日本大学生物資源科学部(獣医学科学生)	4名
H29.8.30	株式会社 ダルトン	6名
H29.8.31	総務企画局人事部共済課	4名
H29.9.22	科学技術振興機構さくらサイエンスプラン	12名
H29.9.26	国立看護大学校 感染管理看護学	6名
H29.9.27	IDES(感染症危機管理専門家養成プログラム)・東京都	5名
H29.9.27	キングスカイフロント紹介動画撮影隊	12名
H29.9.28	国立医薬品食品衛生研究所	7名
H29.10.2	健康福祉局感染症対策課・保健所	6名
H29.10.4	昭和薬科大学薬学部	20名
H29.10.10	国立医薬品食品衛生研究所	6名
H29.10.11	JAはだの	31名
H29.10.13	環境局技術職員	7名
H29.10.18	昭和薬科大学薬学部	20名

H29.10.19	川崎市薬剤師会(薬学部実習生)	49名
H29.10.31	臨海部・日本バイオテック協議会	42名
H29.11.6	北里大学看護キャリア開発・研究センター(認定看護師教育課程感染管理研修生)	33名
H29.11.8	北里大学北里生命科学研究所	7名
H29.11.9	堺市衛生研究所	1名
H29.11.29	昭和薬科大学薬学部	21名
H29.12.4	茅ヶ崎市消費者団体連絡会	17名
H29.12.22	国立医薬品食品衛生研究所生化学部	6名
H30.1.16	大阪健康安全基盤研究所	2名
H30.1.17	国立感染症研究所感染症疫学センター(FETP-J 実地疫学専門家養成コース研修員)	4名
H30.1.30	川崎病院若手医師	6名
H30.2.2	川崎病院若手医師	6名
H30.2.2	堺市衛生研究所	3名
H30.2.13	川崎市薬剤師会(薬学部実習生)	25名
H30.2.14	川崎病院若手医師	4名
H30.3.6	国立医薬品食品衛生研究所	2名
H30.3.8	JICA(国際協力機構)東海大学	15名
H30.3.22	小児科医師	8名
H30.3.29	国立医薬品食品衛生研究所	7名
計	47件	683名

(7) 研修報告会開催実績

当研究所職員が出席した学会や研修会等の内容を所内で情報共有するとともに、プレゼンテーション能力の向上を目的として、研修報告会を月1回開催している。

平成29年度研修報告会開催実績

開催日	報告内容	報告者
H29.4.24	高压ガスの保安について 有機溶媒使用の注意点及び検査廃液の取扱いについて 平成28年度希少感染症診断技術研修会 WHO西太平洋地域(WPRO)麻疹風疹対策会議	岸 石丸 佐々木、駒根 岡部
H29.5.30	茨城県衛生研究所講演会(有毒植物による食中毒の最近の傾向について) 第51回日本水環境学会年会	橋口 石丸
H29.6	業務都合により開催せず	
H29.7.19	第91回日本感染症学会総会・学術講演会 第58回臨床ウイルス学会 全国地方衛生研究所長会議	湯澤、窪村 駒根 岡部
H29.8.28	衛生微生物技術協議会第38回研究会 バイオセーフティ技術講習会	淀谷、松島、安澤 本間
H29.9.26	投込み資料ワークショップ研修 Tonomachi若手研究会 第82回神奈川県感染症医学会 Internatinal Congress on Tropical Pediatrics(国際熱帯小児病学会)(インドネシア)	赤星 赤星 清水(智) 岡部
H29.10.19	第40回農薬残留分析研究会 第32回関東甲信静支部ウイルス研究部会	江崎 松島
H29.11.28	日本食品微生物学会 残留農薬分析セミナー 厚生労働省動物実験基本指針の遵守徹底のための研修会 WHOポリオ会議関係	安澤 佐野 赤星 岡部
H29.12.19	第65回日本ウイルス学会学術集会 平成29年度市町村研修センター「タイムマネジメント」研修講座 第76回日本公衆衛生学会総会 WHO Global Advisory Committee on Vaccine Safety(デング熱ワクチンの安全性)(ジュネーブ)	清水(智) 鏡淵 池田、丸山 岡部

H30.1.15	川崎市情報化研修(ICTリテラシー編(DocuWorks活用講座・情報セキュリティ)) 日本性感染症学会第30回学術大会 第54回全国衛生化学技術協議会年会 ストレスチェックについて	佐野 新田 牛山、赤星、岸 梅田
H30.2.22	オフフレーバー研究会第7回勉強会 日本水道協会関東地方支部水質研究発表会	荒木 安宅
H30.3.20	第29回日本臨床微生物学会学術集会 第30回関東甲信静支部細菌研究部会 第83回神奈川県感染症医学会	原、安澤 湯澤、佐々木 岡部

(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント 2017」への出展

多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点キングスカイフロントは、様々な研究機関が集積し、ライフサイエンスや環境分野の研究開発などが行われている。

キングスカイフロントでは、川崎市臨海部国際戦略本部が中心となり、子どもたちに科学技術に関心を持ってもらうことを目的とした「夏の科学イベント」を例年 8 月に開催しており、当研究所もブースを出展している。

主に小学生を対象に開催されるこのイベントは、キングスカイフロントに進出又は関係する企業・研究機関等がそれぞれの特色を活かしながら夏休みの学習に役立つ科学実験やクイズラリーなどの体験コーナーを出展するもので、平成 29 年度の「キングスカイフロント夏の科学イベント 2017」には、約 1200 人の親子連れが参加した。

ア 開催日時

平成 29 年 8 月 2 日(水)13:00～16:00

イ 主催(事務局)

キングスカイフロント夏の科学イベント実行委員会(川崎市臨海部国際戦略本部)

ウ 会場

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)、ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)、実験動物中央研究所(実中研)、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 東京サイエンスセンター、ライフイノベーションセンター(LIC)

エ 出展機関

川崎市健康安全研究所、川崎市環境総合研究所、公益財団法人実験動物中央研究所、国立医薬品食品衛生研究所ほか、キングスカイフロントに集積する民間研究機関等

オ 健康安全研究所の出展内容

(7) 健康安全研究所ミステリーツアー

普段入ることのできない健康安全研究所の研究エリア内で、危険物を取り扱う際に装着する防護服や様々な分析機器の見学ツアーを行った。

水道水、湯沸し水、レモン果汁を添加した水道水を用いて簡単な残留塩素試験を実演し、塩素が含まれている場合と塩素が含まれていない場合とで、色の変化の違いを実際に体験してもらった。

珍しい虫類の標本観察や電子顕微鏡を用いた昆虫の細部構造の観察では、普段見ることのないミクロの世界に参加者から驚きの声が上がっていた。

(参加人数:60人(保護者含む))

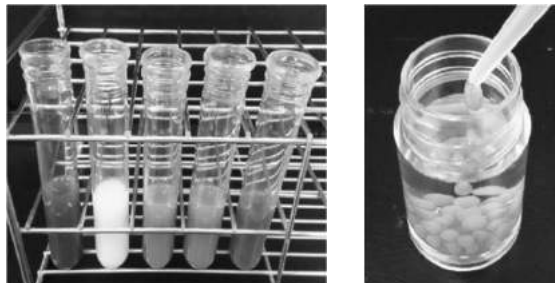
写真1 残留塩素試験



(4) 固まる不思議な液体

塩化カルシウム溶液にアルギン酸ナトリウム水溶液を滴下すると生成するゲル状物質の作成を体験してもらった。アルギン酸ナトリウム水溶液は、絵の具で着色したものを 5 色用意した。実験を通じて原理の解説や、人造イクラに応用されていることの説明を行った。(参加人数:274人(保護者除く))

写真2 アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウム水溶液の反応の様子



(アルギン酸ナトリウム(左)を塩化カルシウム水溶液に垂らすとアルギン酸カルシウムが生成。)

【第2章 業務実績】

1 企画調整部門

(1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、試験検査に係る信頼性確保業務、情報発信業務である。

ア 調査研究評価委員会等の運営

(7) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、内部評価委員会を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に当研究所で実施の「全研究課題」について、委員である当研究所職員が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、平成29年度の開催概要は表のとおりである。

(4) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、外部評価委員会を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、「特に重要な研究課題」について、委員である当研究所職員及び本庁関係課職員並びに外部研究機関の有識者が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、平成29年度の開催概要は表のとおりである。

(ウ) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱に基づき、倫理審査委員会を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に新たに計画された「人を対象とする医学系研究」について、委員である当研究所職員及び外部の有識者が、倫理指針等に基づき倫理的観点及び科学的観点からその実施の適否に係る審査を行うもので、平成29年度の開催概要は表のとおりである。

表 平成29年度調査研究評価委員会等開催概要

年月日	委員会	課題数
H29.5.17 H29.5.18	内部評価委員会(研究計画の評価)	33
H29.6.19	内部評価委員会(研究計画の評価)(追加課題4)	4
H29.6.23	外部評価委員会(研究計画の評価)	9
H29.7.24	倫理審査委員会	9
H29.8.29	内部評価委員会(研究計画(追加課題1・計画変更2)の評価)	3
H30.2.22 H30.3.2 H30.3.9	内部評価委員会(研究結果の評価)	38
H30.3.22	外部評価委員会(研究結果の評価)	9

イ 食品衛生検査の信頼性確保業務

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。なお、不適とされたものについては適宜、改善指導を行った。

(7) 内部点検

収去施設(全7区役所保健福祉センター衛生課、保健所食品安全課食品専門監視担当)並びに食品衛生検査施設(健康安全研究所及び保健所中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、標準作業書の作成状況や試験検査に係る書類の作成、機械器具の管理等が適切に実施されているかの確認を行った。

(4) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

(ウ) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、一般財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

平成29年度は、食品添加物や残留農薬

等の理化学検査、一般細菌数や大腸菌群等の微生物検査、動物を用いる検査に係る調査に参加し、結果の確認を行った。

ウ 病原体等検査の信頼性確保業務

病原体等検査の信頼性確保部門として、病原体等検査施設(健康安全研究所)に対し次の業務を行った。なお、食品衛生検査の信頼性確保業務と同様に、不適とされたものは適宜、改善指導を行った。

(7) 内部監査

内部監査では、標準作業書の作成状況や試験検査に係る書類の作成、機械器具の管理等が適切に行われているかの確認を行った。

(イ) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

(ウ) 外部精度管理調査

平成29年度は、厚生労働省が実施するインフルエンザウイルスの核酸検出検査及び腸管出血性大腸菌の同定検査、厚生労働科学研究の研究班の協力依頼に基づくレジオネラ属菌検査及び結核VNTR遺伝子型別の外部精度管理調査に参加し、結果の確認を行った。

エ 情報発信業務

主にホームページを用いて健康安全研究所の取組内容の情報発信を行っている。ホームページを用いた定期的な情報発信業務としては、「検査情報」を作成・掲載しており、理化学部門及び微生物部門が実施する日常の試験検査実績を、市民にとってわかりやすい体裁に配慮し取りまとめている。平成29年度は理化学検査情報を6回、微生物検査情報を4回作成し公開した。

(2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)」に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県等域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、原則として地方衛生研究所の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健所)に感染症情報センターを設置し、感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP* - Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

*FETP:Field Epidemiology Training Program

<感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、健康福祉局保健所及び各区役所保健福祉センター等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか!」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

ア 全数把握疾患の発生状況(表1~3)

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症では、結核305件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

三類感染症では、細菌性赤痢3件、腸管出血性大腸菌感染症35件、パラチフス2件の届出があり、コレラ、腸チフスの届出はなかった。なお、細菌性赤痢3件については、いずれも海外渡航歴があり、内訳はインド、インドネシア、エジプトが各1件であった。腸管出血性大腸菌感染症については、関東地方を中心に広域的に発生した感染症・食中毒事例関連の患者の届出が3件あった。また、パラチフス2件については、いずれも海外渡航歴があり、内訳はカンボジア、カンボジア及びベトナムが各1件であった。

四類感染症では、E型肝炎4件、A型肝炎6件、デング熱6件、日本紅斑熱1件、レジオネラ症16件、レプトスピラ症1件の届出があった。レジオネラ症については、過去5年平均と比較して、1.23倍の届出があり、性別では男性が75.0%を占めていた。

五類感染症では、アメーバ赤痢23件、ウイルス性肝炎2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23件、急性脳炎19件、クロイツフェルト・ヤコブ病1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10件、後天性免疫不全症候群10件、侵襲性インフルエンザ菌感染症8件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件、侵襲性肺炎球菌感染症53件、水痘(入院例に限る。)2件、梅毒77件、播種性クリプトコックス症2件、破傷風1件、麻しん3件の届出があった。麻しん3件については、全て検査診断例(修飾麻しん)として届出があり、そのうち2件については、当所におけるPCR法による検査結果は陽性で、遺伝子型はそれぞれB3、D8であった。その他の1件は、抗体価は陽性であったものの、検体採取時期等の問題により当所における検査結果は陰性であった。

新型インフルエンザ等感染症の届出はなかった。

表1 届出数（一～三類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症患者等届出数）

平成 29 年

	一類感染症	二類感染症		三類感染症						新型 イン フル エン ザ等 感染 症	指定感染症		総数
		急性灰白髄 炎、ジフテリ ア、SARS、 MERS、鳥イン フルエンザ (H5N1)、鳥イ ンフルエンザ (H7N9)	結核	コレラ	細菌 性赤 痢	腸管出 血性大 腸菌感 染症	腸チ フス	パラ チフ ス	鳥イ ンフ ルエ ンザ (H7 N9)		中東 呼吸 器症 候群 (ME RS)		
平成 27 年	-	-	320	-	3	39	-	-	-	-	-	-	362
平成 28 年	-	-	329	-	1	35	-	-	-	-	-	-	365
平成 29 年	-	-	305	-	3	35	-	2	-	-	-	-	345
川 崎	-	-	93	-	-	9	-	-	-	-	-	-	102
幸	-	-	37	-	-	5	-	-	-	-	-	-	42
中 原	-	-	42	-	1	7	-	1	-	-	-	-	51
高 津	-	-	36	-	1	-	-	-	-	-	-	-	37
宮 前	-	-	41	-	1	8	-	1	-	-	-	-	51
多 摩	-	-	34	-	-	4	-	-	-	-	-	-	38
麻 生	-	-	22	-	-	2	-	-	-	-	-	-	24

※鳥インフルエンザ（H7N9）は平成 25 年 5 月 6 日から指定感染症、平成 27 年 1 月 21 日から二類感染症となった。

※中東呼吸器症候群（MERS）は平成 26 年 7 月 26 日から指定感染症、平成 27 年 1 月 21 日から二類感染症となった。

表2 届出数（四類感染症患者等届出数）

平成 29 年

	総数	四類感染症					
		E型肝炎	A型肝炎	デング熱	日本紅斑熱	レジオネラ症	レプトスピラ症
総数	34	4	6	6	1	16	1
川 崎	10	-	1	3	-	5	1
幸	4	2	-	-	-	2	-
中 原	7	1	2	1	-	3	-
高 津	4	-	1	-	-	3	-
宮 前	3	-	1	-	1	1	-
多 摩	3	1	-	-	-	2	-
麻 生	3	-	1	2	-	-	-

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

平成29年

	総数	五類感染症							
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症
総数	235	23	2	23	19	1	10	10	8
川崎	68	5	-	5	5	-	2	5	-
幸	24	7	1	-	-	-	1	-	-
中原	41	5	-	-	3	-	2	3	4
高津	13	1	-	1	-	1	-	2	-
宮前	47	3	-	11	9	-	3	-	3
多摩	27	1	-	3	2	-	1	-	1
麻生	15	1	1	3	-	-	1	-	-
		五類感染症							
		侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例に限る。)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	麻しん	
総数		1	53	2	77	2	1	3	
川崎		-	10	-	36	-	-	-	
幸		-	7	-	7	-	-	1	
中原		-	16	1	6	-	-	1	
高津		-	-	-	6	1	1	-	
宮前		1	7	1	8	1	-	-	
多摩		-	12	-	6	-	-	1	
麻生		-	1	-	8	-	-	-	

※その他の五類感染症の届出はなかった。

イ 定点把握疾患の発生状況（表4）

平成29年に目立った流行を示したのは、手足口病、RSウイルス感染症、インフルエンザ及び流行性角結膜炎であった。

手足口病については、6月下旬から患者報告数が増加し、第31週（8月第1週）には定点当たり患者報告数が14.65人となり、過去10年間で最大の報告数となった。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて2.47倍であった。

RSウイルス感染症については、7月中旬から患者報告数が増加し、第32週（8月第2週）には定点当たり患者報告数が4.08人となり、平成15年のデータ収集開始以降最大の報告数となった。また、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.90倍であった。

インフルエンザについては、平成29年第4週（1月第5週）に定点当たり患者報告数が46.88人となり、流行のピークにおける報告数が例年と比べて多かった。年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.43倍であった。

流行性角結膜炎については、1年を通して定点当たり患者報告数が多く、過去5年平均と比べて2.38倍であった。定点当たり患者報告数は第24週（6月第3週）、第51週（12月第4週）に3.22人となり、過去10年間で最多となった。

表4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】

平成29年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	52,184	7,818	8,101	6,029	3,147	2,472	3,166	3,511	4,522	2,595	2,039	3,421	5,363
水痘	1,164	77	72	103	128	127	92	78	35	43	54	177	178
流行性耳下腺炎	853	160	148	124	50	60	66	49	43	40	42	54	17
百日咳	4	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5,139	195	297	410	359	512	854	414	296	225	323	686	568
感染性胃腸炎	12,383	778	750	1,532	1,159	1,203	1,397	855	637	570	577	1,232	1,693
手足口病	5,480	8	3	3	11	32	158	1,093	2,088	936	604	468	76
伝染性紅斑	191	11	5	6	11	6	17	23	18	20	13	26	35
突発性発しん	1,109	72	73	79	73	113	143	103	96	104	70	112	71
ヘルパンギーナ	1,515	-	-	2	1	3	61	527	606	193	76	39	7
咽頭結膜熱	825	23	25	21	22	60	188	108	75	36	40	91	136
RSウイルス感染症	1,242	25	13	27	38	21	41	176	500	218	89	51	43
インフルエンザ	21,343	6,408	6,646	3,628	1,229	249	50	17	19	156	100	390	2,451
流行性角結膜炎	932	61	69	94	65	83	98	66	109	53	51	95	88
急性出血性結膜炎	4	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】

平成29年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	952	93	73	80	76	80	70	71	104	87	75	70	73
細菌性髄膜炎	4	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	28	1	1	4	1	2	1	3	5	2	4	4	-
マイコプラズマ肺炎	18	4	-	1	1	1	-	1	1	-	3	2	4
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	20	-	3	7	7	3	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院サーベイランス	86	33	19	4	2	3	2	-	7	3	2	5	6
淋菌感染症	143	10	3	11	14	8	13	16	20	13	14	12	9
性器クラミジア感染症	424	27	30	35	29	42	32	35	48	51	32	30	33
性器ヘルペスウイルス感染症	86	9	4	10	6	5	10	5	8	6	7	8	8
尖圭コンジローマ	72	3	5	5	9	5	7	4	10	7	4	7	6
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	58	5	5	3	7	9	4	5	4	4	5	2	5
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	-	1	-	-	2	-	-	-	1	4	-	2
薬剤耐性緑膿菌感染症	3	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

ウ 集団施設における感染症発生情報（表5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、小学校、中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関及び市民等へ発信している。なお、保育園については、学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報を集計している。

平成29年において、例年と比べて報告数が多かった疾患は、インフルエンザ、咽頭結膜熱及び流行性角結膜炎であった。

インフルエンザについては、年間を通して報告数が多く、過去5年平均と比べて1.26倍であった。

咽頭結膜熱については、特に7月、10月、11月の報告数が例年と比べて多く、年間の報告数は過去5年平均と比べて1.43倍であった。

流行性角結膜炎については、定点医療機関からの報告と同様、年間を通して報告数が多く、過去5年平均と比べて1.39倍であった。

表5 集団施設における感染症発生情報

平成29年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	47,202	10,015	11,209	6,235	2,919	2,218	1,705	1,950	1,899	1,734	1,495	2,055	3,768
	保育園	14,216	1,927	1,787	1,191	985	619	670	1,352	1,794	1,007	747	841	1,296
	小学校	27,767	6,202	8,113	4,059	1,644	1,336	963	557	96	697	708	1,155	2,237
	中学校	5,219	1,886	1,309	985	290	263	72	41	9	30	40	59	235
百日咳	総数	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	保育園	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ様疾患	総数	30,696	9,017	10,336	5,403	1,895	723	59	17	11	338	219	460	2,218
	保育園	5,237	1,573	1,459	772	530	45	-	14	5	23	41	183	592
	小学校	20,720	5,626	7,595	3,673	1,115	494	49	1	5	308	170	263	1,421
	中学校	4,739	1,818	1,282	958	250	184	10	2	1	7	8	14	205
麻疹	総数	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	1,748	345	276	177	137	172	163	104	36	100	109	75	54
	保育園	337	67	75	52	23	26	16	21	11	11	11	16	8
	小学校	1,280	253	191	112	97	116	136	78	21	86	92	55	43
	中学校	131	25	10	13	17	30	11	5	4	3	6	4	3
水痘	総数	2,176	178	101	98	223	269	206	173	36	80	140	342	330
	保育園	512	70	41	54	55	52	21	29	23	25	20	58	64
	小学校	1,621	101	58	44	162	209	183	140	13	55	118	278	260
	中学校	43	7	2	-	6	8	2	4	-	-	2	6	6
風しん	総数	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	保育園	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	小学校	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	500	32	15	21	35	49	54	54	37	45	57	46	55
	保育園	288	16	8	8	19	22	33	36	28	22	34	27	35
	小学校	186	16	7	11	16	22	15	14	7	21	20	18	19
	中学校	26	-	-	2	-	5	6	4	2	2	3	1	1
急性出血性結膜炎	総数	13	1	2	-	1	2	-	2	-	-	-	2	3
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	10	1	2	-	1	1	-	2	-	-	-	-	3
	中学校	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-
咽頭結膜熱	総数	643	14	17	15	15	62	119	106	47	49	55	82	62
	保育園	445	5	11	8	4	52	90	76	46	38	30	36	49
	小学校	193	8	6	6	11	10	28	28	1	11	25	46	13
	中学校	5	1	-	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-
その他	総数	11,421	427	461	521	613	941	1,103	1,494	1,732	1,122	914	1,048	1,045
	保育園	7,395	196	193	297	354	422	509	1,176	1,681	888	611	521	547
	小学校	3,754	196	253	213	242	484	552	294	49	216	282	495	478
	中学校	272	35	15	11	17	35	42	24	2	18	21	32	20

※保育園は学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報

2 理化学部門

(1) 食品担当

食品衛生法及び食品表示法に基づく食品中の食品添加物検査、食品汚染物検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査及び苦情食品検査等を担当している。平成29年度は保健所食品安全課、各区役所保健福祉センター衛生課、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会及び港湾局から搬入された食品等266検体、1,070項目について検査を実施した。

(一財)食品薬品安全センターが実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物(着色料、安息香酸)、動物用医薬品(スルファジミジン)、麻痺性貝毒及び安全性未審査の遺伝子組換えパレイシヨ(E12、F10、J3)の検査を実施した。また、(株)森永生科学研究所主催の「第2回食物アレルギー物質検査精度管理サーベイ」、食品の安全確保推進研究の分担課題「新規技能試験プログラムの開発及び統計学的評価に関する研究」の技能比較試験(麻痺性貝毒)に参加した。

(一財)食品薬品安全センターからの依頼による「特定原材料検査(アレルギー物質検査)の外部精度管理調査研究(検査項目:卵)」、国立医薬品食品衛生研究所からの依頼による「遺伝子組換え食品検査の外部精度管理調査」及び「小麦・そば・落花生リアルタイム定性PCR検査法バリデーション」への協力を行った。

ア 食品添加物検査

412項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)について使用基準に係る検査を実施した。(表1)

イ 残留動物用医薬品検査

国産及び輸入畜水産食品について、妥当性評価を実施し、食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドラインを満たした動物用医薬品22項目について検査を実施した。(表2)

ウ 遺伝子組換え食品検査

大豆穀粒、米及び米加工品、ばれいしょ及びばれいしょ加工品計25検体の遺伝子組換え食

品検査を実施した。結果は24件で不検出又は陰性、1件で検知不能であった。(表3)

エ 特定原材料検査

卵を対象に5検体、乳を対象に1検体及び小麦を対象に2検体の特定原材料検査を実施した。すべての検体で、スクリーニング検査の結果は基準値である10µg/gを超えなかった。(表4)

オ 自然毒及び化学物質検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝を含め、市内流通食品10検体について貝毒検査を実施した。また、フグ毒検査を1検体、カビ毒検査を4検体及びヒスタミン検査を3検体実施した。(表5)

カ 苦情食品検査

保健所へ苦情品として届けられたもののうち、当所へ検体が搬入された事例は3例であった。(表6)

表1 食品化学検査内訳

	検査内容	項目数
食品中の食品添加物	保 存 料	167
	合 成 着 色 料	53
	発 色 剤	23
	甘 味 料	34
	漂 白 剤	19
	酸 化 防 止 剤	22
	品 質 保 持 剤	14
	防 か び 剤	16
	不 許 可 添 加 物	61
	そ の 他 の 添 加 物	3
	小 計	412
食品汚染物	フ グ 毒	1
	貝 毒	20
	カ ビ 毒	4
	動 物 用 医 薬 品	513
	小 計	538
規格	牛 乳	8
	乳 製 品	9
	小 計	17
	食品の品質等の試験	50
	遺伝子組換え食品検査	27
	特定原材料検査	16
	そ の 他	10
	総 計	1,070

表2 残留動物用医薬品検査結果

検体種類	牛乳	牛		豚		鶏			えび	サーモン	
		筋肉	輸入	筋肉	輸入	筋肉	卵	輸入			
国産・輸入の別	国産	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入	輸入	
検体数	1	1		3	4	8	3	10	8	3	
項目数	5	18	0	28	72	124	57	154	40	15	
検査項目名	1	ジフロキサシン		1		1	4	6	3	8	5
	2	ミロキサシン				1	4	6	3		1
	3	オキシリニック酸		1				6	3	8	6
	4	ナリジクス酸		1		1	4	6	3	8	1
	5	フルメキン	1	1		1	4	6	3	8	
	6	ピロミド酸		1		1	4	6	3		
	7	アルベンダゾール	1	1		1	4	6	3	8	2
	8	トリメトプリム		1					10	8	
	9	オルメトプリム		1					8	3	
	10	スルファジアジン	1	1		3	4	8	3	10	2
	11	スルファチアゾール									
	12	スルファピリジン		1		1	4	6	3	8	1
	13	スルファメラジン		1		3	4	7	3	8	
	14	スルファジミジン (スルファメサジン)	1	1		3	4	8	3	10	4
	15	スルファメトキシピリダジン		1		1	4	6	3	8	
	16	スルファモノメトキシ		1		1	4	8	3	8	4
	17	スルファクロルピリダジン				1	4	6	3		
	18	スルファドキシ	1	1		1	4	6	3	8	1
	19	スルファメトキサゾール		1		3	4	7	3	8	6
	20	スルファキノキサリン				1	4	7	3	10	
	21	スルファジメトキシ		1		3	4	7	3	10	1
	22	スルファニトラン		1		1	4	6	3	8	

表3 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	安全性	試験方法	結果	
大豆穀粒	1	RRS	審査済	定量PCR	不検出	1
		RRS2			不検出	1
		LLS			不検出	1
米及び米加工品	12	遺伝子組換えコメ (63Bt、NNBt、CpTI)	未審査	定性PCR	陰性	11
					検知不能 ^{*2}	1
ばれいしょ及びばれいしょ加工品	1	遺伝子組換えバレイショ (E12 ^{*1} 、F10、J3)	未審査	定性PCR	陰性	1
	11	遺伝子組換えバレイショ (F10、J3)	未審査	定性PCR	陰性	11

*1:バレイショ(E12)は平成29年7月に日本でも安全性審査の手続きを経たため、以降は検査対象から除外

*2:米が主原料でない加工品であったため、検査に必要な遺伝子が十分量得られなかったと考えられる。

表4 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法*	結果	
卵	菓子類	1	日本ハム㈱製 FASTKIT エライザ Ver. II シリーズ(卵)	不検出	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK 特定原材料測定キット(卵白アルブミン)	不検出	1
	穀類加工品	4	日本ハム㈱製 FASTKIT エライザ Ver. II シリーズ(卵)	10µg/g 未満	3
				不検出	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK 特定原材料測定キット(卵白アルブミン)	10µg/g 未満	3
				不検出	1
乳	菓子類	1	日本ハム㈱製 FASTKIT エライザ Ver. II シリーズ(牛乳)	10µg/g 未満	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK 特定原材料測定キット(カゼイン)	不検出	1
小麦	菓子類	1	日本ハム㈱製 FASTKIT エライザ Ver. II シリーズ(小麦)	不検出	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK 特定原材料測定キット(小麦グリアジン)	不検出	1
	野菜加工品	1	日本ハム㈱製 FASTKIT エライザ Ver. II シリーズ(小麦)	不検出	1
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK 特定原材料測定キット(小麦グリアジン)	不検出	1

* :1 検体につき2種類のキットを用いて検査を実施し、いずれか1種でも結果が10µg/g以上検出された場合、スクリーニング検査陽性となる。

表5 自然毒及び化学物質検査結果

品目	検体数	検査項目	自然毒分類	結果	
ふぐ加工品	1	フグ毒	フグ毒	5 MU/g 以下	1
アサリ	10	麻痺性貝毒	貝毒	1.8 MU/g 未満	10
		下痢性貝毒		不検出	10
牛乳	1	アフラトキシン M ₁	カビ毒	不検出	1
小麦粉	1	デオキシニバレノール		不検出	1
りんごジュース	2	パツリン		不検出	2
魚介類加工品	3	ヒスタミン	化学物質	不検出	3

表 6 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果
酒精飲料(ワイン)からの異物	異物	外観 性状 鏡検(実体顕微鏡) FT-IR (赤外分光光度計)	約 0.1~3mm の無数の粒状で不定形の異物。3mm の大きさの異物の重量は 9.8mg であった。異物の色調は暗い紫色で、一部光沢のある部分があった。 異物は、ピンセットで力を加えると容易に砕けた。 無数の異物は、色調は全て一様であるが大きさは大小様々であった。光沢のある部分は表面が平滑であった。光沢のない部分は、規則的な線状の溝を有していた。 FT-IR のスペクトルをライブラリ検索したところ、異物は Cream of Tartar(酒石英)及び酒石酸水素カリウムのスペクトルと類似していた。
1 金針菜炒め物 2 金針菜(対照品)	有症苦情	LC-TOFMS	コルヒチン不検出 コルヒチン不検出
菓子からの異物	異物	外観 性状 鏡検(実体顕微鏡) FT-IR (赤外分光光度計)	黒い棒状の異物の一端(直径約 0.9mm、長さ約 7mm)が喫食残品のマドレーヌ部分から飛び出しており、他端はマドレーヌ部分に入り込んでいた。異物全体は直径約 0.9mm、長さ約 19mm、重さ約 0.019g の黒い棒状物質であった。 異物は、ハサミで容易に切断できた。また、曲げると曲がった状態を保った。異物は、側面を作業台にピンセットで押し付けると、ピンセットの跡が残り、元の形状に戻らなかった。 金属のような光沢は認められなかった。ハサミで切断した切断面には、中空が認められた。 中性洗剤と水で洗浄し、乾燥後の異物の赤外吸収スペクトルは、マドレーヌとスペクトルパターンが異なっていた。ライブラリによる成分混合物検索の結果、異物はフッ素樹脂とアンダルサイト(鉱物の一種)の混合物のスペクトルパターンに類似していた。

(2) 水質・環境担当

「水道法」に基づく貯水槽水等の水質検査、「水道におけるクリプトスポリジウム等対策指針」に基づくクリプトスポリジウム検査、「災害時における飲料水及び生活用水の供給源としての井戸及び受水槽の有効活用に関する要綱」に基づく災害用井戸水検査、「神奈川県水浴場等に関する条例」に基づくプール水検査、「川崎市公衆浴場法施行条例」及び「川崎市旅館業法施行条例」に基づく浴槽水検査及びシャワー水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく健康食品中医薬品成分検査を担当している。平成29年度は保健所生活衛生課、食品安全課、医事・薬事課、各区役所保健福祉センター衛生課から搬入された検体について検査を実施した。

また、厚生労働省が実施する水道水質検査精度管理のための統一試料調査(フッ素及びその化合物、ホルムアルデヒド)及び、神奈川県が実施する外部精度管理調査(ヒ素及びその化合物、1,4-ジオキサン)に参加し、検査を実施した。

ア 飲料水検査

平成29年度に検査を実施した飲料水は104検体であった。検査検体の内訳は、井戸水(災害用選定の生活用水井戸)87検体、小規模水道水7検体、専用水道水10検体であった。(表1)

イ プール水、浴槽水等検査

市内プール水(採暖槽水を含む)94検体、浴槽水73検体、シャワー水24検体、計191検体について検査を実施した。(表2)

ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品114検体について13項目の有害物質の検査を実施した。その結果、繊維製品中のホルムアルデヒドの検査において基準値を超過したものが2検体あった。(表3、表4)

エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水(ジュース、ミネラルウォーター等)9検体、粉末清涼飲料4検体について5項目(混濁、沈殿物又は固形の異物、ヒ素、鉛、スズ[缶入りのもの])の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

オ おもちゃの規格基準検査

塩化ビニル製おもちゃ2検体について8項目(フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)、フタル酸ベンジルブチル、過マンガン酸カリウム消費量、重金属、カドミウム、蒸発残留物、ヒ素)の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

折り紙2検体について2項目(重金属、ヒ素)の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

カ 器具及び容器包装の規格基準検査

ガラス製品1検体、陶磁器2検体について2項目(カドミウム、鉛)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

キ 豆類、生あんの規格基準検査

ベビーライマ豆1検体、白あん1検体についてシアン化合物の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

ク 寒天の規格基準検査

粉末寒天2検体についてホウ素化合物の規格検査を実施したところ、2検体とも基準に適合していた。

ケ 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したあゆ3検体についてPCB等の環境汚染物質検査を実施した。(表5)

コ 医薬品成分検査

市販の健康食品14検体及びローション類(外用)4検体について、医薬品成分16項目の検査を実施した。結果は全て不検出であった。(表6)

表1 飲料水検査結果

種類	災害用井戸水 (生活用水)	貯水槽水	小規模水道水	専用水道水	その他	計	
検体数	87 (83)	0 (4)	7 (7)	10 (5)	0 (0)	104 (99)	
不適合件数	24 (31)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (32)	
不 適 合 項 目 件 数	亜硝酸態窒素	1 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4)
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	鉄及びその化合物	15 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (16)
	塩化物イオン	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
	pH値	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭気	9 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (4)
	色度	13 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (9)
	濁度	11 (10)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)
クリプトスפורジウム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	

※災害用井戸水に対して水質基準値は設定されていないため、水道法に基づく水道水質基準をあてはめて評価しています。

():前年度

表2 プール水、採暖槽水、浴槽水、シャワー水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水 (採暖槽水含む)	94 (64)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
浴槽水	73 (65)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
シャワー水	24 (6)	色度、濁度 過マンガン酸カリウム消費量
計	191 (135)	

():前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検査項目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品、つげまつげ用接着剤等	95	2
アゾ化合物	繊維製品	5	0
塩化水素、硫酸	住宅用洗浄剤	1	0
水酸化カリウム、水酸化ナトリウム	住宅用洗浄剤	1	0
容器試験	住宅用洗浄剤	2	0
有機水銀化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
トリフェニル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
トリブチル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	8	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品、家庭用洗浄剤	2	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品、家庭用洗浄剤	2	0
ジベンゾ[a, h]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]ピレン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
総 数		138	2

表4 ホルムアルデヒド基準違反の概要

品 名	分 類	測定濃度(μg/g)	件 数
アフガン	外衣 (出生後24月以内乳幼児用)	17~20	2

表5 多摩川で採取した魚介類の検査結果

(単位 : ppm)

項目	1	2	3	基準値	定量下限値
総水銀	0.02	0.02	0.02	0.4 (暫定規制値)	0.01
銅	0.7	0.5	0.7	—	0.3
鉛	0.1	不検出	0.2	—	0.1
カドミウム	不検出	不検出	不検出	—	0.05
マンガン	5.9	3.9	9.8	—	0.1
クロム	不検出	不検出	不検出	—	0.1
亜鉛	21	19	21	—	0.3
ヒ素	0.13	0.13	0.13	—	0.05
トリブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
トリフェニルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
ジブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
PCB	不検出	不検出	0.01	3 (内海内湾産魚介類暫定規制値)	0.01

表6 健康食品中医薬品成分検査結果

	検査項目	検体数	検出	不検出
痩身成分	フェノールフタレイン	8	0	8
	マジンドール			
	フェンフルラミン			
	N-ニトロソフェンフルラミン			
	シブトラミン			
	クロルプロパミド			
	オリストット			
強壮成分	グリベンクラミド	6	0	6
	ヨヒンビン			
	シルデナフィル			
	タダラフィル			
	バルデナフィル			
	ホンデナフィル			
	チオキナピペリフィル			
	キサントアントラフィル			
局所麻酔成分	リドカイン	4	0	4

※合計18検体 16項目

(3) 残留農薬・放射能検査部門

残留農薬・放射能検査担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査及び食品・水道水等の放射性物質検査を実施した。

精度管理については、一般財団法人食品薬品安全センターの実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、重金属検査(カドミウム)及び残留農薬検査(I:個別試験、II:一斉試験)の検査を実施した。また、厚生労働科学研究費補助金「食品の安全確保推進研究事業」の研究課題において、残留農薬検査の外部精度管理調査研究に参加した。

ア 残留農薬検査

保健所食品安全課及び市内 7 区役所の保健福祉センター衛生課、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会から依頼のあった食品、総数 69 検体・延べ 2,956 項目について残留農薬検査を実施した。

(7) 国内産農産物の検査

保健所食品安全課、各区役所保健福祉センター衛生課及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 49 検体・計 2,285 項目について

て検査を実施した(表 1 及び表 2-1、2-2)。

国内産農産物のうち市内産は 12 検体・計 600 項目、その他の国内産は 37 検体・計 1,685 項目行った。

市内産において検出が認められた農薬と農産物は、ホスチアゼート・にんじん 1 検体(基準値 0.2mg/kg のところ 0.016mg/kg)であった。

その他の国内産農産物では、アゾキシストロビン・神奈川県産きゅうり 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.008mg/kg)、群馬県産春菊 1 検体(基準値 30mg/kg のところ 0.012mg/kg)、フサライド・秋田県産玄米 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.030mg/kg)、ププロフェジン・熊本県産トマト 1 検体(基準値 1mg/kg のところ 0.011mg/kg)、フルフェノクスロン・栃木県産ほうれん草 1 検体(基準値 10mg/kg のところ 0.036mg/kg)、ホスチアゼート・埼玉県産きゅうり 1 検体(基準値 0.2mg/kg のところ 0.011mg/kg)、レナシル・栃木県産ほうれん草 1 検体(基準値 0.3mg/kg のところ 0.009mg/kg)であった。

表 1 市内産農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg

農産物名	キャベツ		きゅうり		こまつな		トマト	にんじん		ナバタツ	ピーマン	大根の根	じゃがいも
	麻生区	宮前区	宮前区	宮前区	宮前区	宮前区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	高津区	
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
検査依頼項目数	1 EPN			○	○	○	○		○	○			
	2 アクリナトリン										○		
	3 アザコナゾール			○						○			
	4 アジンホスメチル			○	○	○	○	○	○				○
	5 アゾキシストロビン		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	6 アトラジン		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	7 アニロホス							○	○				○
	8 アラクロール			○	○	○	○			○	○		
	9 イサゾホス				○	○	○	○	○				
	10 イソカルボホス	○											
	11 イソプロチオラン			○									
	12 イプロバリカルブ											○	○
	13 イマザリル											○	○
	14 イミダクロプリド											○	○
	15 インダノファン												○
	16 インドキサカルブ	○								○		○	○
	17 ウニコナゾール P	○											
	18 エスプロカルブ	○											
	19 エチオン		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	20 エディフェンホス			○	○	○	○	○	○				
	21 エトフェンブロックス	○											
	22 エトプロホス		○	○	○	○	○	○	○		○		
	23 エトベンザニド									○			
	24 エトリムホス				○	○	○	○	○				
	25 エンドスルファン		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	26 オキサジアゾン	○											
	27 オキサジクロメホン												○
	28 オキサミル									○			○
	29 オキシカルボキシ												○
	30 オキシフルオルフェン	○											

○:不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名		キャベツ	きゅうり	こまつな	トマト	にんじん		ナッター	ピーマン	大根の根	じゃがいも
生産地区		麻生区	宮前区	宮前区	宮前区	宮前区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	高津区
31	カズサホス		○	○	○	○	○	○	○		
32	カルバリル						○			○	○
33	カルプロパミド						○			○	
34	カルボフェノチオン	○									
35	キナルホス		○	○	○	○	○	○	○		
36	キノクラミン (ACN)			○							
37	キントゼン	○						○			
38	クミルロン									○	○
39	クレソキシムメチル		○	○		○	○	○	○		
40	クロキントセットメキシル										○
41	クロチアニジン										○
42	クロフェンテジン									○	
43	クロマフェノジド									○	
44	クロメプロップ								○		
45	クロリダゾン									○	○
46	クロルタールジメチル	○						○			
47	クロルピリホス		○	○	○	○		○	○		
48	クロルピリホスメチル		○	○	○	○	○	○	○		
49	クロルフェナビル		○		○			○			
50	クロルフェンゾン							○			
51	クロルフェンビンホス		○	○	○	○	○	○	○		
52	クロルフルアズロン						○			○	○
53	クロルプロファム		○	○	○	○	○		○		
54	クロロクシロン									○	○
55	サリチオン			○		○	○				
56	シアゾファミド									○	
57	シアナジン		○	○	○	○	○	○	○		
58	シアノホス		○	○	○	○	○	○	○		
59	ジウロン									○	○
60	ジエトフェンカルブ	○	○		○			○			
61	ジクロトホス	○									
62	ジクロフェンチオン			○		○	○	○			
63	ジクロラン		○		○	○	○	○			
64	ジフェナミド	○									
65	ジフェニルアミン							○			
66	ジフェノコナゾール		○		○	○	○		○		
67	シフルフェナミド		○		○				○		
68	シフルフェニカン	○									
69	シフルベンズロン							○		○	
70	シプロジニル	○						○		○	○
71	シマジン	○						○			
72	シメコナゾール		○	○	○			○		○	○
73	ジメチピン					○	○				
74	ジメチルピンホス			○		○	○				
75	ジメテナミド	○									
76	ジメトエート		○		○	○	○		○		
77	ジメトモルフ									○	○
78	ジメビバレート							○			
79	ターバシル							○			
80	ダイアジン		○	○	○	○	○	○	○		
81	チアクロプリド										○
82	チアベンダゾール									○	○
83	チアメトキサム										○
84	チオジカルブ及びメソミル										○
85	チオベンカルブ	○						○			
86	チフルザミド	○									
87	デスメディファム							○			
88	テトラクロルピンホス		○	○	○	○	○	○	○	○	
89	テトラコナゾール							○			
90	テトラジホン	○						○			
91	テブコナゾール	○						○			
92	テブチウロン									○	○
93	テブフェノジド										
94	テブフェンピラド	○						○			
95	テフルトリン	○						○			

○:不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名		キャベツ	きゅうり	こまつな	トマト	にんじん		ナッター	ピーマン	大根の根	じゃがいも
生産地区		麻生区	宮前区	宮前区	宮前区	宮前区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	高津区
96	テフルベンズロン									○	○
97	デメトシ- S-メチル						○				
98	デルタメトリン及びトラロメトリン								○		
99	テルブトリン						○				
100	テルブホス		○	○	○			○	○		
101	トリアジメノール	○					○				
102	トリアジメホン	○					○				
103	トリアレート		○	○	○	○	○	○	○		
104	トリブホス (DEF)								○		
105	トリフルムロン									○	○
106	トリフルラリン	○					○				
107	トリフロキシストロビン	○					○				
108	トルクロホスメチル		○	○	○	○	○	○	○		
109	ナプロパミド	○									
110	ノバルロン									○	○
111	パクロプロトラゾール	○					○				
112	パラチオン (パラチオンエチル)		○	○	○	○	○	○	○		
113	パラチオンメチル		○	○	○	○	○	○	○		
114	ピオレスメトリン						○				
115	ピフェノックス			○							
116	ピフェントリン		○	○	○	○	○	○	○		
117	ピペロホス		○					○			
118	ピラクロストロビン									○	○
119	ピラクロホス		○	○	○	○	○	○	○		
120	ピラゾリネート									○	
121	ピリダフェンチオン			○							
122	ピリダベン		○		○			○			
123	ピリフタリド										○
124	ピリミカーブ						○			○	○
125	ピリミジフェン	○					○				
126	ピリミホスメチル		○	○	○	○	○	○	○		
127	ピンクロゾリン	○									
128	フィプロニル		○	○	○	○		○	○		
129	フェナミホス		○	○	○	○	○	○	○		
130	フェナリモル		○	○	○	○	○	○	○		
131	フェントロチオン (MEP)		○	○	○	○	○	○	○		
132	フェノキシカルブ	○						○		○	
133	フェノブカルブ							○		○	○
134	フェリムゾン									○	○
135	フェンアミドン									○	○
136	フェンスルホチオン			○	○						
137	フェントエート			○	○	○	○				
138	フェンバレレート								○		
139	フェンピロキシメート									○	○
140	フェンプロバトリン		○					○	○		
141	フェンメディファム									○	
142	ブタクロール	○									
143	ブタフェナシル	○					○			○	
144	ブタミホス		○	○	○	○	○	○	○		
145	ブプロフェジン		○		○			○	○		
146	ブラメトピル									○	○
147	フルシトリネート			○		○	○		○		
148	フルトラニル		○	○				○	○		
149	フルバリネート								○		
150	フルフェノクスロン						○			○	○
151	フルミオキサジン	○					○				
152	フルリドン									○	○
153	プレチラクロール	○									
154	プロシミドン	○					○				
155	プロチオホス							○			
156	プロバキサゾール									○	
157	プロバクロール	○									
158	プロバホス			○							
159	プロピョナゾール	○	○		○		○				
160	プロピザミド	○									

○:不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	キャベツ		きゅうり		こまつな		トマト		にんじん		ナッター	ピーマン	大根の根	じゃがいも
	麻生区	宮前区	宮前区	宮前区	宮前区	宮前区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	麻生区	高津区	
161	プロフェノホス		○	○	○	○	○	○		○	○			
162	プロメトリン	○								○				
163	プロモプロピレート		○	○	○	○	○	○		○	○			
164	プロモホス (プロモホスメチル)			○										
165	ヘキサフルムロン									○			○	
166	ヘキシチアゾクス												○	○
167	ペナラキシル	○								○				
168	ベルメトリン	○								○				
169	ペンコナゾール	○								○				
170	ベンシクロン												○	○
171	ベンゾフェナップ													○
172	バンダイオカルブ									○			○	○
173	ベンディメタリン	○					○			○				
174	ベンフルラリン			○										
175	ホサロン		○											
176	ボスカリド												○	○
177	ホスチアゼート		○	○	○	○	○	0.016	○		○	○		
178	ホスファミドン		○	○	○	○	○	○		○	○			
179	ホスメット	○												
180	ホノホス			○										
181	ホレート			○	○			○	○		○			
182	マラチオン (マラソン)		○	○	○	○	○	○		○	○			
183	マイクロブタニル		○				○	○	○		○			
184	メカルバム	○												
185	メタクリホス			○										
186	メタバズチアズロン												○	○
187	メチダチオン		○	○	○	○	○	○		○	○			
188	メトキシフェノジド												○	○
189	メトラクロール	○								○				
190	メプロニル	○												
191	モノクロトホス	○								○				
192	モノリニュロン												○	○
193	モリネート			○							○			
194	ラクトフェン												○	
195	リニュロン									○			○	○
196	ルフェヌロン												○	○
197	レナシル		○	○	○	○	○	○	○		○	○		

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg

農産物名	かぼちや	ズッキーニ		キャベツ					きゅうり			玄米		大豆		こまつな		しゅんぎく
		茨城県	長野県	千葉県	群馬県	神奈川県	愛知県	神奈川県	埼玉県	群馬県	岩手県	秋田県	北海道	茨城県	秋田県	群馬県		
検査依頼項目数	50	50	20	50	50	20	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1
検査依頼項目	1	BHC			○	○												
	2	EPN	○	○			○	○	○		○		○	○		○	○	
	3	γ-BHC (リンデン)			○	○												
	4	アクリナトリン								○				○				
	5	アザコナゾール						○	○		○		○	○				
	6	アザメチホス																
	7	アジンホスメチル						○	○		○							○
	8	アゾキシストロビン			○	○	○	○	○	0.008	○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	かぼちや	ズッキーニ	キャベツ						きゅうり			玄米		大豆		こまつな	しゅんぎく
			千葉県	群馬県	神奈川県	愛知県	神奈川県	埼玉県	群馬県	岩手県	秋田県	北海道	茨城県	秋田県			
生産地区	茨城県	長野県															
9	アトラジン	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○	○	
10	アニコホス					○	○	○					○				○
11	アラクロール	○	○	○		○		○		○		○		○	○	○	
12	アラマイト																
13	イサゾホス					○	○	○				○					
14	イソプロチオラン					○	○	○				○	○	○			
15	イプロバリカルブ																
16	イマザリル																○
17	イミダクロプリド																○
18	インダノファン																○
19	インドキサカルブ				○												○
20	ウニコナゾール P				○												
21	エチオン	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
22	エディフェンホス					○		○		○		○	○				
23	エトフェンブロックス				○												
24	エトプロホス	○	○			○	○	○	○	○					○	○	
25	エトリムホス					○	○	○		○		○	○				
26	エボキシコナゾール																○
27	エンドスルファン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
28	オキサジキシル				○	○											
29	オキサジクロメホン																○
30	オキサミル									○	○						○
31	オキシカルボキシ																
32	オキシフルオルフェン				○												
33	オリザリン																
34	カズサホス	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○		
35	カフェンストール					○	○	○									
36	カルバリル									○	○						○
37	カルプロバミド									○							○
38	キナルホス	○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	○		
39	キノクラミン (ACN)	○	○			○	○	○				○	○		○		
40	キントゼン				○												
41	クミルロン																
42	クレソキシムメチル	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○		
43	クロキントセットメキシル																○
44	クロチアニジン																○
45	クロフェンテジン			○	○												○
46	クロマフェノジド																○
47	クロメブロッツ							○				○	○				
48	クロリダズン																
49	クオルタールジメチル				○												
50	クオルピリホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
51	クオルピリホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
52	クオルフェナビル	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				
53	クオルフェンソン					○	○			○							
54	クオルフェンピンホス	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
55	クオルフルアズロン																○
56	クオルプロファミ	○	○	○		○	○		○	○	○		○	○	○		
57	クロロクシロン																○
58	サリチオン					○		○		○							
59	シアゾファミド																○
60	シアナジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
61	シアノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
62	ジウロン																
63	ジエトフェンカルブ				○				○	○	○						
64	ジクロエート																
65	ジクロトホス				○												
66	ジクロフェンチオン					○		○									
67	ジクロプロトラゾール							○					○				
68	ジクロラン	○	○					○					○	○	○		
69	ジチオビル							○				○	○				
70	シハロホップブチル							○		○		○	○				
71	ジフェノコナゾール				○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
72	シフルフェナミド								○	○							
73	ジフルベンズロン										○						○
74	シプロジニル				○												○
75	シメコナゾール	○	○					○	○		○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	かぼちや	ズッキーニ	キャベツ					きゅうり			玄米		大豆	こまつな		しゅんぎく	
			千葉県	群馬県	神奈川県	愛知県	神奈川県	埼玉県	群馬県	岩手県	秋田県	北海道		茨城県	秋田県		群馬県
生産地区	茨城県	長野県															
76 ジメチピン										○		○	○				
77 ジメチリモール																	
78 ジメチルピホス					○	○	○					○	○				
79 ジメテナミド				○													
80 ジメトエート									○	○	○	○	○	○			
81 ジメトモルフ																	○
82 スピノサド																	○
83 ターバシル				○													
84 ダイアジノン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
85 ダイムロン																	
86 チアクロプリド																	
87 チアベンダゾール										○	○						○
88 チアメトキサム																	○
89 チオジカルブ及びメソミル																	
90 チオベンカルブ				○													
91 テトラクロルピホス	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
92 テトラコナゾール				○													
93 テトラジホス				○													
94 テブコナゾール				○													
95 テブチウロン																	○
96 テブフェノジド										○							○
97 テフルトリン				○													
98 テフルベンズロン											○						○
99 デルタメトリン及びトラロメトリン											○	○	○				
100 テルブホス	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
101 トリアジメノール				○													
102 トリアジメホス				○													
103 トリアゾホス																	
104 トリアレート	○	○		○				○		○	○	○	○	○	○	○	
105 トリコナゾール																	
106 トリブホス (DEF)											○						
107 トリフルムロン																	○
108 トリフルラリン				○													
109 トリフロキシストロビン				○													
110 トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
111 ナプロアニリド																	
112 ナプロパミド				○													
113 ノバルロン																	○
114 パラチオン (パラチオンエチル)	○	○		○		○		○	○	○	○		○	○	○	○	
115 パラチオンメチル	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
116 ハルフェンプロックス																	
117 ビテルタノール				○	○												
118 ビフェノックス											○	○					
119 ビフェントリン	○	○	○	○	○	○			○	○					○	○	
120 ビペロニルプトキシド				○	○												
121 ビペロホス																	
122 ビラクロストロビン																	○
123 ビラクロホス	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
124 ビラゾリネート																	
125 ビリダフェンチオン	○	○				○		○							○	○	
126 ビリダベン				○				○	○								
127 ビリフタリド																	○
128 ビリプロキシフェン				○	○												
129 ビリミカーブ																	○
130 ビリミジフェン				○													
131 ビリミホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
132 ピンクロソリン				○													
133 フィプロニル	○	○		○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	
134 フェナミホス	○	○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	
135 フェナリモル	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	
136 フェントロチオン (MEP)	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	
137 フェノキシカルブ				○													○
138 フェノチオカルブ				○													
139 フェノブカルブ										○							○
140 フェリムズン																	
141 フェンアミド																	○
142 フェンクロルホス										○		○					
143 フェンスルホチオン						○	○	○		○			○	○	○	○	

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	かぼちや	ズッキーニ	キャベツ					きゅうり			玄米		大豆	こまつな		しゅんぎく	
			千葉県	群馬県	神奈川県	愛知県	神奈川県	埼玉県	群馬県	岩手県	秋田県	北海道		茨城県	秋田県		群馬県
144	フェントエート	○	○	○		○	○	○				○	○	○	○	○	
145	フェンバレレート	○	○							○		○	○	○			
146	フェンピロキシメート																○
147	フェンプロパトリン	○	○	○	○		○			○	○			○		○	
148	フェンメディファム																○
149	フサライド											○	0.030				
150	ブタフェナシル																
151	ブタミホス	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	
152	ブプロフェジン	○	○	○				○	○			○	○	○			
153	フラメトビル																
154	フルキンコナゾール													○			
155	フルジオキソニル			○	○												
156	フルシトリネート										○	○	○	○			
157	フルシラゾール				○												
158	フルトラニル	○	○		○		○			○	○	○	○		○	○	
159	フルバリネート													○			
160	フルフェノクスロン																○
161	フルリドン																○
162	プロシミドン				○												
163	プロチオホス	○	○		○		○	○	○							○	○
164	プロバキサホップ																○
165	プロバクロール				○												
166	プロパニル				○	○											
167	プロバホス						○		○				○				
168	プロビコナゾール				○					○	○						
169	プロビザミド				○												
170	プロフェノホス	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
171	プロメトリン				○												
172	プロモプロビレート	○	○	○	○					○			○	○	○	○	
173	プロモホス(プロモホスメチル)																
174	ヘキサコナゾール				○	○											
175	ヘキサフルムロン																
176	ヘキシチアゾクス																○
177	ペナラキシル					○											
178	バルメトリン					○											
179	ペンコナゾール					○											
180	ベンシクロン										○						○
181	ベンゾフェナップ																○
182	ベンダイオカルブ																
183	ベンディメタリン				○												
184	ベンフルラリン										○						
185	ホサロン						○	○	○	○							
186	ボスカリド																
187	ホスチアゼート	○	○	○			○	○	○	○	0.011	○	○	○		○	○
188	ホスファミドン	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
189	ホスメット					○											
190	ホノホス						○		○								
191	ホレート	○	○							○						○	○
192	マラチオン(マラソン)	○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
193	マイクロプタニル	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○
194	メタベンズチアズロン																
195	メチダチオン	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
196	メトキシフェノジド																○
197	メトラクロール					○											
198	メパニピリム																
199	メビンホス															○	○
200	メプロニル					○											
201	モノクロトホス					○											
202	モノリニューロン																○
203	ラクトフェン																○
204	リニューロン											○					
205	ルフェヌロン											○					○
206	レナシル	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg

農産物名	トマト		ミニトマト	大根の根		じゃがいも	にんじん		パプリカ	ピーマン	ほうれんそう			りんご			日本なし		
	熊本県	群馬県	福島県	千葉県	神奈川県	北海道	千葉県	埼玉県	茨城県	福島県	群馬県	栃木県	茨城県	青森県	長野県	栃木県			
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	50	20	20	50	50	50	44	44	50	50	17	
検出項目数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
検査依頼項目	1 BHC							○											
	2 EPN	○		○				○			○							○	
	3 γ-BHC (リンデン)							○											
	4 アクリナトリン		○																
	5 アザヨナゾール	○							○										
	6 アザメチホス				○														
	7 アジンホスメチル				○													○	
	8 アゾキシストロビン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9 アトラジン	○		○	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	10 アニロホス				○		○		○					○					
	11 アラクロール								○			○	○	○					
	12 アラマイト					○	○												
	13 イサゾホス	○																	
	14 イソプロチオラン	○							○						○	○	○	○	
	15 イソバカリカルブ					○	○												
	16 イマザリル	○	○		○	○	○												○
	17 イミダクロプリド				○	○	○												
	18 インダノファン				○	○	○												
	19 インドキサカルブ				○	○	○												
	20 ユニコナゾール P																		
	21 エチオン	○	○	○	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	22 エディフェンホス												○						
	23 エトフェンブロックス																		
	24 エトプロホス			○								○							
	25 エトリムホス											○							
	26 エボキシヨナゾール				○														
	27 エンドスルファン		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	28 オキサジキシル							○											
	29 オキサジクロメホン				○	○	○												
	30 オキサミル						○												○
	31 オキシカルボキシ					○													
	32 オキシフルオルフェン																		
	33 オリザリン					○													
	34 カズサホス	○	○	○								○	○	○					
	35 カフェンストロール																		
	36 カルバリル		○	○	○	○	○						○						○
	37 カルプロバミド	○			○														○
	38 キナルホス			○					○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	39 キノクラミン (ACN)	○																	
	40 キントゼン																		
	41 クミルロン					○	○												
	42 クレソキシムメチル							○	○	○	○		○						
	43 クロキントセツメキシル				○														
	44 クロチアエジン						○												
	45 クロフェンテジン					○	○		○				○						
	46 クロマフェノジド				○	○													
	47 クロメプロップ					○	○												
	48 クロリダゾン				○	○	○												
	49 クロルタルジメチル																		
	50 クロルピリホス	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	51 クロルピリホスメチル		○	○	○				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	52 クロルフェナビル	○	○						○	○					○	○	○	○	○
	53 クロルフェンソロン																		
	54 クロルフェンビンホス	○	○	○	○				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	55 クロルフルアズロン		○	○	○	○	○					○	○						○
	56 クロルプロファミ			○	○				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	57 クロロクシロン				○		○												
	58 サリチオン	○																	
	59 シアゾファミド				○	○													
	60 シアナジン	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	61 シアノホス	○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	62 ジウロン				○	○	○												
	63 ジェトフェンカルブ	○	○	○	○														
	64 シクロエート					○	○												
	65 ジクロトホス																		
	66 ジクロフェンチオン								○			○	○						○
	67 ジクロプロトラゾール																		○
	68 ジクロラン	○	○						○	○				○					○
	69 ジチオビル													○					○
	70 シハロホップブチル												○						

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	トマト		ミニトマト		大根の根		じゃがいも	にんじん		パプリカ	ピーマン	ほうれん			りんご		日本なし
	熊本県	群馬県	福島県	千葉県	神奈川県	北海道	千葉県	埼玉県	茨城県	福島県	群馬県	栃木県	茨城県	青森県	長野県	栃木県	
71	ジフェノコナゾール	○	○	○	○			○	○				○	○	○	○	
72	シフルフェナミド	○	○			○	○						○	○	○	○	
73	ジフルベンスロン		○	○	○	○	○					○					○
74	シプロジニル				○		○										
75	シメコナゾール		○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	
76	ジメチピン							○	○			○	○	○			
77	ジメチリモール					○	○										
78	ジメチルピンホス	○							○			○					○
79	ジメテナミド								○								
80	ジメトエート		○	○	○			○	○			○	○	○	○	○	
81	ジメトモルフ				○		○										
82	スピノサド																
83	ターバシル																
84	ダイアジノン	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
85	ダイムロン						○										
86	チアクロプリド						○	○									
87	チアベンダゾール		○	○	○	○	○	○				○					
88	チアメトキサム							○									
89	チオジカルブ及びメソミル							○									
90	チオベンカルブ																
91	テトラクロルピンホス		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
92	テトラコナゾール																
93	テトラジホン																
94	テブコナゾール																
95	テブチウロン				○	○	○										
96	テブフェノジド		○		○												○
97	テフルトリン																
98	テフルベンスロン	○	○	○	○	○	○	○				○					○
99	デルタメトリン及びトラロメトリン	○	○											○	○	○	○
100	テルブホス								○			○	○	○	○	○	
101	トリアジメノール																
102	トリアジメホン																
103	トリアゾホス																○
104	トリアレート	○						○	○			○	○	○	○	○	
105	トリチコナゾール						○										
106	トリブホス (DEF)																
107	トリフルムロン				○	○	○										
108	トリフルラリン																
109	トリフロキシストロピン																
110	トルクロホスメチル	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
111	ナプロアニリド						○										
112	ナプロバミド																
113	ノバルロン				○	○	○										
114	パラチオン (パラチオンエチル)	○	○	○	○			○	○			○	○	○	○	○	○
115	パラチオンメチル		○	○	○			○	○			○	○	○	○	○	○
116	ハルフェンプロックス												○			○	
117	ピテルタノール																
118	ピフェノックス																
119	ピフェントリン	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
120	ピペロニルブトキシド							○									
121	ピペロホス	○							○								○
122	ピラクロストロピン				○	○	○										
123	ピラクロホス		○	○	○			○	○			○	○	○	○	○	
124	ピラゾリネート				○												
125	ピリダフェンチオン	○										○					
126	ピリダベン	○	○	○													
127	ピリフタリド				○												
128	ピリプロキシフェン							○									
129	ピリミカーブ		○	○	○	○	○					○					○
130	ピリミジフェン																
131	ピリミホスメチル		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
132	ピンクロソリン																
133	フィプロニル			○	○				○			○	○	○	○	○	○
134	フェナミホス	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
135	フェナリモール	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
136	フェニトロチオン (MEP)	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
137	フェノキシカルブ				○	○											
138	フェノチオカルブ																
139	フェノブカルブ		○	○	○												○
140	フェリムゾン						○										

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	トマト		ミニトマト	大根の根		じゃがいも	にんじん		パプリカ	ピーマン	ほうれんそう			りんご			日本なし	
	熊本県	群馬県	福島県	千葉県	神奈川県	北海道	千葉県	埼玉県	茨城県	福島県	群馬県	栃木県	茨城県	青森県			長野県	栃木県
141	フェンアミドン				○	○												
142	フェンクロロホス																	
143	フェンスルホチオン	○	○	○							○							
144	フェントエート							○	○		○	○	○	○	○	○	○	
145	フェンバレレート							○						○	○	○	○	
146	フェンピロキシメート	○	○	○		○						○						○
147	フェンプロバトリン								○	○					○	○	○	○
148	フェンメディファム					○	○											
149	フサライド											○						
150	ブタフェナシル					○	○											
151	ブタミホス	○		○	○			○	○		○							○
152	ブプロフェジン	0.011	○	○	○					○	○	○		○	○	○	○	
153	フラメトビル					○	○											
154	フルキンコナゾール			○										○	○	○	○	
155	フルジオキサニル							○										
156	フルシトリネート	○						○	○					○	○	○	○	
157	フルシラゾール																	
158	フルトラニル	○	○	○	○						○	○	○					
159	フルバリネート								○	○								
160	フルフェノクスロン				○	○	○						0.036					○
161	フルリドン				○													
162	プロシミドン																	
163	プロチオホス								○					○	○	○	○	
164	プロバキサホップ				○		○											
165	プロバクロール																	
166	プロパニル							○										
167	プロバホス										○							
168	プロピコナゾール				○													
169	プロピザミド																	
170	プロフェノホス	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
171	プロメトリン																	
172	プロモプロピレート	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
173	プロモホス(プロモホスメチル)	○																
174	ヘキサコナゾール							○										
175	ヘキサフルムロン					○	○	○										○
176	ヘキシチアゾクス				○	○	○											
177	ベナラキシル																	
178	ベルメトリン																	
179	ベンコナゾール																	
180	ベンシクロン				○		○											○
181	ベンゾフェナップ				○													
182	ベンダイオカルブ						○											○
183	ベンディメタリン	○		○	○													
184	ベンフルラリン																	
185	ホサロン										○							
186	ボスカリド				○	○	○											
187	ホスチアゼート	○	○	○	○			○		○								
188	ホスファミドン	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	
189	ホスメット																	
190	ホノホス																	
191	ホレート							○	○		○	○	○	○	○	○	○	
192	マラチオン(マラソン)	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	
193	マイクロブタニル	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	
194	メタベンズチアズロン					○	○											
195	メチダチオン			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
196	メトキシフェノジド				○	○	○											
197	メトラクロール																	
198	メパニピリム	○	○															
199	メピンホス																	
200	メプロニル																	
201	モノクロトホス																	
202	モノリニューロン				○		○											
203	ラクトフェン				○		○											
204	リニューロン		○	○	○	○	○					○						○
205	ルフェヌロン	○	○	○	○	○	○											○
206	レナシル	○	○	○	○			○	○	○	○	○	0.009	○	○	○	○	

○:不検出

(イ) 輸入農産物の検査

保健所食品安全課、各区役所保健福祉センター衛生課及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の10検体・計493項目について検査を実施した(表3)。

検出が認められた農薬と農産物は、アゾキシストロビン・フィリピン産バナナ1検体(基準値3mg/kgのところ0.005mg/kg)、韓国産パプリカ1検体(基準値3mg/kgのところ0.093mg/kg)、クロルピリホス・アメリカ産グレープフルーツ1検体(基準値1mg/kgのところ0.023mg/kg)、イスラエル産グレープフル

ーツ1検体(基準値1mg/kgのところ0.009mg/kg)、フィリピン産バナナ3検体(基準値3mg/kgのところ0.008、0.023、0.043mg/kg)、デルタメトリン及びトラロメトリン・フィリピン産バナナ1検体(基準値0.5mg/kgのところ0.080mg/kg)、ピフェントリン・エクアドル産バナナ1検体(基準値0.1mg/kgのところ0.009mg/kg)、フェンプロパトリン・アメリカ産グレープフルーツ1検体(基準値5mg/kgのところ0.050mg/kg)であった。

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg

農産物名	かぼちや	フグ ルレ ー ツ			バナナ			パ プ リ カ			
		ニ ラ ン ド ジ ー	ア メ リ カ	イ ス ラ エ ル	エ ク ア ド ル	フ イ リ ピ ン		韓 国	オ ラ ン ダ	ニ ラ ン ド ジ ー	
検査依頼項目数	50	50	50	50	43	50	50	50	50	50	
検出項目数	0	2	1	1	3	1	1	1	0	0	
検査依頼項目	1 EPN	○	○	○	○			○		○	○
	2 アクリナトリン				○	○	○		○	○	○
	3 アザコナゾール	○		○				○			○
	4 アジンホスメチル								○		○
	5 アゾキシストロビン				○	0.005	○	○	0.093	○	○
	6 アトラジン	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	7 アニロホス		○							○	○
	8 アラクロール		○	○				○	○		○
	9 イサゾホス	○	○	○				○		○	○
	10 イソプロチオラン	○						○			○
	11 エチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12 エディフェンホス		○	○						○	○
	13 エトプロホス	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	14 エトリムホス	○	○	○				○			○
	15 エンドスルフアン	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	16 カズサホス		○		○	○	○	○	○	○	○
	17 キナルホス	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	18 キノクラミン (ACN)							○			
	19 クレソキシムメチル	○	○	○	○	○	○		○	○	
	20 クロメプロップ				○			○			
	21 クロルピリホス	○	0.023	0.009	○	0.008	0.023	0.043	○	○	○
	22 クロルピリホスメチル	○		○	○	○	○		○	○	○
	23 クロルフエナピル	○									
	24 クロルフエンソン			○				○			
	25 クロルフエンピンホス	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	26 クロルプロファミン		○	○	○	○	○		○	○	
	27 サリチオン		○	○			○	○			○
	28 シアナジン	○							○	○	
	29 シアノホス	○	○		○	○	○		○	○	○
	30 ジクロフェンチオン			○			○	○			○

○:不検出

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	かぼ ちや	フグ ルレ ー ツブ		バナナ			パ プ リ カ			
		ニ ュ ー ド ー ジ	ア メ リ カ	イ ス ラ エ ル	エ ク ア ド ル	フ ィ リ ピ ン	韓 国	オ ラ ン ダ	ニ ュ ー ド ー ジ	
31	ジクロブトラゾール			○				○		
32	ジクロラン	○						○		
33	ジチオピル	○		○	○					
34	ジフェノコナゾール				○	○	○	○	○	
35	シフルフェナミド						○	○	○	
36	シメコナゾール	○	○	○			○			
37	ジメチルビンホス		○				○			○
38	ジメトエート				○	○	○	○	○	○
39	ダイアジノン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
40	テトラクロルピンホス	○	○	○			○	○	○	○
41	デルタメトリン及びトラロメトリン				○	0.080	○	○	○	○
42	テルブホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	トリアゾホス				○					○
44	トリアレート	○		○	○	○	○	○	○	
45	トリブホス (DEF)	○		○	○	○	○	○	○	
46	トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	パラチオン (パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	ハルフェンブロックス			○						
50	ビフェノックス						○			
51	ビフェントリン	○	○	○	0.009	○	○	○	○	
52	ビペロホス	○	○	○			○			○
53	ピラクロホス						○	○	○	○
54	ピラゾホス						○	○		
55	ピリダフェンチオン		○				○			○
56	ピリミホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	フィプロニル	○	○	○	○	○	○	○	○	
58	フェナミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	フェナリモル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	フェニトロチオン (MEP)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	フェンクロルホス						○	○		
62	フェンスルホチオン				○	○				○
63	フェントエート	○	○	○			○			○
64	フェンバレレート	○	○	○	○	○	○			
65	フェンプロパトリン	○	0.050	○	○	○	○	○	○	○
66	ブタミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	ブプロフェジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	フルキンコナゾール						○	○		
69	フルシトリネート		○	○	○	○	○	○	○	
70	フルトラニル			○			○	○	○	
71	フルバリネート						○	○	○	
72	プロチオホス		○	○	○	○	○	○		○
73	プロパホス	○		○						
74	プロフェノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
75	プロモプロピレート	○	○	○	○	○	○	○	○	
76	プロモホス (プロモホスメチル)						○			
77	ベンフルラリン		○	○						
78	ホサロン			○			○			○
79	ホスチアゼート	○	○	○	○			○	○	○
80	ホスファミド	○		○	○	○	○	○	○	○
81	ホノホス			○						○
82	ホレート	○	○	○	○	○				
83	マラチオン (マラソン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
84	ミクロブタニル	○	○	○	○	○	○			
85	メチダチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
86	レナシル	○	○	○	○	○	○	○	○	

○:不検出

(7) 輸入畜産物の検査

保健所食品安全課、各区役所保健福祉センター衛生課依頼分の2検体・計26項目について検査を実施したところ、検出が認められた検体は無かった(表4)。

(I) 学校給食用食材の検査

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食会依頼分の8検体・計152項目について検査を実施した(表5)。

検出が認められた農薬と食材は、プロシミドン・群馬県産キャベツ1検体(基準値2mg/kgのところ0.019mg/kg)であった。

表4 輸入畜産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg

農産物名		牛肉	
生産地区		オーストラリア	
検査依頼項目数		13	13
検出項目数		0	0
検査依頼項目	1 BHC	○	○
	2 DDT	○	○
	3 γ-BHC (リンデン)	○	○
	4 アルドリン及びディルドリン	○	○
	5 エンドスルファン	○	○
	6 エンドリン	○	○
	7 クロルデン	○	○
	8 ジコホール	○	○
	9 ビフェントリン	○	○
	10 フィプロニル	○	○
	11 プロシミドン	○	○
	12 ヘキサクロロベンゼン	○	○
	13 ヘプタクロル	○	○

○:不検出

表5 学校給食食材の残留農薬検査結果

単位:mg/kg

農産物名		キャベツ		牛乳	きゅうり	にんじん		大根の根
生産地区		群馬県	愛知県	神奈川県	宮崎県	北海道	茨城県	神奈川県
検査依頼項目数		20	20	12	20	20	20	20
検出項目数		0	1	0	0	0	0	0
検査依頼項目	1 BHC			○				
	2 DDT			○				
	3 EPN	○	○			○	○	
	4 γ-BHC (リンデン)			○				
	5 アズキシストロビン	○			○		○	○
	6 アトラジン		○		○		○	
	7 アラクロール	○	○				○	
	8 アルドリン及びディルドリン			○				
	9 イミダクロプリド							○
	10 インドキサカルブ	○						○
	11 ウニコナゾール P	○						
	12 エチオン					○		
	13 エトフェンプロックス	○						
	14 エンドリン			○				
	15 オキサジクロメホン							○
	16 カズサホス	○	○		○	○	○	
	17 カルバリル							○
	18 キントゼン	○						
	19 クミルロン							○
	20 クレソキシムメチル	○	○		○		○	
	21 クロマフェノジド							○
	22 クロルタルジメチル	○						
	23 クロルデン			○				

○:不検出

表5 学校給食食材の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg

農産物名	キヤベツ		牛乳	きゅうり	にんじん		大根の根
	群馬県	愛知県	神奈川県	宮崎県	北海道	茨城県	神奈川県
24	クロルピリホス	○		○	○	○	
25	クロルピリホスメチル				○		
26	クロルフルアズロン						○
27	シアゾファミド						○
28	シアナジン			○		○	
29	シアノホス				○		
30	ジウロン						○
31	ジエトフェンカルブ	○					
32	ジコホール		○				
33	ジフェノコナゾール	○		○		○	
34	シプロジニル	○					
35	ジメトエート				○		
36	ダイアジノン	○		○	○	○	
37	テトラジホン	○					
38	テブコナゾール	○					
39	テフルトリン	○					
40	テフルベンズロン						○
41	トリアジメノール	○					
42	トリアジメホン	○					
43	トリフルラリン	○					
44	トルクロホスメチル				○		
45	ナプロパミド	○					
46	ノバルロン						○
47	ピフェントリン		○				
48	ピラクロストロビン						○
49	ピラクロホス				○		
50	ピリダベン			○			
51	ピリミホスメチル	○		○	○	○	
52	ピンクログリン	○					
53	フィプロニル	○	○	○		○	
54	フェントロチオン (MEP)	○	○	○	○	○	
55	フェノブカルブ						○
56	フェリムゾン						○
57	フェントエート	○	○		○	○	
58	フェンピロキシメート						○
59	フェンプロパトリン	○	○				
60	ブタミホス	○	○		○	○	
61	ブプロフェジン	○	○		○		
62	フルトラニル	○	○			○	
63	フルフェノクスロン						○
64	プロシミドン		0.019	○			
65	プロチオホス	○	○		○	○	
66	プロパクロール		○				
67	プロフェノホス				○	○	
68	ヘキサクロロベンゼン			○			
69	ヘプタクロル			○			
70	ペルメトリン		○				
71	ペンディメタリン		○		○		
72	ホサロン				○		
73	ホスチアゼート	○	○		○	○	
74	ホスメット		○				
75	マラチオン (マラソン)	○			○	○	
76	ミクロブタニル		○		○	○	
77	メチダチオン	○	○		○	○	
78	メトキシフェノジド						○
79	リニューロン						○
80	ルフェヌロン						○

○:不検出

イ 放射性物質検査

平成23年3月11日の福島第一原発事故後より放射性ヨウ素(ヨウ素 131)と放射性セシウム(Cs-134とCs-137)について測定を行っている。

保健所食品安全課、農業振興センター、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会及び上下水道局水道水質課から依頼のあった、総数121検体・延べ242項目(内訳:食品113検体226項目、水など環境試料8検体16項目)について放射能検査(放射性セシウム測定)を実施した。

(7) 市内産農産物

経済労働局農業振興センター一依頼分の市内産農産物について22検体の検査を実施したところ、結果は全て不検出(基準値[Cs-134及び137の合計で100 Bq/kg]以下)であった(表6)。

表6 市内農産物の放射性物質検査結果

品名	検体件数 (計22件)	産地	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
うめ	1	多摩区	不検出	不検出
カリフラワー	1	高津区	不検出	不検出
キャベツ	1	高津区	不検出	不検出
きゅうり	1	麻生区	不検出	不検出
こまつな	1	中原区	不検出	不検出
さつまいも	2	麻生区	不検出	不検出
さといも	1	麻生区	不検出	不検出
じゃがいも	1	高津区	不検出	不検出
トマト	1	高津区	不検出	不検出
なす	1	宮前区	不検出	不検出
のらぼうな	1	多摩区	不検出	不検出
ぶどう	1	多摩区	不検出	不検出
ブルーベリー	1	麻生区	不検出	不検出
ブロッコリー	1	高津区	不検出	不検出
ほうれんそう	1	中原区	不検出	不検出
みかん	1	麻生区	不検出	不検出
らっかせい	1	麻生区	不検出	不検出
柿	1	麻生区	不検出	不検出
玉ネギ	1	高津区	不検出	不検出
大根	1	宮前区	不検出	不検出
日本なし	1	多摩区	不検出	不検出

(イ) 市内流通食品

保健所食品安全課依頼分の、市内に流通する一般食品20検体について検査を実施した。検査結果は、一般食品区分(基準値[Cs-134及び137の合計で100 Bq/kg]以下)の「しいたけ」1検体に4.8 Bq/kgの検出を認めた。それ以外は全て不検出であった(表7)。

表7 市内流通食品の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計20件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	うどん	1	不検出	不検出
	カツオ	2	不検出	不検出
	サンマ缶詰	1	不検出	不検出
	しいたけ	1	不検出	4.8
	つるむらさき	1	不検出	不検出
	トマト	1	不検出	不検出
	ブリ	1	不検出	不検出
	ミニトマト	1	不検出	不検出
	みりん干し	1	不検出	不検出
	もち米	1	不検出	不検出
	干あみえび	1	不検出	不検出
	鮭	1	不検出	不検出
	鮭フレーク	1	不検出	不検出
	鮭缶詰	1	不検出	不検出
	精米	4	不検出	不検出
	発泡酒	1	不検出	不検出

(ウ) 学校給食

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食会依頼分の71検体について検査を実施したところ、全て不検出であった(表8)。

(イ) 水道水

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び配水8検体について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表9)。

表8 学校給食食材の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計71件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	いか	1	不検出	不検出
	いり大豆	1	不検出	不検出
	ウインナー	2	不検出	不検出
	かんぴょう	1	不検出	不検出
	コロッケ	1	不検出	不検出
	さといも	1	不検出	不検出
	すりおろしりんご	1	不検出	不検出
	ゼリー	3	不検出	不検出
	たけのこ(水煮)	1	不検出	不検出
	ちくわ	1	不検出	不検出
	トマトケチャップ	1	不検出	不検出
	トマトピューレ	1	不検出	不検出
	にら	1	不検出	不検出
	ハンバーグ	4	不検出	不検出
	はんぺん	1	不検出	不検出
	ピーマン	1	不検出	不検出
	ひなあられ	1	不検出	不検出
	ブリ切り身	1	不検出	不検出
	ベーコン	1	不検出	不検出
	わかめ	3	不検出	不検出
	茎わかめ	1	不検出	不検出
	鶏肉	1	不検出	不検出
	生クリーム	1	不検出	不検出
	精米	3	不検出	不検出
	大豆	2	不検出	不検出
	大豆ミート	1	不検出	不検出
	凍り豆腐	1	不検出	不検出
	柏餅	1	不検出	不検出
	白玉もち	2	不検出	不検出
	米粉	1	不検出	不検出
	片栗粉	1	不検出	不検出
	味噌	1	不検出	不検出
	卵	2	不検出	不検出
牛乳	牛乳	25	不検出	不検出

表9 水道水等の放射性物質検査結果

品名	検体件数 (計8件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
		Cs-134	Cs-137
長沢水道水原水	4	不検出	不検出
長沢水道水配水	4	不検出	不検出

3 微生物部門

(1) 消化器・食品細菌担当

腸管系細菌検査では、「感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく届出や市内の食中毒の発生により消化器症状(下痢、腹痛等)を呈した患者やその接触者から腸管系感染症(コレラ菌、赤痢菌、チフス・パラチフスA菌、腸管出血性大腸菌等)の分離・同定を行い、市内における食中毒被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また、分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防のため、川崎市食品衛生監視指導計画に基づき保健所、7保健所支所及び中央卸売市場食品衛生検査所から搬入された市内流通食品(食肉製品、乳製品、弁当類、そうざい等)について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査(細菌数、大腸菌群、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌等)を実施している。また、川崎市食品 GLP の対応として、外部精度管理調査(一般細菌数測定、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群、E.coli 検査)に年5回参加している。

ア 腸管系細菌

(7) 感染性細菌検査

感染症の発生に伴う感染性細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について、284 検体、697 項目の検査を実施した。月別検査件数は、表 1 のとおりである。また、菌種別の検出状況は、表 2 のとおりである。分離又は搬入された腸管出血性大腸菌 49 検体についての血清型及び毒素型は、表 3 に示すとおりである。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)は、届出対象外も含め、32 検体が搬入された。菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は、表 4 のとおりである。

(4) 細菌性食中毒検査

市内の食中毒や有症苦情及び他都市食中毒関連調査の検体が 294 検体搬入され

た。月別検査件数は、表 5 のとおりで、黄色ブドウ球菌が最も多く検出された。また、平成 29 年度の市内細菌性食中毒の発生状況は 2 件で表 6 に示すとおりである。

イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 7 に示すとおりである。平成 29 年度の総検体数は 1,961 検体で、不適項目(食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準による)は、延べ 222 件(11.3%)で、食品衛生法成分規格違反は無く、成分規格目標及び川崎市衛生指導基準による不適件数であった。

不適率の高い検体は、生食用鮮魚介類(32.0%)、生菓子(24.6%)、調理パン(23.3%)、魚介類加工品(22.2%)、弁当類(19.2%)であった。

食品別の細菌検出状況については、大腸菌群は非加熱そうざい、生菓子、食肉、加熱そうざい等から、サルモネラ属菌、カンピロバクター、リステリア菌は食肉から、セレウス菌は豆腐や非加熱そうざい等から、黄色ブドウ球菌は手指拭取や非加熱そうざい等から検出された。

ウ 水質細菌

水質細菌検査は、井戸水 87 検体、浴槽水・採暖槽水 81 検体、シャワー水 24 検体、プール水 79 検体が搬入され、一般細菌数及び大腸菌または大腸菌群の検査を実施した。

表1 感染性細菌検査における月別検査件数（菌株含む）

項目	検体数	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ(コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌	その他	総項目数
月																				
4月	2	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	21
5月	17	5	5	5	5	30	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2	0	107
6月	25	3	6	3	3	27	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	0	80
7月	39	3	3	3	6	40	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	6	0	94
8月	80	0	0	0	3	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	76
9月	41	2	8	2	2	41	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	77
10月	11	0	3	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9
11月	12	1	1	1	1	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	31
12月	18	3	3	3	3	26	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	0	75
1月	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	8
2月	6	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6
3月	25	1	11	1	1	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	0	42
総計	284	19	42	19	25	280	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	32	0	697

表2 感染性細菌検査における検出状況（菌株含む）

項目	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌	その他	検出細菌数 合計
月																				
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5月	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	8
6月	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	8
7月	0	0	0	1	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	15
8月	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	20
9月	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
10月	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
11月	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12月	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	8
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
2月	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
3月	0	3	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	15
検出件数	0	5	0	2	0	49	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	32	8	97

表3 腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数
O157	VT1&2	10
O157	VT2	20
O26	VT1	4
O111	VT1&2	2
O145	VT2	1
O146	VT1&2	10
O152	VT2	1
O108	VT1	1
計		49

表4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の菌種別遺伝子検出状況（平成29年4月～平成30年3月）

菌種	遺伝子検査 実施数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有割合(%)
<i>Enterobacter cloacae</i>	17	4*	23.5%
<i>Enterobacter aerogenes</i>	12	0	0
<i>Escherichia coli</i>	1	0	0
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	0	0	0
<i>Citrobacter freundii</i>	1	0	0
<i>Providencia rettgeri</i>	1	0	0
計	32	4	12.5%

* IMP-1遺伝子

表5 細菌性食中毒検査における月別検査件数及び検出状況（菌株含む）

項目	検体数	赤痢菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	腸炎ビブリオ (コレラ菌含む)	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	ウエルシュ菌	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ (コレラ菌非O1、ビブリオ・ミミカス)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・ソブリア	エロモナス・フィドロフィラ	ブレシオモナス・シゲロイデス	セレウス菌	検出細菌数 合計
月																			
4月	27	0	1	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
5月	58	0	0	0	0	0	2	3	2	15	0	0	0	0	0	0	0	0	22
6月	28	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
7月	46	0	5	0	0	0	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	13
8月	30	0	0	1	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
9月	17	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
10月	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
11月	29	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
12月	17	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1月	24	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2月	33	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
3月	99	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
総計	411	0	8	1	2	1	24	21	2	19	0	0	0	0	0	0	0	1	79

表6 市内細菌性食中毒発生事例（平成29年4月～平成30年3月）

No.	発生日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品 (種別)	病因物質	原因施設	措置
1	29. 4. 6	5	4	0	その他 (4. 4提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止2日間
2	29. 6.24	13	5	0	その他 (6.21提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止3日間

表7 食品細菌規格基準不適合数（平成29年4月～平成30年3月）

食品の種類	不適合数		検体数	一般細菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	セレウス菌	ウェルシュ菌	EHEC0157	EHEC	大腸菌	E.coli	E.coli (MPN)	腸炎ビブリオ	腸炎ビブリオ (MPN)	真菌類	カンピロバクター	NAGビブリオ	コレラ菌	赤痢菌	その他の食中毒菌	リステリア菌	ボツリス菌	緑膿菌	腸球菌	クロストリジウム属菌	その他	総項目数
	0	(%)																											
魚介類及びその加工品	生食用生かき	0	(0.0%)	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	生食用鮮魚介類	16	(32.0%)	50	2	15	0	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	17
	魚肉わねり製品	0	(0.0%)	2	0	0	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	魚介類加工品	2	(22.2%)	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
食肉及びその加工品	その他	4	-	25	2	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10
	食肉	0	-	70	4	21	0	9	-	-	0	0	0	0	-	-	-	20	-	-	-	-	3	-	-	-	-	57	
	生食用食肉	0	(0.0%)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	食肉製品	0	(0.0%)	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
卵及びその加工品	卵	0	(0.0%)	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	卵加工品	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	乳及びその加工品	0	(0.0%)	2	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	乳製品	0	(0.0%)	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
穀類・豆類及びその加工品	乳類加工品	0	-	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	めん類	3	(12.0%)	25	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	豆腐	6	(17.1%)	35	1	5	0	0	13	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	
	その他	0	-	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
野菜・果物及びその加工品	漬物	5	(15.2%)	33	8	11	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	
	野菜果物・その他	0	-	16	0	0	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	弁当類	23	(19.2%)	120	7	18	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	
	調理パン	10	(23.3%)	43	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
そうざい類	非加熱そうざい	66	(15.4%)	428	69	101	3	0	23	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	198	
	加熱そうざい	23	(5.6%)	409	4	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25		
	調味料(みそ・しょうゆ等)	0	-	8	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	菓子類	30	(24.6%)	122	7	24	0	0	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33	
清涼飲料水・粉末清涼飲料	菓子	0	-	12	0	0	0	0	1	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
	清涼飲料水	0	(0.0%)	13	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0		
	冷凍食品	0	(0.0%)	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	氷菓	0	(0.0%)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
レトルト	レトルト	0	(0.0%)	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
	その他の食品	1	-	20	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
	器具試取	19	(6.1%)	311	7	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21		
	手指試取	11	(10.5%)	105	3	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
ふきん・おしぼり	その他	3	-	37	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
	ふきん	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
	おしぼり	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
	不適合数合計	222		127	253	10	9	42	0	1	0	0	5	0	2	0	3	20	0	0	0	0	4	0	0	0	2	478	
年間件数合計	1,961		1,857	1,849	1,762	1,473	640	124	241	1,205	46	1,451	1	119	43	10	240	51	51	53	303	34	8	2	6	17	11,588		
%	11.3		6.8	13.7	0.6	0.6	6.6	0.0	0.4	0.0	0.0	0.3	0.0	1.7	0.0	30.0	8.3	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	4.1	

(2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・インフルエンザ菌・百日咳菌等の呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

ア 結核関連検査

(7) 塗抹・培養検査・遺伝子検査

結核登録患者管理検診、結核患者接触者健診対象者に対して塗抹・培養検査を実施している。

平成 29 年度は 122 件の搬入があり、このうち 2 件は遺伝子検査として LAMP 法を行った。結果は、塗抹陽性 1 件、培養陽性 1 件、LAMP 法陽性 0 件であった。

(4) IGRA 検査

結核患者接触者健診において T-SPOT.TB 検査を実施している。年間の検査件数は 1,045 件であった。検査結果は、表 1 に示すとおり、陽性 86 件(8.23%)、陽性判定保留 22 件(2.10%)、陰性判定保留 15 件(1.44%)、陰性 910 件(87.08%)、判定不可 12 件(1.15%)であった。

(5) 結核菌分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、平成 25 年度から川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR 法で遺伝子解析を行っている。

平成 29 年度は菌株 89 株が搬入され、遺伝子解析を行った。更に、患者の疫学情報とあわせて分析を行い、菌バンクとしてデータを蓄積した。

また、特定の患者同士の突合依頼が 4 件あり、分析を行った。

イ レジオネラ属菌検査

浴槽水や冷却塔水等の環境水、レジオネラ症患者発生時の患者喀痰や患者環境調査検体等からのレジオネラ属菌の分離培養を行った。また、遺伝子検査として LAMP 法を行った。

レジオネラ属菌検査の総数は 231 件、LAMP 法は 50 件だった。

各検査材料別の件数および検出血清型は表 2 に示すとおりである。

ウ 感染症発生動向調査

A 群溶血性レンサ球菌検査について、平成 29 年度は 28 件の搬入があった。このうち 23 件で A 群溶血性レンサ球菌が検出され、T 型別は T1 が 7 件、T2 が 3 件、T3 が 1 件、T4 が 3 件、T6 が 1 件、T12 が 3 件、T25 が 2 件、T28 が 1 件、TB3264 が 1 件、型別不能が 1 件であった。(表 3)

エ 感染症細菌検査

感染症の発生に伴う細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について検査を実施した。

ヘモフィルス・インフルエンザ菌は 8 株搬入され f 型 2 株、non-typable (NTHi) 6 株であった。

劇症型溶血性レンサ球菌は 12 株搬入され、A 群 10 株、B 群 1 株、G 群 1 株であった。

髄膜炎菌は、咽頭ぬぐい液検体及び鼻腔ぬぐい液検体が各 1 検体搬入されたが菌は検出されなかった。菌株は 1 株が搬入され Y 群であった。

肺炎球菌は 44 症例 54 株の搬入があり、血清型別を行った。血清型別結果は表 4 に示すとおりである。

表1 T-SPOT. TB検査

依頼件数	陽性	陽性判定保留	陰性判定保留	陰性	判定不可
1,045	86(8.23%)	22(2.10%)	15(1.44%)	910(87.08%)	12(1.15%)

表2 レジオネラ属菌検出状況

血清群		環境					感染症		計
		浴槽水	シャワー水	冷却塔水	採暖槽水	その他	喀痰	患者環境調査	
<i>L. pneumophila</i>	SG1	5 ※	1		2 ※		3		11 ※
	SG3	2			1				3
	SG5	5 ※			3				8 ※
	SG6	8 ※			3				11 ※
	SG8	1			1 ※				2 ※
	SG12	2 ※							2 ※
	血清群不明	3 ※							3 ※
検出数計		26	1	0	10	0	3	0	40
総検体数		131	35	0	30	1	12	22	231

※同一検体より複数の血清群が分離されたもの

表3 A群溶血性レンサ球菌 T型別

区分	T型別									計	
	T1	T2	T3	T4	T6	T12	T25	T28	TB3264		型別不能
件数	7	3	1	3	1	3	2	1	1	1	23

表4 肺炎球菌 血清型別

区分	血清型別																		計	
	1	3	6B	7F	10A	11A/E	12F	19A	19F	20	22F	23F	24F	6C	15A	31	35B	37		38
件数(15歳以上)	1	4	1	2	3	1	7	4	2	2	1	1		2	1	4	1	1		38
件数(15歳未満)							3						1				1		1	6

(3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく感染症発生動向調査事業ならびに感染症対策における積極的疫学調査等により採取された検体のウイルス、リケッチア及びクラミジア検査、「食品衛生法」に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルス検査及び衛生動物検査を行っている。

ア 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検査

市内定点医療機関において咽頭結膜熱、手足口病、無菌性髄膜炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎ならびに脳炎・脳症等と診断された患者から採取された 472 検体について、細胞によるウイルス分離培養、PCR等で検査を行ったところ 424 件からウイルスが検出された。その月別件数を表 1、疾患別件数を表 2 に示した。

イ 感染症対策におけるウイルス検査

(7) 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

小学校の集団かぜ初発患者から鼻腔ぬぐい液を採取し、PCR及びウイルス分離培養にて検査を行った。その結果、7 集団でインフルエンザウイルスが検出された(表 3)。

(4) 発熱発疹性ウイルス検査

麻しんならびに風しん疑い症例における病原ウイルス検索のため、患者 19 名の検体について RT-PCR 及びシーケンス法を行った。その結果、麻しんウイルス 1 例が検出された(表 4)。

(7) デングウイルス検査

海外渡航歴においてデングウイルス感染を疑う患者 7 名について RT-PCR 法ならびにリアルタイム PCR 法による検査を行ったところ、デングウイルス 2 例が検出された(表 5)。

(I) A 型肝炎・E 型肝炎ウイルス検査

医療機関において A 型肝炎または E 型肝炎と診断された患者等 18 名について

RT-PCR を行ったところ、A 型肝炎ウイルス 8 例、E 型肝炎ウイルス 2 例が検出された(表 6)。

(オ) リケッチア・クラミジア検査

ツツガムシ病・日本紅斑熱が疑われる患者 5 名について PCR を行ったところ、リケッチアは検出されなかった(表 7)。

ウ ライトトラップによる蚊の捕獲と蚊媒介ウイルス検査

市内 7 箇所 8 地点の保健所等でライトトラップを設置し、平成 29 年 5 月から 10 月まで蚊を毎週 1 回捕集した。種別した雌蚊 145 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカについてはデングウイルス及びチクングニアウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルスは検出されなかった(表 8)。

エ 食中毒等起因ウイルスならびに食品等のウイルス検査

食中毒等で搬入された 144 検体についてリアルタイム PCR 及び RT-PCR を行ったところ、ノロウイルス 50 件が検出された(表 9)。また、食中毒に伴う食品検査ならびに市内に流通している食品(生かき)等 60 検体について RT-PCR を行ったところ、ノロウイルスは検出されなかった(表 10)。

表1 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（月別）

発症月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	29	38	30	28	23	27	17	25	64	102	65	24	472
検出数	26	34	25	21	18	25	14	29	53	99	59	21	424
インフルエンザウイルスAH1pdm09						5	3	7	22	17	9	1	64
インフルエンザウイルスAH3	4	1	2	2	5	2			6	26	10	9	67
インフルエンザウイルスBベトナム系統	9	2							3				14
インフルエンザウイルスB山形系統	3	5	3			2		1	14	48	34	5	115
インフルエンザウイルスB系統不明										1	3	1	5
RSウイルス		1	2	1	3	3	1		1		1	1	14
パラインフルエンザウイルス2型								1					1
ヒトメタニューモウイルス		1		1									2
ライノウイルス		2										1	3
ヒトボカウイルス		1											1
ムンプスウイルス	1							1					2
アデノウイルス2型		1							1				2
アデノウイルス3型		1	1			1		3	3	1			10
アデノウイルス4型		1	1			1							3
アデノウイルス5型				1									1
アデノウイルス41型			1										1
アデノウイルス54型							1						1
アデノウイルス64型			1										1
アデノウイルス64型		1	1										2
コクサッキーウイルスA6型	1	4	5	11	5	2	1						29
コクサッキーウイルスA9型				2	1	2	1	1					7
コクサッキーウイルスA10型							1						1
コクサッキーウイルスB2型								1					1
エンテロウイルス71型					1		2	2					5
ヒトパレコウイルス1型			1			1		1					3
パルボウイルスB19					1	1							2
単純ヘルペス1型	1								1				2
単純ヘルペス2型							1						1
サイトメガロウイルス		1	1			1		2		1		1	7
EBウイルス		1		1	1			1		1			5
水痘ウイルス	2	3	1	1			4	2	1	1	1		16
ヘルペスウイルス6型	1		1			1		5		1	1	2	12
ヘルペスウイルス7型			1	1	1			2		2			7
ヒトアストロウイルス1型		1											1
ロタウイルスG2P[4]	4	4	2										10
ロタウイルスG3P[8]		1											1
ノロウイルスGII.4		2	1			1			1				5

表2 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（疾患別）

	インフルエンザ	R Sウイルス	伝染性紅斑	突発性発疹	水痘	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	流行性耳下腺炎	無菌性髄膜炎	感染性胃腸炎	ロタウイルス	急性脳炎	合計
検出数	271	13	2	6	16	30	1	15	4	2	16	13	6	29	424
インフルエンザウイルスAH1pdm09	64														64
インフルエンザウイルスAH3	66													1	67
インフルエンザウイルスB ^{レクテリア} 系統	14														14
インフルエンザウイルスB山形系統	113													2	115
インフルエンザウイルスB系統不明	5														5
RSウイルス	1	13													14
ヒトメタニューモウイルス	2														2
パラインフルエンザウイルス2型	1														1
ライノウイルス	2													1	3
ヒトボカウイルス	1														1
ムンプスウイルス										2					2
アデノウイルス2型								2							2
アデノウイルス3型								9	1						10
アデノウイルス4型								3							3
アデノウイルス5型	1														1
アデノウイルス41型														1	1
アデノウイルス56型									1						1
アデノウイルス54型									1						1
アデノウイルス64型								1	1						2
コクサッキーウイルスA6型	1					26								2	29
コクサッキーウイルスA9型											7				7
コクサッキーウイルスA10型								1							1
コクサッキーウイルスB2型											1				1
エンテロウイルス71型						4					1				5
ヒトパレコウイルス1型													2	1	3
パルボウイルスB19			2												2
単純ヘルペス1型														2	2
単純ヘルペス2型											1				1
サイトメガロウイルス				1	1									5	7
E Bウイルス					1									4	5
水痘ウイルス						11					5				16
ヘルペスウイルス6型				5	1									6	12
ヘルペスウイルス7型					2						1			4	7
ヒトアストロウイルス1型												1			1
ロタウイルスG2P[4]												4	6		10
ロタウイルスG3P[8]												1			1
ノロウイルスGⅡ.4												5			5

表3 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検査				ウイルス型
			AH1pdm09	A香港型	B型山形系統	B型レクテリア系統	
H29.9.11	川崎区小学校	2	2/2	0/2	0/2	0/2	AH1pdm09
H29.9.21	高津区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09
H29.12.11	麻生区小学校	2	0/2	0/2	2/2	0/2	B型山形系統
H29.12.19	中原区小学校	5	5/5	0/5	0/5	0/5	AH1pdm09
H30.1.16	宮前区小学校	3	0/3	0/3	3/3	0/3	B型山形系統
H29.1.17	幸区小学校	2	2/2	0/2	0/2	0/2	AH1pdm09
H29.1.24	多摩区小学校	4	0/4	0/4	4/4	0/4	B型山形系統

表4 発熱発疹性ウイルス検査

検査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	3	2	1	2	1	1	5	1	0	1	1	1	19
麻しんウイルスB3													0
麻しんウイルスD8							1						1
風しんウイルス2B													0

表5 デングウイルス検査

検査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	0	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	7
デングウイルス1型													0
デングウイルス2型						1							1
デングウイルス3型		1											1
デングウイルス4型													0

表6 A型肝炎・E型肝炎ウイルス検査

検査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	0	1	4	1	2	5	0	1	0	0	1	3	18
A型肝炎ウイルス I A		1	1			1					1	3	7
A型肝炎ウイルス I B						1							1
E型肝炎ウイルス III型					1	1							2

表7 リケッチア・クラミジア検査

検査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	1	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	5
ツツガムシ群リケッチア													0
日本紅斑熱群リケッチア													0
発疹熱リケッチア													0
オウム病クラミジア													0

表8 ライトトラップにおけるウエストナイルウイルス、デングウイルスならびにチクングニアウイルスの検査数と蚊の種別捕集数

採取月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
川崎保健所	7	7	10	9	10	5	48
幸保健所	3	4	7	5	5	3	27
中原保健所	0	2	3	4	4	2	15
高津保健所	0	0	0	2	2	0	4
宮前保健所	1	3	5	3	4	2	18
多摩保健所	1	2	1	2	4	0	10
麻生保健所	3	3	7	6	2	2	23
合計	15	21	33	31	31	14	145

蚊の種類（雌雄合計匹数）	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ群	16	28	10	6	21	9	90
ヒトスジシマカ	22	101	377	435	175	68	1,178
コガタアカイエカ	0	0	0	0	1	1	2
キンパラナガハシカ	0	0	0	1	9	18	28
ヤマトヤブカ	6	9	6	15	1	3	40
オオクロヤブカ	0	0	0	0	1	0	1
総計	44	138	393	457	208	99	1,339

PCR検査結果	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
フラビウイルス(ジカウイルス)	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

表9 食中毒起因ウイルス検査

検査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	16	10	20	25	0	14	10	4	18	17	3	7	144
検出遺伝子型	5	6	0	6	0	1	1	3	11	12	2	3	50
ノロウイルスGⅠ.7										1		1	2
ノロウイルスGⅡ.2	1					1			9	7	2		20
ノロウイルスGⅡ.3				1									1
ノロウイルスGⅡ.4		6		3				3	2				14
ノロウイルスGⅡ.17	4						1			2		2	9
ノロウイルスGⅡ型不明				2						2			4

表10 食品からのノロウイルス検査

検査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	7	0	19	7	0	9	0	0	3	15	0	0	60
ノロウイルス													0

【第3章 試験検査】

1 月別検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
結核	分離・同定・検査・検出	15	6	15	8	18	5	17	15	9	4	8	8	128
	核酸検査	3	5	19	4	8	8	5	10	5	12	9	4	92
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性病	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス、リケッチア等検査	48	75	194	82	70	75	57	40	79	130	74	41	965
	リケッチア	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	5
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病原性微生物の動物試験	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原虫・寄生虫等	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食中毒	病原性微生物検査	30	8	23	29	9	29	16	4	17	13	2	6	186
	細菌	16	10	19	24	0	14	10	4	18	17	3	7	142
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床検査	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液等検査	0	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	3	8
尿検査	エイズ(HIV)検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	HBs抗原・抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他HCV	71	112	54	75	101	115	81	52	75	56	130	97	1,019
	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
食品等検査	微生物学的検査	203	207	253	279	193	265	200	150	144	137	90	8	2,129	
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物)	26	28	45	89	38	41	38	117	118	48	92	31	711	
	動物を用いる試験	0	1	1	1	1	0	5	0	1	0	0	0	26	36
	その他(ウイルスも含む)	1	4	15	3	15	6	0	32	3	0	0	0	1	80
	(上記以外)	10	29	33	47	86	46	14	22	30	18	14	26	26	375
	核酸検査	5	5	6	4	3	2	3	3	5	8	5	0	0	49
	抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医薬品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医薬品・家庭用品等検査	化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	家庭用品	0	0	0	12	14	17	19	20	0	18	20	2	2	122
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	
	栄養関係検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	水道等水質検査	水道原水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌学的検査		0	0	0	0	1	11	17	12	46	7	1	9	9	104
理化学的検査		0	0	2	0	1	13	17	12	46	0	1	2	2	94
細菌学的検査		0	14	3	44	97	18	24	34	51	36	36	37	37	394
理化学的検査		0	7	2	33	60	12	7	9	15	14	9	23	23	191
細菌学的検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理化学的検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物関係検査	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
環境・公害関係検査	大気検査	SO ₂ ・NO ₂ ・O ₃ 等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		有害化学物質・重金属等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		公共用水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水質検査	工場・事業場排水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		環境生物検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一般室内環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	環境試料(雨水・空気・土壌等)	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	8	
	食品	15	12	11	5	11	7	14	7	12	8	7	4	113	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	4	0	5	0	0	0	12	0	21	

2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)							
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)											
結核	分離・同定・検出	0	128	0	0	0	128		125							
	核酸検査	0	8	0	0	84	92		92							
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0							
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0		(0)							
								1. STS 定性	0							
								2. STS 定量	0							
								3. TPHA 定性	0							
								4. TOHA 定量	0							
								5. 梅毒(ELISA)	0							
	6. その他	0														
	その他	0	0	0	0	0	0		(0)							
1. 淋病								0								
	2. その他	0														
ウイルス・リケッチア等検査	ウイルス	0	965	0	0	0	965		(1,284)							
								1. 細胞培養	532							
								2. 鶏卵培養	0							
								3. 酵素抗体	0							
								4. 蛍光抗体	0							
								5. 遺伝子増幅	752							
	6. その他	0														
	分離・同定・検出	リケッチア	0	5	0	0	0	5		(5)						
									1. 細胞培養	0						
									2. 鶏卵培養	0						
									3. 酵素抗体	0						
									4. 蛍光抗体	0						
									5. 遺伝子増幅	5						
	6. その他	0														
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0		(0)						
									1. 細胞培養	0						
									2. 鶏卵培養	0						
									3. 蛍光抗体	0						
									4. 遺伝子増幅	0						
	5. その他	0														
抗体検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0		(0)							
								1. 中和試験	0							
								2. HI試験	0							
								3. CP試験	0							
								4. 酵素抗体	0							
								5. ワイル・フェリックス反応	0							
6. その他	0															
リケッチア	0	0	0	0	0	0	0		0							
								クラミジア・トラコマティス	0	0	0	0	0	0		(0)
															1. 性器クラミジア抗体IgA	0
								IgG	0							
	病原微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0		0							

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
原虫・寄生虫	原虫	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1. アメーバー赤痢	0	
								2. その他	0	
	寄生虫	0	2	0	0	0	2	(2)		
								1. 蟻虫	0	
								2. その他	2	
	そ族・節足動物	0	121	0	0	0	121	(121)		
								1. 害虫動物	0	
								2. 殺虫効力試験	0	
								3. 生態習性試験	0	
							4. その他	121		
真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0			
食中毒	病原微生物検査	細菌	0	186	0	0	0	186	(3,890)	
									1. 食中毒病原菌21菌種	3,885
									2. 腸管出血大腸菌	0
								3. その他の細菌	5	
	ウイルス(SRSV)(A型肝炎)	0	142	0	0	0	142	(135)		
								1. SRSV電子顕微鏡	0	
								2. NV遺伝子増幅	135	
	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0		
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0		
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0		
	エイズ(HIV)検査	0	8	0	0	0	8	(8)		
								1. PA法	0	
								2. 確認試験(W,B)	8	
		HBs抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	0	(0)	
									1. HBs抗原	0
									2. HBs抗体	0
								3. HBe抗原	0	
							4. HBe抗体	0		
							5. IgMHbC抗体	0		
							6. その他	0		
	その他	0	1,019	0	0	0	1,019	(1,019)		
								1. HCV抗体	0	
							2. QFT	0		
						3. その他	1,019			
生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0	0	0			
尿検査	尿一般	0	0	0	0	0	0			
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0	0	0			
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0			
その他	0	0	0	0	0	0	0			

	依頼によるもの				依頼に よらない もの(5)	検査 件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)							
	住民(1)	保健所(2)	保健所 以外の 行政機関 (3)	その他 (医療機 関、学 校、事務 所)(4)											
食品等 検査	微生物学的検査	0	2,008	90	31	0	2,129	(13,691)							
	食品細菌	0	1,840	90	31	0	1,961	(11,583)							
								1. 生菌数	1,857						
								2. 大腸菌数	1,849						
	食中毒細菌(食品・ふき取り等)	0	108	0	0	0	108	(2,048)							
								1. 食中毒病原菌21菌種	2,037						
								2. 腸管出血大腸菌	0						
	食中毒ウイルス(食品等)	0	60	0	0	0	60	(60)							
								1. 電子顕微鏡	0						
								2. 遺伝子増幅	60						
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	276	23	20	392	711	(14,122)							
								食品添加物	0	215	15	20	252	502	(1,558)
															1. 食品添加物
	2. 動物用医薬品	710													
3. 遺伝子組換え食品	27														
残留農薬	0	61	8	0	140	209	(12,564)								
							1. 残留農薬	12,564							
							2. 金属類	0							
動物を用いる試験	0	6	5	0	25	36	36								
							その他	0	29	7	2	42	80	(332)	
														1. 金属類	142
2. 炭水水素等	0														
(上記以外)細菌検査	分離・同定・検出	0	297	0	0	78	375	(692)							
								1. 赤痢菌	42						
								2. サルモネラ(腸・バラ含む)	25						
								3. 病原大腸菌	76						
								4. 腸炎ビブリオ	19						
								5. コレラ菌	19						
								6. 病原ブドウ球菌	0						
								7. カンピロバクター・ジェジュ/コリー	38						
								8. 腸管出血大腸菌	204						
								9. その他の腸管病原菌	133						
								10. レンサ球菌	75						
	11. その他の細菌	61													
核酸検査	0	9	0	0	40	49	0								
抗体検査	0	0	0	0	0	0	0								
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0								

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0	0		0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0		0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0		0	
	医療用具	0	0	0	0	0	0		0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0		0	
	家庭用品	0	114	0	0	8	122		(276)	
								1. ホルムアルデヒド	113	
								2. 有機水銀化合物	10	
								3. トルフェニル銀化合物	10	
								4. トリブチル錫化合物	10	
								5. 酸/アルカリ定量	2	
							6. 容器試験	8		
							7. テトクロロエチレン	3		
							8. トリクロロエチレン	3		
							9. メタノール	0		
							10. 蛍光	0		
							11. その他	117		
	その他	0	18	0	0	1	19	1. 健康食品等	342	
栄養関係検査		0	0	0	0	0	0	1. 成分検査	0	
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		0
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0		0
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		0
	飲用水	細菌学的検査	0	104	0	0	0	104		(194)
									1. 一般細菌数	90
									2. 大腸菌等	90
									3. その他	14
		理化学的検査	0	90	0	0	4	94		(944)
									1. 井戸水	870
									2. 貯槽水	54
								3. 船舶水	0	
								4. 簡易水道水	0	
								5. 専用水道水	0	
								6. 水道直結栓水	0	
							7. その他	20		
（利用水等を含む）	細菌学的検査	0	394	0	0	0	394		(578)	
								1. 一般細菌数	184	
								2. 大腸菌群	184	
								3. その他	210	
	理化学的検査	0	191	0	0	0	191		(406)	
								1. プール水	156	
								2. その他	250	

			依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
			住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
	産業廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	1. 汚泥	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
環境・公害関係	大気汚染	SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0	0		0	
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0		0	
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0		0	
		有害化学物質・重金属	0	0	0	0	0	0		0	
		酸性雨	0	0	0	0	0	0		0	
		その他	0	0	0	0	0	0		0	
	水道検査	公共用水		0	0	0	0	0		(0)	
										1. 河海水底質	0
										2. その他	0
		工場・事業場排水		0	0	0	0	0	0		(0)
										1. 工場・事業場排水	0
										2. その他	0
		浄化槽放流水		0	0	0	0	0	0		0
				0	0	0	0	0	0		(0)
									1. 一般細菌数	0	
									2. 大腸菌群	0	
									3. その他	0	
	騒音・振動		0	0	0	0	0	0		0	
	土壌・低質検査		0	0	0	0	0	0		0	
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0		0	
		その他	0	0	0	0	0	0		0	
	一般室内環境		0	0	0	0	0	0	1. 落下細菌	0	
	その他		0	0	0	0	0	0		0	
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)		0	0	8	0	0	8		(16)	
									1. セシウム134	8	
									2. セシウム137	8	
									3. ヨウ素131	0	
	食品		0	20	93	0	0	113		(226)	
									1. セシウム134	113	
									2. セシウム137	113	
								3. ヨウ素131	0		
	その他		0	0	0	0	0	0		(0)	
									1. セシウム134	0	
								2. セシウム137	0		
							3. ヨウ素131	0			
温泉(鉱泉)泉質検査		0	0	0	0	0	0		0		
その他		0	21	0	0	0	21		12		
計		0	6,161	226	53	674	7,114		38,548		

3 食品別検査項目内訳

(1) 食品別検査項目内訳 (理化学検査)

区分	項目	総検体数	総項目数	着色料	保存料	発色剤	漂白剤	甘味料	強化剤	殺菌料	酸化防止剤	品質保持剤	防かび剤	酸味料	その他の添加物	不許可添加物	水分活性	品質検査	シアン化合物	マイコトキシン	魚介毒	塩分濃度	酸価過酸化物価	動物用医薬品	規格試験	食品成分	P C B	残留農薬	放射能	重金属	遺伝子組換え食品検査	特定原材料検査	その他					
魚介類		24	113			2															10			55			3	10	24				9					
魚介類	ねり製品	9	15	1	9	1																						4										
加工品	その他	23	55		8	1					14					1		6			11							14										
食肉及びその加工品	食肉	22	327																				299					26	2									
食肉及びその加工品	食肉製品	29	57	1	20	22																					14											
卵及びその加工品		12	158																				154					4										
穀類及びその加工品		49	168	1	6	1						14				1												100	24	12	8							
野菜果実類及び漬物		26	82	8	16			2			2					10		42													2							
その加工品	野菜果実・その他	132	2,917	7	17	8	3						16			15											2,768	70	12				1					
豆類及びその加工品		16	75	5												1												50	14	3								
乳及びその加工品	乳類	30	76																					5				12	50									
その加工品	乳製品	10	20		4										3	2												2										
調味料		19	64	2	51	1	4				4					2																						
菓子類		23	60	12	11			12								11																						
清涼飲料水		20	83	5	15	2	8									2													26									
酒精飲料		7	32	5	5	3	5									8												2										
油脂類		1	2																																			
びん詰・缶詰食品		9	26	4	5	1					2					8																						
健康食品		0	0																																			
その他の食品		6	7	2																																		
食品添加物		0	0																																			
器具及び容器包装		3	6																																			
おもちゃ		4	15																																			
その他		1	4																																			
合計		475	4,362	53	167	23	19	34	0	0	22	14	16	0	3	61	0	50	2	4	21	0	0	513	53	0	3	2,956	226	60	27	16	19					

(2) 食品別検査項目内訳（食品細菌検査）

区分	項目	総検体数	総項目数	一般細菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	サルモネラ	セレウス菌	ウエルシュ菌	EHEC O157	EHEC	大腸菌	E・coli	E・coli (MPN)	腸炎ビブリオ	腸炎ビブリオ (MPN)	真菌類	カンピロバクター	NAGビブリオ	コレラ菌	赤痢菌	その他の食中毒菌	リステリア菌	ボツリヌス菌	緑膿菌	腸球菌	クロストリジウム属菌	その他	
魚介類及びその加工品	生食用生かき	2	8	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生食用鮮魚介類	52	261	52	52	51	3	0	0	0	0	0	49	0	2	50	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
食肉及びその加工品	魚肉おろし製品	7	28	7	7	7	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	65	324	56	54	55	31	0	1	3	2	0	45	0	33	10	0	0	8	8	8	0	10	0	0	0	0	0	0
卵及びその加工品	食肉	52	225	25	25	10	36	1	0	41	40	0	4	0	0	0	0	23	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0
	生食用食肉	4	10	0	0	0	1	0	0	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳及びその加工品	食肉製品	26	131	13	13	23	26	3	0	12	10	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	6
	卵	5	11	2	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類・豆類及びその加工品	卵加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳	3	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野菜・果物及びその加工品	乳製品	10	39	5	6	4	6	0	0	5	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
	乳類加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弁当類	めん類	22	109	22	22	22	6	17	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豆腐	37	206	37	37	37	37	33	0	1	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そうざい類	その他	5	22	4	4	3	3	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	漬物	36	230	33	33	32	13	4	0	30	30	1	32	0	4	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
調味料(みそ・しょうゆ等)	野菜・果物・その他	35	124	14	14	14	10	10	0	22	22	7	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	弁当類	112	614	112	112	112	98	38	2	10	2	0	100	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菓子類	調理パン	38	218	38	38	38	24	0	0	5	2	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非加熱そうざい	411	2,558	408	408	408	400	271	11	77	77	9	402	0	16	0	0	15	14	14	14	14	0	0	0	0	0	0	0
清涼飲料水・粉末清涼飲料	加熱そうざい	336	2,095	336	336	320	333	130	67	74	72	10	298	0	22	0	0	33	16	16	16	16	0	0	0	0	0	0	0
	調味料(みそ・しょうゆ等)	2	8	2	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水菓	生菓子	147	805	147	147	147	147	60	0	10	10	0	137	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	菓子	12	54	12	12	9	9	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
冷凍食品	清涼飲料水・粉末清涼飲料	13	31	13	12	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	冷凍食品	13	39	13	7	2	5	2	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レトルト	水菓	1	6	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	レトルト	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふきとり	その他の食品	49	231	46	46	34	33	24	0	21	18	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	器具拭取	294	1,114	294	294	290	70	11	0	0	0	0	139	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふきん・おしぼり	手指拭取	90	346	90	90	89	17	4	0	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	52	206	52	52	52	27	15	0	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1,935	10,063	1,842	1,830	1,763	1,360	651	81	316	294	28	1,409	2	127	62	12	73	38	38	41	30	42	8	2	2	6	6	6

4 水質別検査項目内訳

区分	項目	総 検 体 数	総 項 目 数	外 観 濁 度 色 度 臭 味	pH	窒 素 化 合 物	有 機 物	硬 度	陽 イ オ ン 類	陰 イ オ ン 類	蒸 発 残 留 物	残 留 塩 素	溶 存 酸 素	C O D	B O D	浮 遊 物 質	陰 イ オ ン 界 面 活 性 剤	不 可 溶 性 物 質	そ の 他 の 理 化 学 試 験	一 般 細 菌 数	大 腸 菌 又 は 大 腸 菌 群	そ の 他 の 細 菌 学 的 試 験	放 射 能		
飲料水検査	水道水																								
	浄水																								
	貯水槽水(細)	3	6																		3	3			
	その他(ウォーター)																								
	貯水槽水(理)	3	51	12	3	6	3	1	13	4	1	1							7						
	その他(ウォーター)		0																						
	水道原水		4																					4	
	水道配水		4																					4	
	井戸水(細)		87	189																		87	87	15	
	その他(ネラルウォーター)		0																						
井戸水(理)		87	870	261	87	174	87	87	87	87															
その他(ネラルウォーター)		0	0																						
中水道水(細)		0	0																						
その他		0	0																						
中水道水(理)		0	0																						
その他		0	0																						
生物学的検査		0	0																						
下水(細)		0	0																						
その他		0	0																						
下水(理)		0	0																						
その他		0	0																						
生物学的検査		0	0																						
し尿		0	0																						
浄化放流水(細)		0	0																						
浄化槽水		0	0																						
浄化放流水(理)		0	0																						
浄化槽水		0	0																						
生物学的検査		0	0																						
その他		0	0																						
公害・一般環境 検査	河川		0																						
	汚濁		0																						
	その他(浄水発生土)		0																						
	浴槽水		131	407	73															73	65	65	131		
	プール水・採暖槽水		109	408	94															94	95	95	30		
	その他(ウーリングタワー)		0	0																					
	その他(海水)		0	0																				0	
	温泉(鉱泉)		0	0																					
	その他(シャワー水等)		36	156	48															24	24	24	36		
	合計		456	2,095	488	90	180	90	88	100	91	1	1	0	0	0	0	0	0	198	274	274	212	8	

【第4章 調査研究】

1 平成29年度調査研究課題一覧

平成29年度に当研究所で実施した調査研究課題を次に示す。

平成29年度調査研究課題一覧

研究課題名	担当	研究の種類
カビ毒の実態調査等に関する研究(継続)	食品	共同研究
食品への毒物混入事件時における衛生研究所での「人体試料の検査手法」の標準化	食品	共同研究
食品中の食品添加物分析法の設定(オレイン酸ナトリウム分析法の検討)	食品	共同研究
食品用器具・容器包装等を使用される着色料 規格試験法の性能に関する研究	食品	共同研究
精神疾患における脳脊髄液及び血漿中ミネラル濃度に関する研究	水質・環境	共同研究
環境水中ウイルスの検出法検討	水質・環境	経常研究
食品中の金属分析に関する検討	残留農薬・放射能	経常研究
食品衛生検査を実施する試験所における品質保証システムに関する研究(厚生労働科学研究 食品の安全確保推進研究事業 研究協力)	理化学担当	共同研究
「薬剤耐性菌ゲノム情報の分子疫学的研究に基づく薬剤耐性菌克服に向けた総合的研究(AMED研究黒田班)」(分担研究者 岡部信彦)の研究協力(川崎市における薬剤耐性菌の分離状況の把握と耐性機序の検討)	残留農薬・放射能	共同研究
鮮魚に寄生する粘液胞子虫である <i>Unicapsula seriolae</i> の検査法の導入	消化器・食品細菌	経常研究
レプリコンタイピングによる下痢原性大腸菌のプラスミド保有状況の確認及び薬剤耐性状況等における関連性の検討	消化器・食品細菌	経常研究
「下痢症ウイルス感染症の分子疫学および流行予測に関する研究(AMED研究 木村班村上小班)」の研究協力	消化器・食品細菌	共同研究
結核菌VNTR解析におけるキャピラリーシークエンス法の検討について	呼吸器・環境細菌	経常研究
A群溶血性レンサ球菌の遺伝子型別解析	呼吸器・環境細菌	経常研究
環境中のレジオネラ属菌の分布状況の調査	呼吸器・環境細菌	経常研究
レジオネラ属菌の遺伝子迅速検査法の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
川崎市内における肺炎球菌の血清型分布状況について	呼吸器・環境細菌	共同研究
感染性胃腸炎患者から検出されるロタウイルスのバイオインフォマティクス解析	ウイルス・衛生動物	経常研究
「迅速・網羅的病原体ゲノム解析法の開発及び感染症危機管理体制の構築に資する研究(AMED研究黒田班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
市内における二枚貝のウイルス保有実態調査	ウイルス・衛生動物	共同研究
TOF-MSを用いたウイルス同定法の確立	ウイルス・衛生動物	経常研究
「麻疹ならびに風疹の排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室診断および国内ネットワーク構築に資する研究(AMED 研究森班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
「下痢症ウイルス感染症の分子疫学および流行予測に関する研究(AMED 研究木村班)」に関する研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
「ウイルス性呼吸器感染症の診断機能向上に関する研究」についての研究協力(都道府県等におけるMERS & Flu RT-LAMP法の試用)	ウイルス・衛生動物	共同研究

研究課題名	担当	研究の種類
「国内ならびにグローバルサーベイランスのためのRSウイルス感染症に関する検査システムの開発研究 (AMED研究 竹田班木村小班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
抗ジカウイルス抗体を使用した抗原検出キットの基礎検討	ウイルス・衛生動物	共同研究
新規インフルエンザ迅速診断キットにおける性能評価に関する研究	ウイルス・衛生動物	受託研究
アデノウイルス感染症に関する研究	ウイルス・衛生動物	受託研究
感染症が疑われる患者検体を用いた感染症迅速診断キットに関する検討(インフルエンザ)	感染症情報センター	受託研究
3類等感染症のMultistate Outbreakの可視化疫学解析システムの開発	感染症情報センター	共同研究
川崎市感染症情報発信システムを用いたEBS (Event based surveillance) の試み	感染症情報センター	共同研究
環境、気候変動と感染症流行動態	感染症情報センター	共同研究
川崎市健康安全研究所における職員のウイルス抗体価調査	感染症情報センター	共同研究
保育所と保護者を繋ぐICT・IoTを活用したコミュニケーションツールの有用性に関する検討	感染症情報センター	共同研究
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る全国的な動向に関する研究	所長	共同研究
データベースを用いたVPD(ワクチンで予防可能疾患)の小児における入院サーベイランスに関する研究	所長	共同研究
麻疹・風疹の排除に向けた対策に関する研究	所長	共同研究
異種抗原を発現する組換え生ワクチンの開発における品質／安全性評価のありかたに関する研究	所長	共同研究
		計 38課題

研究の種類について

研究の種類	内容	課題数※
経常研究	職員の通常業務上からの発想に基づく研究	9
共同研究	国、地方公共団体、大学及び民間企業等と研究内容を分担し、共同で実施する研究	26
受託研究	他の機関から委託を受けて行う研究	3
合計		38

※平成29年度件数

2 調査研究報告等実績一覧

平成29年度の調査研究成果の報告実績を次に示す。

(1) 平成29年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
H29.4.6	腸管凝集性大腸菌をはじめとする各下痢原性大腸菌の薬剤耐性率及び薬剤耐性遺伝子保有状況の比較検討	第91回日本感染症学会 学術講演会	京王プラザホテル	○窪村亜希子, 松尾千秋, 岡部信彦
H29.4.6	ヒトRSウイルスサブグループB F遺伝子の分子進化についての検討	第91回日本感染症学会 学術講演会	京王プラザホテル	○長澤耕男, 塚越博之, 平野映子, 菱木はるか, 石和田稔彦, 三崎貴子, 倉井大輔, 皿谷 健, 石井晴之, 大石和徳, 木村博一
H29.4.8	チフス性疾患との鑑別に難渋したフィリピン渡航後の発疹熱	第91回日本感染症学会 学術講演会	京王プラザホテル	○細田智弘, 坂本光男, 東野俊洋, 野崎博之, 清水英明, 三崎貴子, 岡部信彦
H29.4.8	保育園等欠席者サーベイランスシステムを利用した感染性胃腸炎流行の早期検知	第91回日本感染症学会 学術講演会	京王プラザホテル	○三崎貴子, 丸山 絢, 岡部信彦
H29.4.15	風疹流行に伴う川崎市の緊急ワクチン接種事業と数理モデルを用いた接種方法の検証	第120回日本小児科学会 学術集会	グランドプリンスホテル新高輪他	○三崎貴子, 岡部信彦
H29.9.2	川崎市におけるノロウイルスの検出状況(2013/14~2016/17シーズン)	第82回神奈川県感染症 医学会	横浜情報文化センター	○清水智美, 若菜愛澄, 松島勇紀, 駒根綾子, 清水英明, 松尾千秋, 岡部信彦
H29.9.28	2016/17シーズンに検出されたノロウイルスの遺伝子解析	第32回関東甲信静支部 ウイルス研究部会	横浜市衛生研究所	○松島勇紀, 若菜愛澄, 清水智美, 駒根綾子, 清水英明
H29.10.22	川崎市感染症情報発信システムの運用	第49回日本小児感染症 学会総会・学術集会	ANAクラウンプラザ ホテル金沢	○三崎貴子, 新田礼子, 池田史朗, 丸山 絢, 岡部信彦
H29.10.22	川崎市における感染症の地域流行と脳炎・脳症の発生との関連	第49回日本小児感染症 学会総会・学術集会	ANAクラウンプラザ ホテル金沢	○三崎貴子, 新田礼子, 池田史朗, 丸山 絢, 岡部信彦
H29.11.1	自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例の包括的なリスク推定の試行	第76回日本公衆衛生学 会総会	鹿児島県文化センター	○丸山 絢, 八幡裕一郎, 三崎貴子, 岡部信彦
H29.11.1	川崎市におけるE型肝炎の発生状況～過去10年間の動向について～	第76回日本公衆衛生学 会総会	鹿児島県文化センター	○池田史朗, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H29.11.2	播種性糞線虫症にChypermucoviscosity型 <i>Klebsiella pneumoniae</i> による髄膜炎を合併したHTLV-1キャリアの一例	第66回日本感染症学会 東日本地方会学術集会	京王プラザホテル	○細田智弘, 坂本光男, 野崎博之, 窪村亜希子, 三崎貴子, 岡部信彦
H29.11.30	川崎市における梅毒の発生状況～過去10年間の動向と近年の特徴について～	第63回神奈川県公衆衛 生学会	横浜情報文化センター	○新田礼子, 池田史朗, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H30.2.15	市内に流通する鮮魚介類におけるグドア属粘液胞子虫の保有状況について	第30回地方衛生研究所 全国協議会関東甲信静 支部細菌研究会研究会	長野市生涯学習センター	○佐々木国玄, 小河内麻衣, 安澤洋子, 窪村亜希子, 本間幸子, 松尾千秋, 岡部信彦, 大西貴弘
H30.2.16	川崎市内で分離された侵襲性肺炎球菌感染症由来菌株の血清型別について	第30回地方衛生研究所 全国協議会関東甲信静 支部細菌研究会	長野市生涯学習センター	○湯澤栄子, 淀谷雄亮, 原俊吉, 松尾千秋, 常彬, 岡部信彦
H30.2.16	食品中の残留農薬分析における凍結粉碎法導入への取組みについて	平成29年度地方衛生研 究所全国協議会関東甲 信静支部第30回理化学 研究部会研究会	神奈川県総合医療 会館	○荒木啓佑, 江崎康司, 佐野達哉, 岸 美紀, 福田依美子

(1) 平成29年度学会発表実績(口演発表)(続き)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
H30.2.16	川崎市における自然毒検査への取組みについて(第2報)	平成29年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第30回理化学研究部会研究会	神奈川県総合医療会館	○橋口成喜, 鏡淵渉, 栗田史子, 赤星千絵, 佐藤英子, 福田依美子
H30.2.18	川崎市におけるロタウイルス遺伝子型の年次推移	第9回予防接種に関する研究報告会	新大宗ビル FORUM8	○清水智美, 若菜愛澄, 松島勇紀, 駒根綾子, 清水英明, 松尾千秋, 岡部信彦
H30.2.18	予防接種啓発に関するプロモーション(中間報告)	第9回予防接種に関する研究報告会	新大宗ビル FORUM8	○三崎貴子, 新田礼子, 池田史朗, 丸山 絢, 益村泉月珠, 岡部信彦
H30.2.24	川崎市における感染症発生動向	第35回川崎市医師会医学学会	川崎市医師会館	○三崎貴子, 岡部信彦
H30.3.10	川崎市におけるレジオネラ症患者の発生状況と疫学分析	第83回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○黒澤仁美, 丸山 絢, 小泉祐子, 林露子, 三崎貴子, 岡部信彦
H30.3.10	川崎市における梅毒の発生状況-10年間の動向と近年の特徴-	第83回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○新田礼子, 池田史朗, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H30.3.10	川崎市における結核菌のVNTR法による分子疫学解析について	第83回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○淀谷雄亮, 原俊吉, 湯澤栄子, 松尾千秋, 荒平和子, 小牧文代, 小泉祐子, 林露子, 岡部信彦
H30.3.10	川崎市におけるロタウイルスの検出状況(2014/15~2016/17)	第83回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○清水智美, 若菜愛澄, 松島勇紀, 駒根綾子, 清水英明, 松尾千秋, 岡部信彦

(2) 平成29年度学会発表実績(示説発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
H29.4.6	中南米における流行から初めてとなる, 国内におけるジカウイルス感染症の発生例	第91回日本感染症学会学術講演会	京王プラザホテル	○石橋正史, 宮尾直樹, 忽那賢志, 清水英明, 三崎貴子, 岡部信彦
H29.5.11	Acute encephalitis and encephalopathy surveillance in Kawasaki city, Japan, 2007-2016	14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	ヒルトン福岡シーホークホテル	○三崎貴子, 新田礼子, 池田史朗, 丸山 絢, 清水英明, 岡部信彦
H29.6.1~2	ELISAキットを用いた大豆アレルゲンの測定における抽出時間の影響	日本食品化学学会第23回学術大会	伊勢志摩ロイヤルホテル	○赤星千絵, 齊田清隆, 植田壽美子, 佐藤英子, 鷺谷則子, 橋口成喜
H29.6.2	おもちゃにおけるフタル酸エステル試験の試験室間共同試験	日本食品化学学会第23回学術大会	伊勢志摩ロイヤルホテル	○阿部智之, 村上亮, 六鹿元雄, 阿部裕, 天野保希, 石原絹代, 大坂郁恵, 大野浩之, 大野雄一郎, 尾崎麻子, 後藤智美, 小林尚, 外岡大幸, 柴田博, 高居久義, 竹中佑, 中西徹, 花澤耕太郎, 羽石菜穂子, 早川雅人, 松山重倫, 宮脇麻衣, 谷戸雅和, 山口未来, 渡辺一成, 佐藤恭子
H29.11.1	地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)新興再興感染症等健康危機管理推進事業	第76回日本公衆衛生学会総会	かごしま県民交流センター	○中里栄介, 緒方 剛, 長谷川麻衣子, 杉下由行, 坂本龍彦, 三崎貴子, 築島恵理, 長井大, 佐野 正, 永野美紀, 木村竜太
H29.11.1	川崎市リアルタイムサーベイランスを用いた感染症疫学研究(第1報)	第76回日本公衆衛生学会総会	かごしま県民交流センター	○中村孝裕, 眞明圭太, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦, 橋爪真弘, 村上義孝, 西脇祐司

(2) 平成29年度学会発表実績(示説発表)(続き)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
H29.11.1	川崎市リアルタイムサーベイランスを用いた感染症疫学研究(第2報)	第76回日本公衆衛生学会総会	かごしま県民交流センター	○眞明圭太, 中村孝裕, <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u> , 橋爪真弘, 村上義孝, 西脇祐司
H29.11.1	地域における感染症情報提供の現状と課題	第76回日本公衆衛生学会総会	かごしま県民交流センター	○神谷信行, 中村廣志, <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u> , 鈴木智之, 児玉洋江, 中野道晴
H29.11.21 ～22	製造用剤イソプロパノールの分析法の検討	第54回全国衛生化学技術協議会年会	奈良春日野国際フォーラム	○ <u>橋口成喜</u> , <u>鏡淵渉</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>佐藤英子</u> , <u>福田依美子</u>
H29.11.21 ～22	生体試料中の農薬分析法について	第54回全国衛生化学技術協議会年会	奈良春日野国際フォーラム	○ <u>岸 美紀</u> , <u>油田卓土</u> , <u>江崎康司</u> , <u>荒木啓佑</u> , <u>佐野達哉</u> , <u>福田依美子</u>
H29.11.21 ～22	地方衛生研究所理化学部門における人体(血液・尿等)試料の取扱いについて ～川崎市の対応と考察～	第54回全国衛生化学技術協議会年会	奈良春日野国際フォーラム	○ <u>赤星千絵</u> , <u>荒木啓佑</u> , <u>岸美紀</u> , <u>福田依美子</u> , <u>穂山浩</u> , <u>岡部信彦</u>

(3) 平成29年度学会発表実績(誌上発表)

なし

(4) 平成29年度論文掲載実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
性感染症・母児感染症(小頭症)としてのジカウイルス	性の健康 Vol.16No.1 p.17-18: 2017年3月号	<u>三崎貴子</u>
LC-MS/MSおよび遺伝子によるチョウセンアサガオ類の鑑別	食品衛生学雑誌第58巻 第2号p.86-95	<u>牛山温子</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>大澤潤彦</u> , <u>清水智美</u> , <u>松島勇紀</u> , <u>清水英明</u> , <u>橋口成喜</u>
世界における蚊媒介感染症のサーベイランスと疫学情報	臨床と微生物 Vol.44No.3 p.9-14: 2017年5月	<u>三崎貴子</u>
当初蚊媒介感染症が疑われた発疹熱輸入事例-川崎市.	IASR Vol. 38 p.121-123: 2017年6月号	<u>石川真理子</u> , <u>駒根綾子</u> , <u>松島勇紀</u> , <u>清水智美</u> , <u>清水英明</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u> , <u>原田 怜</u> , <u>江口麻樹</u> , <u>西村正道</u> , <u>田巻いづみ</u> , <u>雨宮文明</u> , <u>黒澤仁美</u> , <u>小泉祐子</u> , <u>林露子</u> , <u>田崎 薫</u> , <u>織田智弘</u> , <u>坂本光男</u> , <u>安藤秀二</u>
A method for detecting rash and fever illness-associated viruses using multiplex reverse transcription polymerase chain reaction.	Microbiol Immunol 61(8):337-344, 2017	<u>Matsushima Y</u> , <u>Shimizu T</u> , Doi I, Mizukoshi F, Nagasawa K, Ryo A, <u>Shimizu H</u> , Kobayashi M, Funatogawa K, Nagata N, <u>Ishikawa M</u> , <u>Komane A</u> , <u>Okabe N</u> , Mori Y, Takeda M and Kimura H.
Molecular Epidemiology of Rubella Virus Strains Detected Around the Time of the 2012-2013 Epidemic in Japan.	Front Microbiol. 9(8):1513, 2017	Mori I Y, Miyoshi M, Kikuchi M, Sekine M, Umezawa M, Saikusa M, <u>Matsushima Y</u> , Itamochi M, Yasui Y, Kanbayashi D, Miyoshi T, Akiyoshi K, Tatsumi C, Zaitsumi S, Kadoguchi M, Otsuki N, Okamoto K, Sakata M, Komase K and Takeda M
Molecular evolution of the fusion protein (F) gene in human respiratory syncytial virus subgroup B.	Infect Genet Evol 52(8): 1-9, 2017	Kimura H, Nagasawa K, Kimura R, Tsukagoshi H, <u>Matsushima Y</u> , Fujita K, Hirano E, Ishiwada N, <u>Misaki T</u> , Oishi K, Kuroda M and Ryo A.

(4) 平成29年度論文掲載実績(続き)

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
Phenotypic and Molecular Characterization of Enteroggregative <i>Escherichia coli</i> Isolated in Kawasaki, Japan.	Jpn J Infect Dis. 70(5): 507-512, 2017	<u>Kubomura, A.</u> , <u>Misaki, T.</u> , <u>Homma, S.</u> , <u>Matsuo, C.</u> , <u>Okabe, N.</u>
川崎市における感染症情報発信システム(KIDSS)の導入及びその後の取組み	月刊J-LIS Vol.4No.6 p.15-20 2017年9月	丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
地方衛生研究所の活用法	小児内科 Vol.49No.11 p.1576-1580: 2017年11月	三崎貴子
Molecular Evolution of the VP1 Gene in Human Norovirus GII.4 Variants in 1974-2015.	Front. Microbiol 5(12) :2399, 2017	Motoya T, Nagasawa K, <u>Matsushima Y.</u> , Nagata N, Ryo A, Sekizuka T, Yamashita A, Kuroda M, Morita Y, Suzuki Y, Sasaki N, Katayama K and Kimura H
インフルエンザ(特集 感染症迅速診断キットを見直す:その有用性と限界)	小児科 58(13):1611-1621, 2017	三田村 敬子, 川上 千春, <u>清水英明</u> , 山崎雅彦, 市川 正孝
Genetic Analysis of Human Norovirus Strains in Japan in 2016-2017.	Front Microbiol 9(1) :1, 2018	Nagasawa K, <u>Matsushima Y.</u> , Motoya T, Mizukoshi F, Ueki Y, Sakon N, Murakami K, <u>Shimizu T.</u> , <u>Okabe N.</u> , Nagata N, Shirabe K, Shinomiya H, Suzuki W, Kuroda M, Sekizuka T, Suzuki Y, Ryo A, Fujita K, Oishi K,
Phylogeny and Immunoreactivity of Norovirus GII.P16-GII.2, Japan, Winter 2016-17.	Emerg Infect Dis 24(1):144-148, 2018	Nagasawa K, <u>Matsushima Y.</u> , Motoya T, Mizukoshi F, Ueki Y, Sakon N, Murakami K, <u>Shimizu T.</u> , <u>Okabe N.</u> , Nagata N, Shirabe K, Shinomiya H, Kuroda M, Sekizuka T, Suzuki Y, Ryo A, Fujita K, Oishi K, Katayama K and Kimura H
感染症サーベイランス情報の還元と、地域における活用の取組み	公衆衛生 Vol.82No.1 p.64-69 2018年1月	<u>三崎貴子</u>
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動発症例における使用薬剤の組み合わせが不明であった症例の検討.	厚生の指標 65(1):21-24, 2018.	中村裕樹, 大日康史, 菅原民枝, 谷口清州, 宮崎千明, 桃井真里子, <u>岡部信彦</u>
Severe abnormal behavior incidence after administration of neuraminidase inhibitors using the national database of medical claims.	J Infection and Chemotherapy 24(2018) 177-181.	Nakamura Y, Sugawara T, Ohkusa Y, Taniguchi K, Miyazaki C, Momoi M and <u>Okabe N.</u>
世界的流行が懸念される新型ヒトノロウイルス GII.P17- GII.17の分子進化	IASR Vol. 38 p.6-8: 2017年1月号	<u>松島勇紀</u> , <u>石川真理子</u> , <u>清水智美</u> , <u>駒根綾子</u> , <u>清水英明</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>岡部信彦</u>

(5) 平成29年度行政報告等実績

下線:健康安全研究所職員

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等を含む)
平成29年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業) 新興再興感染症対策等健康危機管理推進事業班報告書	平成29年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業) 新興再興感染症対策等健康危機管理推進事業班報告書	中里栄介, 井澤智子, 伊東則彦, 緒方 剛, 木村竜太, 国吉秀樹, 小泉祐子, 坂本龍彦, 永野美紀, 西田敏秀, 長谷川麻衣子, 山田敬子, 三崎貴子, 稲葉静代, 杉下由行, 伊藤邦彦, 大曲貴夫, 齋藤智也, 松井珠乃, 野田博之, 伊礼壬紀夫
衛生研究所での「人体(血液・尿等)試料の検査手法」の標準化	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究」平成29年度 総括・分担研究報告書,平成27-29年度総合研究報告書	<u>岡部信彦</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>荒木啓佑</u> , <u>岸美紀</u> , <u>穂山浩</u>

(5) 平成29年度行政報告等実績(続き)

下線:健康安全研究所職員

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等を含む)
川崎市における二枚貝のノロウイルス検出状況	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「ウイルスを原因とする食品媒介性疾患の制御に関する研究」平成29年度総括・研究分担報告書, 175-180, 2018.3	清水智美, 清水英明, 野田衛
規格試験法の性能に関する研究(おもちゃにおける着色料試験の試験室間共同試験)	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品用器具・容器包装等に使用される化学物質に関する研究」平成29年度 総括・分担研究報告書	六鹿元雄, 大野浩之, 佐藤環, 中西徹, 會澤弘城, 阿部智之, 阿部裕, 安藤景子, 猪飼誉友, 石原絹代, 岩佐直史, 宇木千晶, 牛山温子, 内田晋作, 大脇進治, 大坂郁恵, 大野雄一郎, 大畑昌輝, 大森清美, 荻本真美, 尾崎麻子, 風間貴充, 河村葉子, 岸映里, 木村亜莉沙, 小林尚, 小林千恵, 近藤貴英, 斎藤敬之, 佐藤恭子, 柴田博, 城野克広, 鈴木公美, 鈴木昌子, 関戸晴子, 高居久義, 高坂典子, 高梨麻由, 竹中佑, 田中葵, 田中秀幸, 外岡大幸, 野村千枝, 服部靖子, 花澤耕太郎, 羽石奈穂子, 早川雅人, 堀田沙希, 松山重倫, 三浦俊彦, 宮脇麻衣, 藪谷充孝, 山口未来, 山田恭平, 吉田栄充, 渡辺一成
地方感染症情報センター・地方衛生研究所の立場からの感染症発生動向調査の評価と改善	厚生労働科学研究「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」平成29年度研究報告書	中村廣志, 大屋日登美, 片山 丘, 市橋大山, 灘岡陽子, 神谷信行, 中野道晴, 鈴木智之, 児玉洋江, 三崎貴子, 丸山 絢, 小野塚大介, 森屋一雄他
地方感染症情報センターの立場からの感染症発生動向調査の評価と改善—地域における感染症情報提供の現状と課題—	厚生労働科学研究「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」平成29年度研究報告書	中村廣志, 神谷信行, 中野道晴, 市橋大山, 丸山 絢, 三崎貴子, 鈴木智之, 児玉洋江, 小野塚大介
地方感染症情報センター・地方衛生研究所の立場からの感染症発生動向調査の評価と改善	厚生労働科学研究「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」平成27年度～平成29年度 総合研究報告書	中村廣志, 神谷信行, 中野道晴, 市橋大山, 丸山 絢, 三崎貴子, 鈴木智之, 児玉洋江, 森屋一雄, 蔡国喜, 小野塚大介, 林志直, 灘岡陽子, 高橋智恵子, 大屋日登美, 片山丘
新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の確保に関する研究	厚生労働科学研究「新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の確保に関する研究」平成29年度 総括研究報告書	齋藤智也, 森永裕美子, 種田憲一郎, 調 恒明, 中里栄介, 松井珠乃, 大曲貴夫, 中瀬克己, 田村大輔, 神谷 元, 小泉祐子, 小牧文代, 丸山 絢, 三崎貴子他
ステリグマトシスチンと4,15-ジアセトキシシトルペノールの汚染実態調査	厚生労働科学研究「国際的に問題となる食品中のかび毒の安全性確保に関する研究」平成29年度 総括・分担研究報告書	吉成知也, 佐藤英子, 竹内浩, 谷口賢, 中島正博, 橋口成喜, 脇ますみ, 飯塚誠一郎, 七戸八重子, 笛木周平, 藤吉智治, 本田俊一

(6) 平成29年度その他執筆実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
水痘ワクチン接種者にRamsay Hunt症候群を発症した1例	小児感染免疫 29(1):24-27, 2017	武政洋一, 日馬由貴, 岡部信彦
私の歩んだ研究の道とそこからの教訓②—子どもたちの感染症・免疫疾患を何とかしたい	小児感染免疫 29(2):171-175, 2017.	岡部信彦
医療関係者のための予防接種—日本の現状	臨床と微生物 45(2):91-96, 2018.	岡部信彦

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
最近の感染症動向に関する話題—麻疹・風疹の流行と予防、HPVワクチン、おたふくかぜ、感染症法改正—	大宮医師会報 751:683-688, 2018.	岡部信彦
感染症専門医テキスト 第1部・解説編 改訂第2版	編集・日本感染症学会 南江堂 2017.4	岡部信彦 他(分担)
2016年の麻疹流行をどう捉えるか	小児科 58(4):319-321, 2017.	岡部信彦
職場の感染症対策における予防接種・ワクチン	日本臨床内科医会誌 32(1)96-101, 2017.	岡部信彦
新型インフルエンザ流行(パンデミック)に対する国内における現状と課題	東京小児科医会報 36(1):3-38, 2017.	岡部信彦
有害事象・副反応報告制度の変化と課題	公衆衛生 81(7):550-557, 2017.	岡部信彦
予防接種に関するQ&A集 2017	日本ワクチン産業会 2017.	岡部信彦 、 多屋馨子
「医療関係者のためのワクチンガイドライン」が持つ意義.	臨床検査 61:10548-1052, 2017.	岡部信彦
医療関係者のためのワクチンガイドライン	日本内科雑誌 106:2584-2589, 2017.	岡部信彦
感染症	学校保健の動向 平成29年度版 発行:日本学校保健会 P.20-27 2017.11 丸善出版	岡部信彦
予防接種・この5年間で変わったのはここ!これから5年で変わりそうなのはここ!	まるわかりワクチンQ&A 第2版 編著・中野貴司 P.2-P.5 日本医事新報社 2017.12	岡部信彦
DPT-IPVワクチン	別冊Bio Clinica 6(2): 47-63,2017	岡部信彦
感染症とその予防	最新高等保健体育・教授用参考書 P.108-117 大修館 2017.4	岡部信彦
感染症とその予防	現代高等保健体育・教授用参考資料 P.108-117 大修館 2017.4	岡部信彦

(7) 平成29年度表彰等受賞実績

表彰の名称	学会名等	演題・研究課題名等	表彰者
学術奨励賞	第82回神奈川県感染症医学会	川崎市におけるノロウイルスの検出状況 (2013/14～2016/17シーズン)	清水智美
瑞宝双光章	平成29年春の叙勲	保健衛生功労	横田佳子(元 川崎市健康福 祉局健康安全 研究所主任技 術職員)

3 調査研究報告

平成 29 年度調査研究結果並びに事例等の一部を次ページ以降で報告する。

- (1) 川崎市における E 型肝炎の発生状況～過去 10 年間の動向について～ 97
(研究責任者：感染症情報センター担当 池田 史朗)

- (2) 自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例の包括的なリスク推定の試行 98
(研究責任者：感染症情報センター担当 丸山 絢)

- (3) 遺伝子組換えバレイショの検査について 99
(研究責任者：食品担当 佐藤 英子)

- (4) 平成 28 年度 川崎港生息魚介類の放射能汚染状況について～焼却灰埋立てを契機としたモニタリング
結果から～ 101
(研究責任者：残留農薬・放射能担当 佐野 達哉)

川崎市における E 型肝炎の発生状況～過去 10 年間の動向について～

川崎市健康安全研究所

○池田史朗、丸山 絢、三崎貴子、岡部信彦

【背景及び目的】

E 型肝炎は経口感染を主としたウイルス性肝炎である。近年、全国的に増加傾向で、特に 2016 年の神奈川県患者報告数は北海道、東京都に次いで多くなっている。川崎市における過去 10 年間の発生状況をまとめるとともに感染拡大防止のための対策を検討した。

【方法】

2007 年～2016 年に、川崎市内で「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき E 型肝炎として届出のあった 18 例を対象とした。発生届及び調査報告書に記載された情報から疫学的特徴をまとめた。

【結果】

川崎市における E 型肝炎の届出数は、2007 年は 1 例で、2008 年～2010 年は届出がなかった。2011 年以降は、2013 年を除き、年間 2～3 例の届出数であったが、2016 年は 8 例 (0.54/人口 10 万) と増加し、全国及び県内 (いずれも 0.28/人口 10 万) と比較して高かった。

2007 年～2015 年は男性 9 例 (90.0%)、女性 1 例 (10.0%) であったが、2016 年は男性 6 例 (75.0%)、女性 2 例 (25.0%) と女性の割合が増加した。2015 年までは 50 歳代以上が 90.0%を占めたが、2016 年は年齢群の偏りはみられなかった。

全 18 例のうち 1 例 (5.6%) は無症状病原体保有者であり、症状のあった 17 例中 12 例 (70.6%) は入院加療を要した。

診断方法は、IgA 抗体検出が 15 例 (83.3%)、IgA 抗体検出及び PCR 法が 2 例 (11.1%)、IgM 抗体検出が 1 例 (5.6%) であった。PCR 法を実施した 2 例のうち、2016 年の 1 例は遺伝子型 G3 であった。喫食歴は重複例を含むものの、豚肉や豚レバーが 7 例 (38.9%)、生や生焼けの肉が 7 例 (38.9%) であった。

【考察】

川崎市における 2016 年の E 型肝炎の届出数は、2015 年以前と比較して顕著に増加し、全国及び神奈川県と同様の傾向がみられた。近年の届出数増加の背景として、IgA 抗体検出キットの保険適用や届出基準における検査方法への IgA 抗体検出の追加の影響があると言われているが、2016 年は届出数、性別及び年齢分布が例年と異なっているため、別に要因があると推察される。また、PCR 法で判明した G3 は、本州で報告が多い遺伝子型であった。

今回の調査では、感染源の特定には至らなかったが、豚肉や豚レバー以外にも生や生焼けの肉は感染のリスクが高いと考えられる。E 型肝炎感染を防ぐためには、豚やその他の肉・内臓の生食を避け、十分加熱調理して喫食するよう啓発することが重要である。

自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例の包括的なリスク推定の試行

川崎市健康安全研究所¹、国立感染症研究所感染症疫学センター²

○丸山 絢¹、八幡裕一郎²、三崎貴子¹、岡部信彦¹

【背景及び目的】

腸管出血性大腸菌感染症は重症合併症の発生頻度が高く、優先的に対策が必要な疾患であるため、欧米では人口寄与危険割合を算出して対策に利用しており、我が国でも同様の手法を用いて対策を試みている。川崎市においても平成 24 年度以降単年度毎にリスク推定を実施し、有用であることが示唆されている。しかしながら、単年度毎の症例数が少ない場合もあることから、複数年度のデータをまとめた包括的なリスク推定を試行し、自治体における実施の可能性を検討した。

【方法】

平成 24 年度から平成 27 年度において、7 月(平成 24 年度は 8 月 8 日)から 11 月までに市内で散発例として報告された腸管出血性大腸菌(血清群 O157)感染症患者 66 例の症例調査及び対照群 314 例のインターネット調査を実施した。対照群は調査に参加を希望し、症例と同じ郵便番号、年齢階級、性別で、症例毎に設定した調査期間中に消化器症状のなかった者とした。調査内容は環境との接触 39 項目及び食品の摂取 79 項目とし、条件付きロジスティック回帰分析を行いオッズ比(OR)を算出した。

【結果】

症例が呈した症状は、腹痛(93.9%)、水様性下痢(83.3%)、血便(74.2%)の順に多く、溶血性尿毒症症候群は 2 例(3.0%)であった。OR は、同居家族に腸管出血性大腸菌感染症患者等(OR=34.56, 95%信頼区間(95%CI):6.08-∞, p<0.001)、同居家族に血便(OR=31.86, 95%CI:5.58-∞, p<0.001)、赤身肉の喫食(OR=24.05, 95%CI:3.21-180.31, p=0.002)の順に高く、その他に食品の取扱い、ユッケ又は馬刺しの喫食、十分に加熱された肉の喫食のうち牛肉、豚肉及び鶏肉、内臓肉の喫食、十分に加熱された内臓肉の喫食のうち牛レバー、牛ホルモン、豚ホルモン及びその他内臓肉、生の野菜等の喫食のうちトマト、キュウリ、タマネギ、パセリ、キムチ及びもやしが発症と有意に関連していた。また、生の野菜等の喫食で有意となった各項目を赤身肉の喫食で調整したところキムチ及びもやしにおいて、内臓肉の喫食で調整したところトマト、キムチ及びもやしにおいて、それぞれ発症と有意に関連していた。

【考察】

自治体において複数年度のデータをまとめた解析を実施することで、当該自治体における包括的なリスク推定が可能となり、長期的な対策に利用できると考えられる。今後自治体と国立感染症研究所が連携して散発事例の原因究明に取り組むべきと考える。

遺伝子組換えバレイショの検査について

○佐藤英子、鏡淵渉、栗田史子、赤星千絵、橋口成喜、福田依美子

[目的]

遺伝子組換えバレイショ（E12、F10、J3系統）（以下、GMバレイショ3系統）は、打撲による黒斑を低減させ傷みにくくするとともに、加熱時のアクリルアミド産生を低減させる目的に改良されたものである。日本では安全性未審査の組換えDNA技術応用食品の検査方法（以下、通知法）が平成28年3月30日に改正され、その中にGMバレイショ3系統の検査法が追加された（E12は平成29年7月20日安全性審査済みとなり検査法から削除された）。ばれいしょは様々な加工食品に利用されていて、特に子供での消費割合が高いことから継続的な監視を行う必要がある。そこで、当所においてばれいしょとその加工食品に対して検査が実施可能であるか、対象品目の検討を行った。検討後、平成28、29年度に実施した収去等検査結果と併せて報告する。

[方法]

1. 検体

検査対象品目の検討のため、川崎市内に流通する生鮮ばれいしょと、ばれいしょの粉砕加工品、ばれいしょ以外の食材を含む惣菜、加熱工程を経た加工品等、計13検体を購入し検査を行った。

また、平成28、29年度には、検討結果を基に選定したばれいしょ及びその加工品計34検体の収去及び依頼検査を行った（E12が検査法から削除された平成29年7月20日以降はF10、J3系統のみ検知試験を実施）。

2. 試料前処理

前処理にはラボミルサー（LAB CAT社製）、Trio Blender（TRIO SCIENCE社製）、TEMPEST Blender（Hamilton Beach社製）を検体に応じて使い分けて粉砕を行った。

3. 検体からのDNAの抽出精製

粉砕した検体から、通知法に従いDNA抽出精製キット（QIAGEN Genomic-tip 100/G）を用いて、1検体につき2併行でDNAの抽出精製を行った。得られたDNA試料原液を分光光度計（島津製作所製UV-1800）で測定し、260nmの吸光度から濃度を算出するとともに、260nmと280nmの吸光度比を純度の指標とした。

4. リアルタイムPCRによる測定

DNA試料原液を10ng/ μ Lの濃度に滅菌精製水で希釈してDNA試料液とした。10ng/ μ Lに満たないものはそのままDNA試料液とした。

得られたDNA試料液について、リアルタイムPCR装置（Applied Biosystems社製ABI PRISM 7900HT）を用い、陽性対照試験（ばれいしょ由来APRT遺伝子の検出）及びGMバレイショ3系統検知試験を1抽出当たり2ウェル併行で行った。結果の判定は通知法に従った。

[結果及び考察]

1. 検査対象品目の検討

検査対象品目の検討として、全ての検体について途中経過の如何によらず、GMバレイショ3系統検知試験まで行った。各検体のDNA濃度及び吸光度比、陽性対照試験のCt値を表1に示した。

DNAの抽出では、片栗粉以外の検体において、リアルタイムPCRを行うために十分な濃度

(10ng/μL 以上) の DNA を得ることができた。また、純度に関しては指標である吸光度比 (1.7 ~ 2.0) に比べ、肉じゃが・春雨では高値、スナック菓子の半数で低値を示した。陽性対照試験では、13 検体中 12 検体では 4 ウェル全てで 43 未満の Ct 値が得られたが、片栗粉のみ、1 ウェルで検知不能となったため、GM バレイショ 3 系統検知試験は 12 検体を陰性と判定した。

通知法には、片栗粉等のでん粉や春雨等のでん粉を加工した製品は DNA 含有量が少ないとの記載がある。今回の検討では、片栗粉は十分な DNA 抽出が行えず、陽性対照試験でも判定不能となり、春雨では吸光度比が高値を示した。そのため、でん粉を主とした製品についてはより慎重に検討を行う必要があると判断し、収去検査の対象品目から除外することとした。

表 1 検査対象品目別 DNA 濃度・吸光度比及び陽性対照試験の結果

No.	検体名	DNA濃度(ng/μL)		吸光度比 (260nm/280nm)		Ct値(2併行)	
		1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
1	生鮮ばれいしょ	283	404	1.828	1.845	20 / 19	20 / 19
2	ポテトサラダ	121	112	1.984	1.931	27 / 27	26 / 26
3	肉じゃが	71	76	2.328	2.303	26 / 25	26 / 25
4	マッシュポテト	34	60	1.828	1.587	26 / 26	27 / 27
5	冷凍フライドポテト1	84	57	1.740	1.883	26 / 25	25 / 24
6	冷凍フライドポテト2	45	53	1.875	1.828	25 / 25	25 / 25
7	フライドポテト	86	99	2.060	2.030	26 / 26	26 / 26
8	スナック菓子1	252	213	1.860	1.840	24 / 24	25 / 25
9	スナック菓子2	183	319	1.995	1.789	25 / 24	24 / 24
10	スナック菓子3	1816	1737	1.219	1.141	33 / 33	33 / 34
11	スナック菓子4	1647	1760	0.979	1.055	32 / 32	36 / 33
12	春雨	68	47	2.386	2.293	35 / 35	35 / 35
13	片栗粉	1	0	2.000	0.000	36 / ND	39 / 37

2. 収去等検査

検査品目の検討をもとに、平成 28、29 年度に収去及び依頼検査を行った結果について、表 2 に示した。陽性対照試験は全ての検体で 43 未満の Ct 値が得られ、GM バレイショ 3 系統検知試験 (平成 29 年 7 月 20 日以降に実施した検査は F10、J3 系統のみ) は全て陰性であった。なお、DNA 濃度及び吸光度比については、加工食品ではおおむね良好な結果を得ることができたが、生鮮ばれいしょについては十分な DNA 濃度及び

吸光度比が得られない検体が多かった。そこで試料前処理の際、平成 28 年度の生鮮ばれいしょ 1 ~ 6 (表 2) まで粉砕に用いていた Trio Blender をラボミルサーに変更したところ、それ以降では DNA の収量が全体的に増加した。しかし変更後も一部の検体で DNA 濃度が低濃度となったため、引き続き検討が必要と考えられた。

表 2 検体別 DNA 濃度・純度の指標及び陽性対照試験の結果

No.	検体名	DNA濃度(ng/μL)		吸光度比 (260nm/280nm)		Ct値(2併行)	
		1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
1	生鮮ばれいしょ1	4	7	1.600	2.000	26 / 29	28 / 28
2	生鮮ばれいしょ2	96	91	1.837	1.792	21 / 21	22 / 22
3	生鮮ばれいしょ3	191	227	1.837	1.831	21 / 22	23 / 22
4	生鮮ばれいしょ4	55	12	0.732	0.821	26 / 26	25 / 25
5	生鮮ばれいしょ5	4	2	2.000	2.000	26 / 26	25 / 25
6	生鮮ばれいしょ6	2	2	4.000	4.000	25 / 25	24 / 25
7	生鮮ばれいしょ7	420	1064	1.610	1.774	25 / 25	26 / 26
8	生鮮ばれいしょ8	693	729	1.639	1.657	22 / 22	22 / 22
平成	9 生鮮ばれいしょ9	6	5	1.833	2.000	27 / 27	25 / 25
2	10 生鮮ばれいしょ10	359	456	1.652	1.316	22 / 22	22 / 22
8	11 生鮮ばれいしょ11	340	463	1.143	1.255	23 / 23	23 / 22
年	12 生鮮ばれいしょ12	465	552	1.623	1.718	22 / 22	22 / 22
度	13 生鮮ばれいしょ13	230	491	1.588	1.754	22 / 22	22 / 22
14	じゃがいも水煮	26	25	1.821	1.885	28 / 27	27 / 27
15	ポテトサラダ1	60	75	1.905	1.935	27 / 27	28 / 28
16	ポテトサラダ2	58	39	1.966	1.95	26 / 26	26 / 25
17	マッシュポテト(粉末)	14	11	1.929	1.909	26 / 26	26 / 26
18	スナック菓子1	359	303	1.894	1.906	26 / 26	25 / 25
19	スナック菓子2	16	25	1.882	1.852	25 / 25	24 / 24
20	スナック菓子3	546	654	1.902	1.908	26 / 26	26 / 26
21	スナック菓子4	452	395	1.909	1.922	24 / 24	24 / 24
22	スナック菓子5	512	497	1.881	1.945	22 / 22	21 / 21
平成	1 生鮮ばれいしょ1	22	20	1.720	1.773	22 / 22	22 / 22
2	生鮮ばれいしょ2	4	7	1.600	1.300	25 / 25	23 / 23
3	生鮮ばれいしょ3	39	51	1.674	1.741	22 / 22	22 / 22
4	じゃがいも水煮	79	47	1.760	1.846	26 / 26	26 / 26
5	ポテトサラダ1	10	16	1.727	1.722	27 / 27	26 / 26
2	6 ポテトサラダ2	132	171	1.742	1.760	25 / 25	25 / 25
7	ポテトサラダ3	357	75	1.712	1.802	26 / 26	25 / 25
8	ポテトサラダ4	55	52	1.692	1.684	25 / 25	24 / 25
9	ポテトサラダ5	103	65	1.696	1.706	25 / 25	24 / 24
10	ポテトサラダ6	121	127	1.688	1.676	25 / 25	26 / 26
11	コロケ	364	462	1.754	1.780	29 / 29	29 / 29
12	スナック菓子	129	276	1.806	1.753	23 / 23	23 / 23

[まとめ]

検査対象品目の検討を行い、春雨、片栗粉以外の食品を検査可能とし、平成 28、29 年度の収去及び依頼検査を行った。今後は収去検査対象から除外した春雨や片栗粉についての抽出精製と、生鮮ばれいしょの試料前処理等についてもさらに検討を進めていくとともに、その他の遺伝子組換え食品についても、最新の検査法に対応可能な状況を迅速に整備することで、監視体制の強化に貢献していきたい。

平成 28 年度 川崎港生息魚介類の放射能汚染状況について ～焼却灰埋立てを契機としたモニタリング結果から～

佐野達哉 江崎康司 荒木啓佑 岸 美紀 福田依美子

平成 23 年 3 月、東日本大震災に伴い発生した福島第一原発事故により放射性物質が放出され、東日本を中心にその汚染が拡大した。その影響により、本市の廃棄物焼却処理施設から発生する焼却灰に含まれる放射性物質が高濃度に検出されたことで、一時その水面埋立を中止し、浮島地区に保管していた。しかし保管量が増えることによる保管場所確保の問題等から、放射性物質が検出された焼却灰の処理について本市環境局と国立環境研究所による共同研究を開始した。この成果をもとに、平成 25 年 4 月からごみ焼却灰にゼオライトを用いた放射性セシウム(Cs)の溶出抑制対策¹⁾を施した上で、浮島埋立処分場にて水面埋立²⁾を再開した。これを受け当所には川崎港の環境モニタリングの一環として、同年 5 月から川崎港生息魚介類の検体搬入が開始され、以降平成 29 年 3 月まで放射性セシウム(Cs)濃度検査を毎月実施した。

Cs の検出率は、平成 25 年度は 56 検体中 10 検体(17.9%)、平成 26 年度は 64 検体中 5 検体(7.8%)、平成 27 年度は 62 検体中 1 検体(1.6%)と年々減少傾向にあり、いずれも Cs137 のみの検出で、その検出濃度も検出限界値に近いものだった。そこで平成 28 年度は、検体測定時間を増やすことにより検出限界値を下げることで、より詳細な川崎港生息魚介類の Cs 汚染状況を調べるため、以下の方法により調査を行った。

【調査方法】

1 検体

- (1) イサキ[2]、イシモチ[2]、カサゴ[3]、カマス[1]、クロダイ[1]、コシヨウダイ[1]、コノシロ[7]、スズキ[12]、タナゴ[9]、ボラ[6]、メジナ[9]、メバル[3]……魚種名後の[]内の数字は検体数。合計 12 魚種、56 検体。
- (2) 採取期間:平成 28 年 4 月 22 日から平成 29 年 3 月 12 日
- (3) 採取海域:①浮島付近、②東扇島付近、③京浜運河(図 1)……採取は横浜東漁業協同組合による。

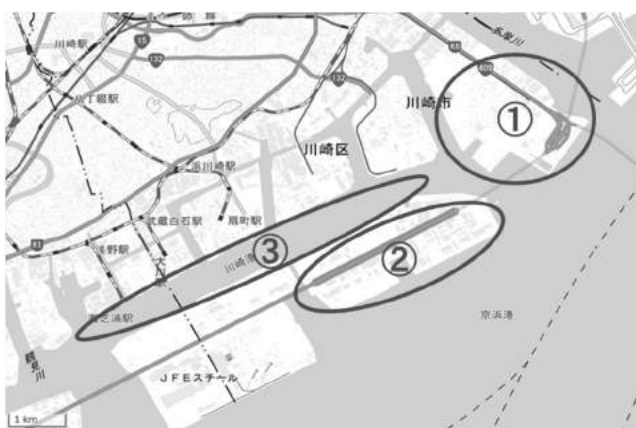


図 1 川崎港生息魚介類採取海域(国土地理院の地理院地図より)

2 装置

- (1) ゲルマニウム半導体検出器:キャンベラジャパン(株)製 GC2518-7500RDC-2002CSL
- (2) 波高分析器:キャンベラジャパン(株)製 DSA1000

3 検査方法

- (1) 試験法:平成 24 年に厚生労働省より発出された「食品中の放射性物質の試験法について」³⁾に基づき行った。

この中で「測定結果が ND であった場合には、Cs134 と Cs137 の検出限界値の和が基準値の 1/5 の濃度

以下であることを確認する」と記載がある。そこで当所では魚介類に一般食品の基準値 100Bq/kg を適用し、Cs134 と Cs137 の検出限界値がそれぞれ 10 Bq/kg 以下を十分に担保できるよう測定時間を 2,000 秒に設定して通常の検査を実施している。今回は通常検査用の 2,000 秒測定と併せて、検出限界値を下げる目的で 10,000 秒測定を行った。

(2) 試料:生試料(可食部、主に筋肉部位)を 1L マリネリ容器に充填。

【結果及び考察】

1 平成 28 年度における全測定結果(表 1)

2,000 秒測定では Cs134、137 とともに全 56 検体全て不検出(検出限界値 1.0~1.6Bq/kg)であったが、10,000 秒測定では 17 検体(30.4%)から Cs137 の検出が認められた。しかし検出された放射性物質濃度は 0.30~0.84Bq/kg であり、一般食品の Cs の基準値である 100 Bq/kg はもちろん、最も値の低い飲料水の基準値である 10 Bq/kg に照らし合わせても 1/10 以下となる検出値であった。

2 各種集計結果

(1) 月別(図 2)

9 月及び 1 月の検査では検出検体は無かったが、ほぼ通年で検体から Cs の検出が認められた。

(2) 採取海域別(図 3)

①浮島付近で採取された検体の Cs 検出割合は 16 検体中 3 検体(18.8%)であり、②東扇島付近では 32 検体中 12 検体(37.5%)、③京浜運河では 8 検体中 2 検体(25.0%)であった。この結果からは、②東扇島付近の検出率が他の海域に比べ高く見える。しかし、これは検出率が高いスズキの検体数が採取海域により差があるためと考えられる。(3) 魚種別にも示すとおり、採取された全 56 検体中 12 検体がスズキであり、その内の 8 検体に検出が認められている。これは検体数が多いだけでなく、Cs 検出検体数も最も多い結果である。今回採取されたスズキ 12 検体の採取海域は、①浮島付近が 2 検体(うち 1 検体 Cs 検出)、②東扇島付近が 10 検体(うち 7 検体 Cs 検出)だった。この結果を差し引くと、②東扇島付近が突出して Cs の検出率が高いわけではないと考えられる。

(3) 魚種別(図 4)

魚種別の Cs 検出割合はボラで 6 検体中 2 検体(33.3%)、クロダイ及びカマスで 1 検体中 1 検体(100%)、スズキで 12 検体中 8 検体(66.7%)、メジナで 9 検体中 2 検体(22.2%)、イサキで 2 検体中 1 検体(50.0%)、コノシロで 7 検体中 2 検体(28.6%)と 7 魚種から Cs の検出が認められた。一方、検出が見られなかったのは、メバル(2 検体)、カサゴ(2 検体)、タナゴ(9 検体)、コショウダイ(1 検体)、イシモチ(2 検体)の 5 魚種であった。

また 1 匹当たりの平均重量と検出魚種との関係を調べると、200g 未満の魚種(カマスを除く)では Cs は検出されなかったが、200g 以上の魚種では全てに Cs が検出された。一般的に、小型魚に比べ大型魚は海水の飲水量や摂餌量も多い事から、より多くの Cs を体内に取り込んでいる可能性が高く、200g 以上の魚種から Cs が検出された今回の結果は、これによるものと考えられる。その中で 200g 未満にもかかわらずカマスから Cs が検出されたが、カマスは今回 1 検体のみの測定のため、偶然検出された可能性もある。しかし魚種毎の全重量における可食部重量比を比較すると(図 5)、ほとんどの魚種において約 30~40%のところ、カマスのみ 54%と高い数値を示した。魚の体内において Cs 濃度は内臓よりも筋肉中の方が高い傾向があることから⁴⁾、今回、カマスが 200g 未満の魚種でありながら検出が認められたのは、その魚体重量に対する筋肉量の多さが 1 つの要因と推測する。

今回の調査を実施するにあたり、ボラのように砂泥を一緒に口に入れる等の摂餌方法や、魚種毎に異なる生息域(汽水域や海水域)等の生態の違いが Cs 検出率に及ぼす影響を比較したが、今回の測定結果からは明確な差異は認められなかった。

表1 川崎港生息魚介類放射性物質濃度測定結果

No.	魚種	採取月	採取海域	A 全重量 (g)	匹数	平均重量 (g)	B 可食部重量 (g)	※ B/A (%)	放射性物質濃度(Bq/kg)			
									2,000秒		10,000秒	
									Cs134	Cs137	Cs134	Cs137
1	スズキ	4月	東扇島付近	3,613	5	723	1,271	35	1.3未満	1.2未満	0.5未満	0.50
2	メジナ	4月	東扇島付近	3,198	13	246	1,112	35	1.3未満	1.4未満	0.5未満	0.5未満
3	タナゴ	4月	東扇島付近	3,429	20	171	1,352	39	1.4未満	1.0未満	0.5未満	0.4未満
4	ボラ	4月	京浜運河	3,651	4	913	1,259	34	1.2未満	1.0未満	0.5未満	0.61
5	スズキ	5月	東扇島付近	3,632	7	519	1,627	45	1.4未満	1.3未満	0.5未満	0.4未満
6	メジナ	5月	京浜運河	3,525	9	392	1,437	41	1.2未満	1.0未満	0.5未満	0.4未満
7	イサキ	5月	東扇島付近	3,116	10	312	1,121	36	1.2未満	1.2未満	0.5未満	0.45
8	タナゴ	5月	東扇島付近	3,600	19	189	1,087	30	1.2未満	1.1未満	0.4未満	0.4未満
9	ボラ	5月	京浜運河	3,965	4	991	1,650	42	1.0未満	1.0未満	0.5未満	0.84
10	スズキ	6月	東扇島付近	3,280	8	410	1,273	39	1.1未満	1.3未満	0.5未満	0.45
11	メジナ	6月	東扇島付近	3,278	12	273	1,247	38	1.1未満	1.1未満	0.4未満	0.36
12	タナゴ	6月	東扇島付近	3,513	24	146	1,201	34	1.4未満	1.0未満	0.5未満	0.4未満
13	コノシロ	6月	浮島付近	3,195	12	266	1,303	41	1.4未満	1.3未満	0.5未満	0.4未満
14	ボラ	6月	浮島付近	3,579	6	597	1,474	41	1.0未満	1.0未満	0.5未満	0.4未満
15	スズキ	7月	東扇島付近	3,158	6	526	1,250	40	1.2未満	1.1未満	0.5未満	0.69
16	メジナ	7月	浮島付近	3,368	10	337	1,314	39	1.1未満	1.3未満	0.4未満	0.39
17	タナゴ	7月	東扇島付近	3,422	18	190	1,365	40	1.6未満	1.1未満	0.5未満	0.4未満
18	イサキ	7月	東扇島付近	3,716	14	265	1,308	35	1.4未満	1.2未満	0.5未満	0.4未満
19	コノシロ	7月	浮島付近	3,248	14	232	1,202	37	1.0未満	1.2未満	0.5未満	0.43
20	スズキ	8月	東扇島付近	3,302	7	472	1,246	38	1.2未満	1.3未満	0.4未満	0.40
21	メジナ	8月	東扇島付近	3,331	12	278	1,087	33	1.3未満	1.0未満	0.4未満	0.5未満
22	タナゴ	8月	京浜運河	3,770	21	180	1,342	36	1.3未満	1.1未満	0.5未満	0.5未満
23	コノシロ	8月	東扇島付近	3,491	14	249	1,362	39	1.4未満	1.0未満	0.5未満	0.53
24	ボラ	8月	東扇島付近	3,779	5	756	1,266	34	1.4未満	1.0未満	0.4未満	0.4未満
25	スズキ	9月	東扇島付近	3,599	7	514	1,271	35	1.0未満	1.0未満	0.4未満	0.4未満
26	イシモチ	9月	東扇島付近	3,486	28	124	1,245	36	1.1未満	1.2未満	0.4未満	0.5未満
27	メジナ	9月	京浜運河	3,276	9	364	1,155	35	1.1未満	1.1未満	0.5未満	0.4未満
28	タナゴ	9月	浮島付近	3,715	21	177	1,181	32	1.2未満	1.2未満	0.7未満	0.5未満
29	コノシロ	9月	浮島付近	3,051	13	235	1,365	45	1.4未満	1.0未満	0.5未満	0.4未満
30	スズキ	10月	東扇島付近	3,679	8	460	1,377	37	1.4未満	1.3未満	0.5未満	0.4未満
31	カマス	10月	東扇島付近	3,248	26	125	1,754	54	1.3未満	1.3未満	0.4未満	0.30
32	イシモチ	10月	東扇島付近	3,311	24	138	1,115	34	1.1未満	1.4未満	0.5未満	0.4未満
33	タナゴ	10月	浮島付近	3,430	22	156	1,156	34	1.2未満	1.1未満	0.5未満	0.4未満
34	コノシロ	10月	浮島付近	3,980	20	199	1,682	42	1.6未満	1.2未満	0.5未満	0.5未満
35	スズキ	11月	東扇島付近	3,182	6	530	1,134	36	1.2未満	1.0未満	0.5未満	0.36
36	メバル	11月	東扇島付近	3,428	15	229	1,029	30	1.1未満	1.5未満	0.5未満	0.4未満
37	タナゴ	11月	浮島付近	3,586	21	171	1,387	39	1.1未満	1.1未満	0.5未満	0.4未満
38	メジナ	11月	浮島付近	3,319	15	221	1,153	35	1.3未満	1.2未満	0.5未満	0.4未満
39	コショウダイ	11月	浮島付近	3,360	24	140	1,085	32	1.4未満	1.0未満	0.5未満	0.4未満
40	スズキ	12月	浮島付近	3,577	10	358	1,384	39	1.5未満	1.2未満	0.6未満	0.60
41	カサゴ	12月	浮島付近	3,322	21	158	979	29	1.4未満	1.5未満	0.5未満	0.5未満
42	メバル	12月	浮島付近	3,279	18	182	990	30	1.2未満	1.0未満	0.5未満	0.5未満
43	メジナ	12月	東扇島付近	3,145	9	349	1,126	36	1.3未満	1.3未満	0.5未満	0.4未満
44	コノシロ	12月	東扇島付近	3,187	17	187	1,384	43	1.3未満	1.2未満	0.5未満	0.4未満
45	スズキ	1月	浮島付近	3,865	3	1,288	1,278	33	1.2未満	1.2未満	0.5未満	0.4未満
46	カサゴ	1月	浮島付近	3,258	19	171	1,054	32	1.2未満	1.1未満	0.5未満	0.4未満
47	タナゴ	1月	東扇島付近	3,534	24	147	1,175	33	1.5未満	1.6未満	0.5未満	0.5未満
48	コノシロ	1月	東扇島付近	3,383	16	211	1,297	38	1.1未満	1.2未満	0.5未満	0.4未満
49	スズキ	2月	東扇島付近	3,484	5	697	1,081	31	1.4未満	1.1未満	0.4未満	0.53
50	カサゴ	2月	東扇島付近	3,141	17	185	1,119	36	1.2未満	1.2未満	0.4未満	0.4未満
51	メバル	2月	東扇島付近	3,465	22	158	1,056	30	1.2未満	1.1未満	0.4未満	0.4未満
52	ボラ	2月	京浜運河	4,022	4	1,005	1,471	37	1.1未満	1.3未満	0.4未満	0.4未満
53	スズキ	3月	東扇島付近	3,738	4	935	1,423	38	1.4未満	1.1未満	0.6未満	0.34
54	クロダイ	3月	東扇島付近	3,682	5	736	1,490	40	1.2未満	1.1未満	0.5未満	0.38
55	メジナ	3月	京浜運河	3,791	2	1,896	1,406	37	1.4未満	1.2未満	0.5未満	0.4未満
56	ボラ	3月	京浜運河	3,471	3	1,157	1,476	43	1.3未満	1.2未満	0.4未満	0.4未満

※魚体全重量における可食部重量比

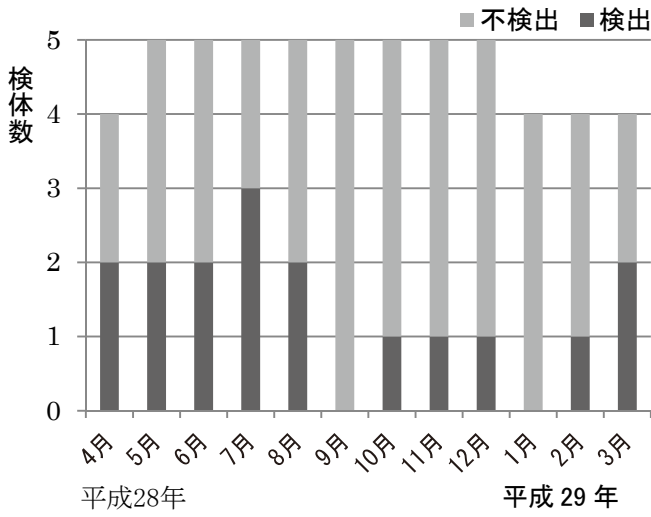


図2 月別検出結果

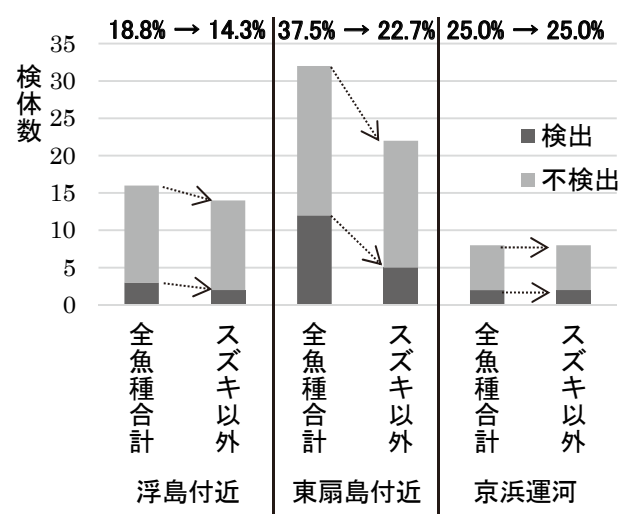


図3 採取海域別検出結果

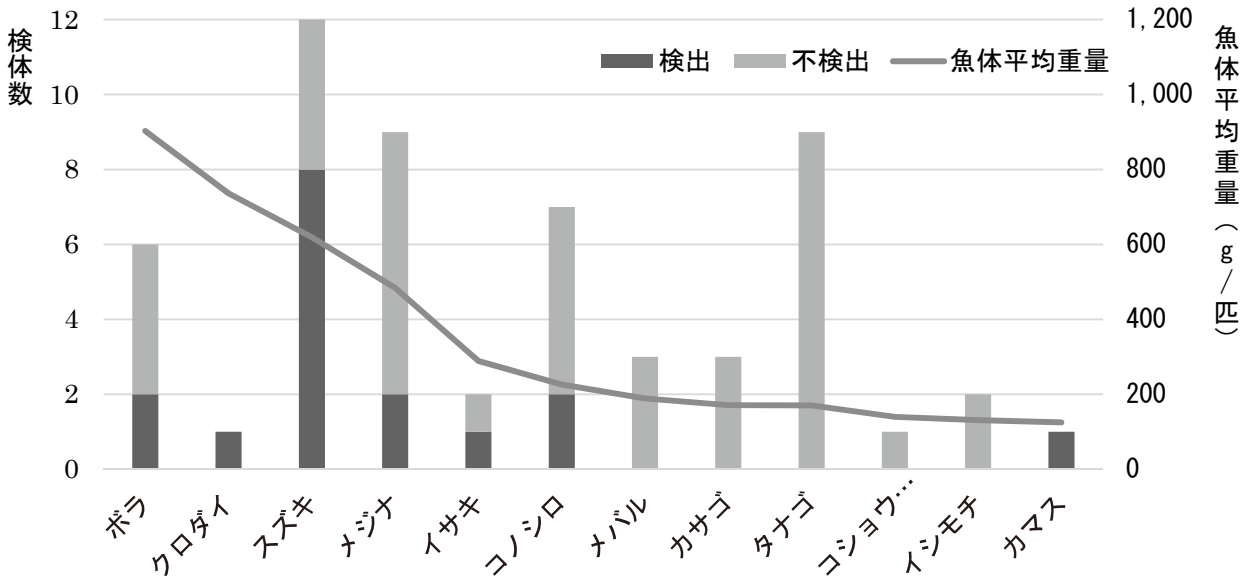


図4 魚種別検出結果

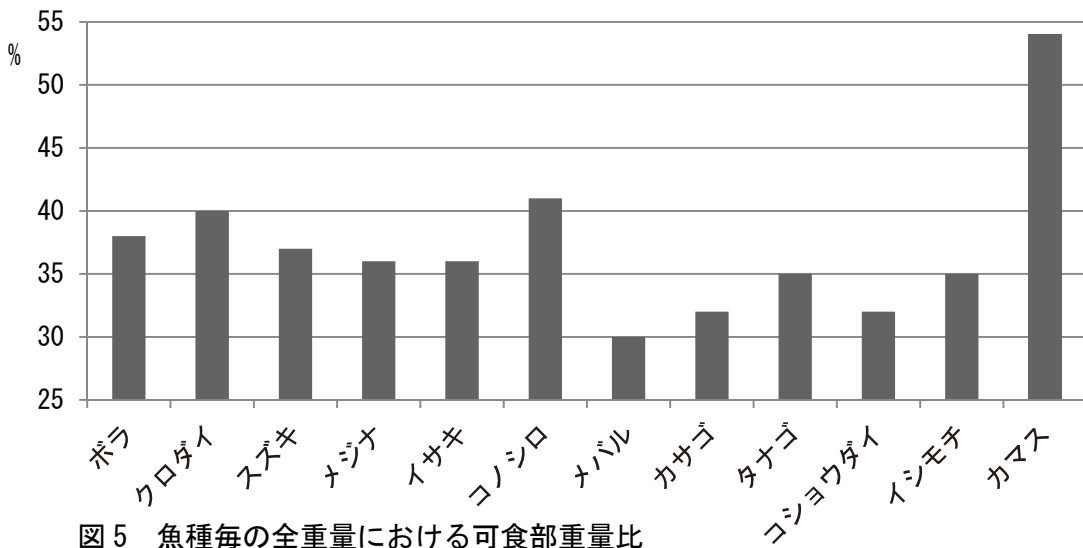


図5 魚種毎の全重量における可食部重量比

【まとめ】

当所では平成 25 年度の焼却灰の水面埋立再開にあたり、川崎港生息魚類に対して放射性物質濃度測定を行ってきた。その検出率は年々減少傾向にあり、平成 28 年度の測定結果は全て不検出であった。福島第一原発事故による海水汚染も放射性物質の希釈・拡散、凝集沈殿により低減してきたと言われており⁴⁾、また放射性物質が検出された焼却灰へのゼオライトを用いた安全対策により、焼却灰の埋立による魚類への影響もほとんど無いと考えられた。

そこで今回、より低いレベルでの放射能汚染状況を調査することを目的に、2,000 秒測定と併せて、10,000 秒での測定を行った結果、一部の魚種に Cs137 を検出した。しかし、その検出には季節性や採取海域別での顕著な違いは認められなかった。一方、魚種別測定結果では平均重量が 200g 以上の魚種に検出が認められ、200g 未満の魚種ではカマスを除き全て不検出であった。海水魚は浸透圧の影響から放射性物質を体外に放出し易いことが知られているが⁴⁾、海水中に微量に存在する放射性物質が、食物連鎖・飲水量等の影響から、若干ではあるが比較的大きい魚種において放射性物質を検出する結果に繋がったと考えられる。

平成 23 年 3 月に起きた福島第一原発事故より約 7 年が経過した。この事故によりもたらされた川崎港における海水の汚染は現在では限りなく低いものであると考えられ、今後も海水中での放射性物質の更なる拡散・希釈、Cs の半減期による放射性物質そのものの減少等から、ほぼ無くなっていくものと推測される。平成 25 年の焼却灰の埋立再開を受けて開始した 4 年間のモニタリング検査において、その経年による消失が確認できたことは、市民の安心・安全に寄与するものとする。今後も、放射性物質測定業務を本市における衛生行政に役立てていきたい。

【参考文献】

- 1) 平成 25 年 3 月 12 日 川崎市環境局環境委員会資料「ごみ焼却灰(ばいじん)の試験的埋立の実施について」
- 2) 平成 29 年 4 月 27 日 川崎市環境局環境委員会資料「ごみ保管灰の安全な処分等に向けた取組について」
- 3) 平成 24 年 3 月 15 日 食安発 0315 第 4 号 厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知「食品中の放射性物質の試験法について」
- 4) 水産庁 HP「水産物における放射性物質について」http://www.jfa.maff.go.jp/j/kakou/Q_A/pdf/qanda_j.pdf

【第5章 職員に関する事項】

1 人事記録

(1) 異動(出)

年月日	役職	氏名	配属先
H29.4.1	課長補佐	中村 悦子	宮前区役所保健福祉センター高齢・障害課 課長補佐 介護認定給付係長
H29.4.1	担当係長	熊谷 信広	麻生区役所区民サービス部保険年金課 国保給付・医療費助成係長
H29.4.1	担当係長	石川 真理子	建設緑政局夢見ヶ崎動物公園 担当係長
H29.4.1		小河内 麻衣	健康福祉局保健所中央卸売市場食品衛生検査所

(2) 異動(入)

年月日	役職	氏名	前所属
H29.4.1	担当係長	佐藤 剛一	健康福祉局保健医療政策室 担当係長
H29.4.1	担当係長	谷口 晃子	多摩区役所保健福祉センター衛生課主任
H29.4.1		阿部 光一郎	健康福祉局保健所中央卸売市場食品衛生検査所
H29.4.1		若菜 愛澄	新任

(3) 内部異動

年月日	役職	氏名	前所属
H29.4.1	課長補佐	橋口 成喜	昇任
H29.4.1	主任	原 俊吉	昇任

2 職員名簿（平成 29 年 4 月 1 日現在）

担当理事
（所長） 技術職員 岡部 信彦

担当部長
（副所長） 事務職員 中島 健志

〔総務〕

担当係長 事務職員 佐藤 剛一
主任 同 渡部 喜則
主任 同 藤田 智丈
主任 技術職員 梅田 裕一
事務職員 上野 彩子

〔企画調整〕

担当部長 技術職員 三崎 貴子

〔企画調整〕

担当係長 技術職員 谷口 晃子
同 遠藤 康寿

〔感染症情報センター〕

担当係長 技術職員 丸山 絢
同 池田 史朗
同 新田 礼子

〔理化学〕

担当課長 技術職員 福田 依美子

〔食品〕

課長補佐 技術職員 橋口 成喜
主任 同 佐藤 英子
主任 同 赤星 千絵
同 栗田 史子
同 鏡淵 涉

〔水質・環境〕

担当係長 技術職員 石丸 陽子
担当係長 同 小林 亨
同 安宅 香織
同 牛山 温子
同 高居 久義

〔残留農薬・放射能〕

担当係長 技術職員 岸 美紀
主任 同 佐野 達哉
同 荒木 啓佑
同 江崎 康司

〔微生物〕

担当課長 技術職員 松尾 千秋

〔消化器・食品細菌〕

課長補佐 技術職員 本間 幸子
同 阿部 光一朗
同 窪村 亜希子
同 佐々木 国玄
同 安澤 洋子

〔呼吸器・環境細菌〕

担当係長 技術職員 湯澤 栄子
主任 同 原 俊吉
同 淀谷 雄亮

〔ウイルス・衛生動物〕

課長補佐 技術職員 清水 英明
主任 同 駒根 綾子
同 松島 勇紀
同 清水 智美
同 若菜 愛澄

平成 29 年度
川崎市健康安全研究所年報
第 5 号(通巻第 53 号)

平成 30 年度発行

発行・編集 川崎市健康安全研究所

所在地 〒210-0821

川崎市川崎区殿町 3-25-13

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2 階

TEL 044(276)8250

FAX 044(288)2044

印刷 清光堂印刷株式会社